

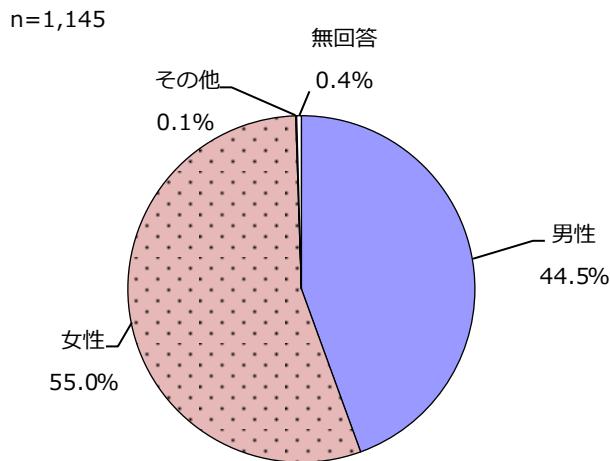
II 調査結果

1 回答者属性

(1) 性別

F1 性別

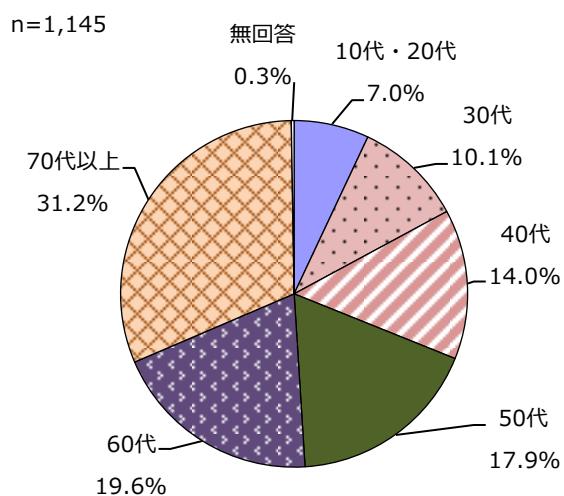
性別は、「男性」が44.5%、「女性」が55.0%となっています。



(2) 年齢

F2 年齢

年齢は、「70代以上」が31.2%と最も高く、次いで「60代」が19.6%、「50代」が17.9%と続いており、年齢が上がるほど回答割合が高い傾向にあります。

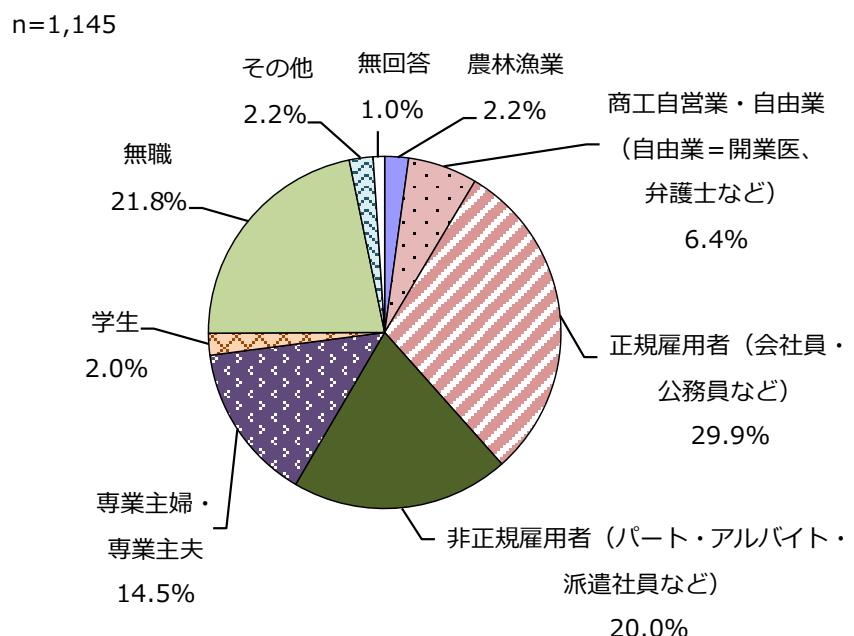


II 調査結果

(3) 職業

F3 職業(※主な職業に○をしてください)

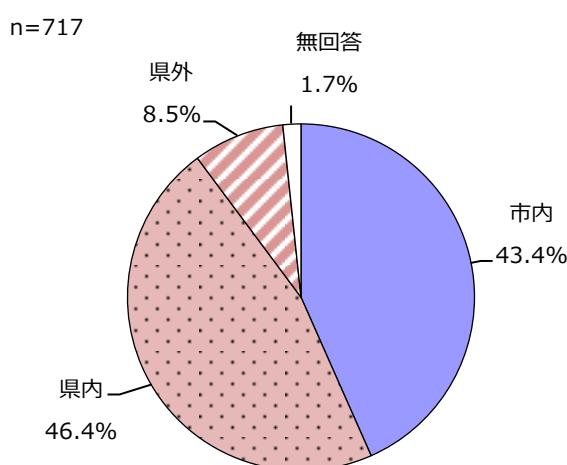
職業は、「正規雇用者（会社員・公務員など）」が29.9%と3割を占めて最も高く、次いで「無職」が21.8%、「非正規雇用者（パート・アルバイト・派遣社員など）」が20.0%と2割程度を占めています。



(4) 職場（通学地）の所在地

F4 職場(通学地)の所在地

職場や通学地の所在地は、「県内」が46.4%、「市内」が43.4%と4割台で、二つ合わせた“（三島市を含む）県内”で9割を占めています。

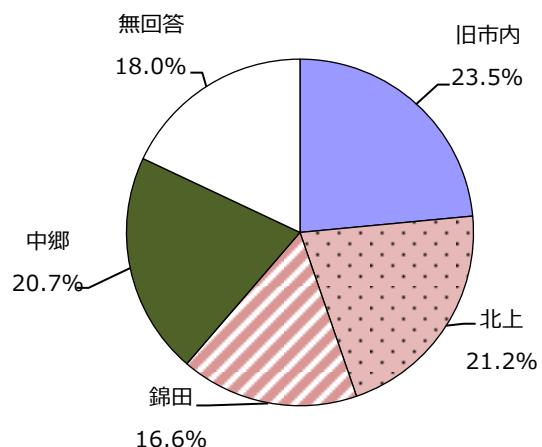


(5) 居住地区

F5 居住地区

居住地区は、「旧市内」(23.5%)、「北上」(21.2%)、「中郷」(20.7%) が2割台、「錦田」が16.6%となっています。

n=1,145

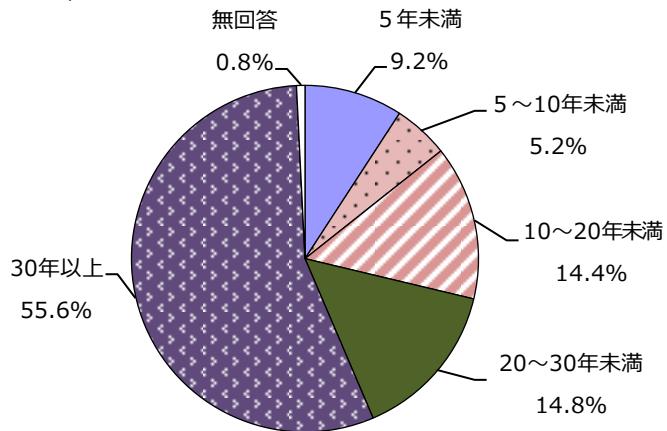


(6) 三島市在住歴

F6 三島市在住歴

三島市の在住歴は、「30年以上」が55.6%と5割半ばを占めて最も高く、次いで「20~30年未満」が14.8%、「10~20年未満」が14.4%と続いており、「10年以上」で8割半ばを占めています。

n=1,145



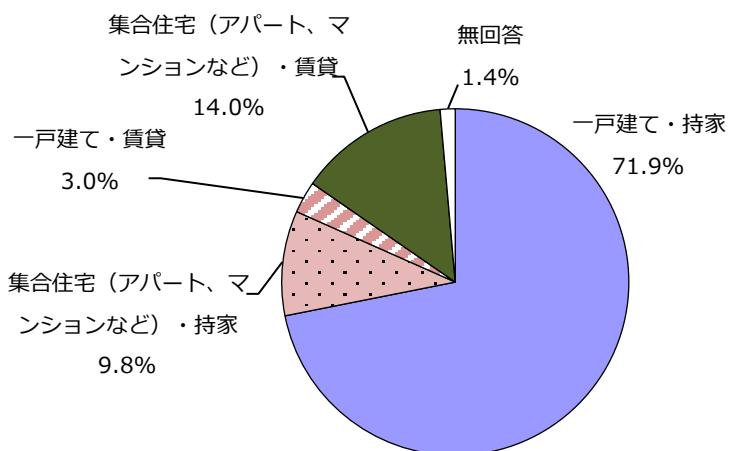
II 調査結果

(7) 住居の種類

F7 お住まいの住宅

住居の種類は、「一戸建て・持家」が71.9%と7割を超えて最も高く、次いで「集合住宅（アパート、マンションなど）・賃貸」が14.0%と続いています。

n=1,145



2 『居住環境』について

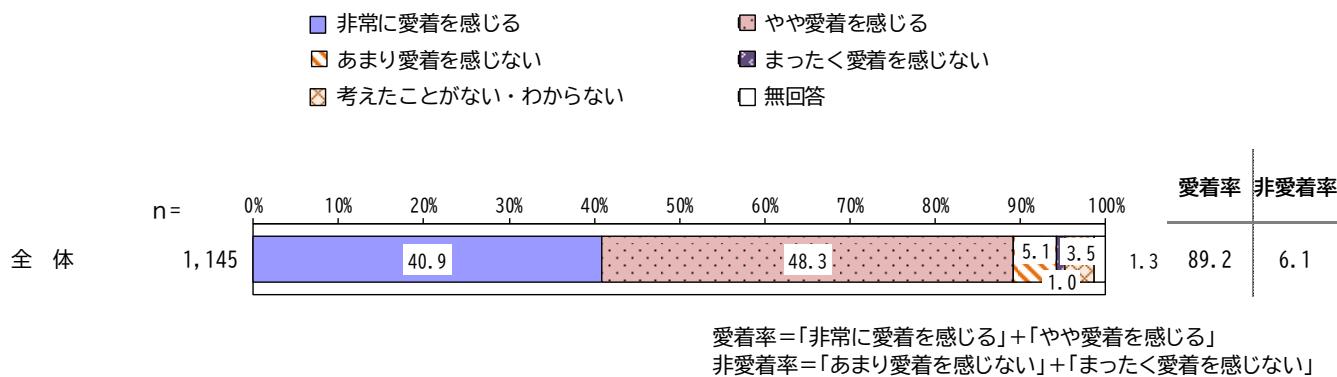
(1) 三島市への愛着

問1 あなたは、三島市に愛着を感じますか。(○は一つ)

- 三島市への“愛着率”は 89.2% -

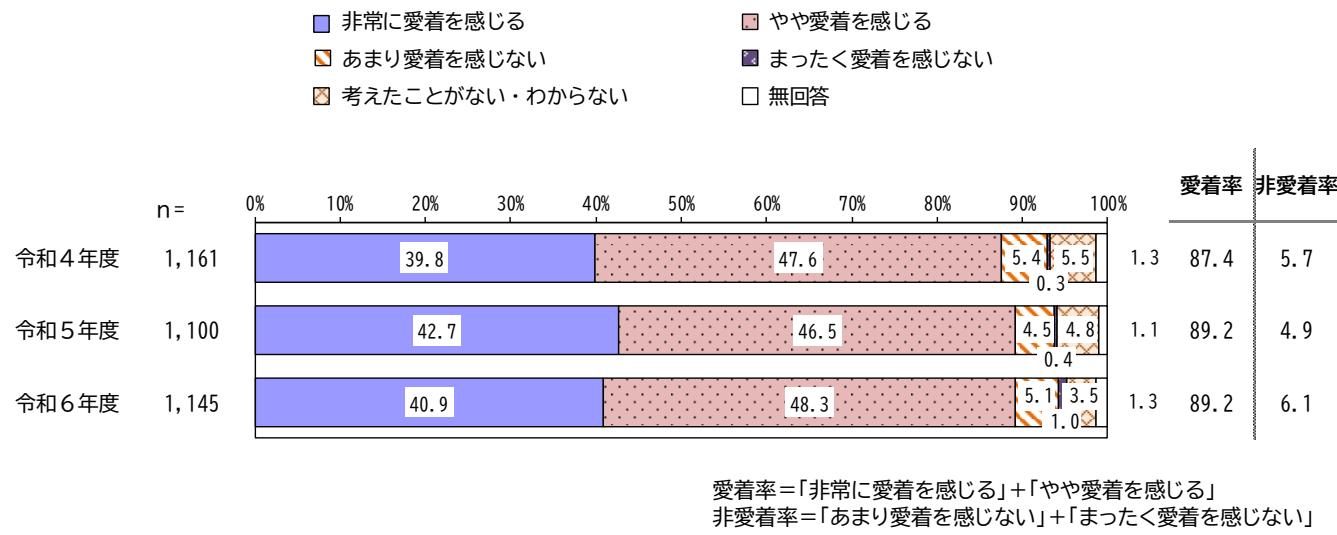
三島市への愛着について、「非常に愛着を感じる」(40.9%) と「やや愛着を感じる」(48.3%) を合わせた“愛着率”は 89.2% と 9割近くを占めています。

一方、「あまり愛着を感じない」(5.1%) と「まったく愛着を感じない」(1.0%) を合わせた“非愛着率”は 6.1% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、“愛着率”は令和5年度から変化ありませんが、“非愛着率”がやや増加しています。



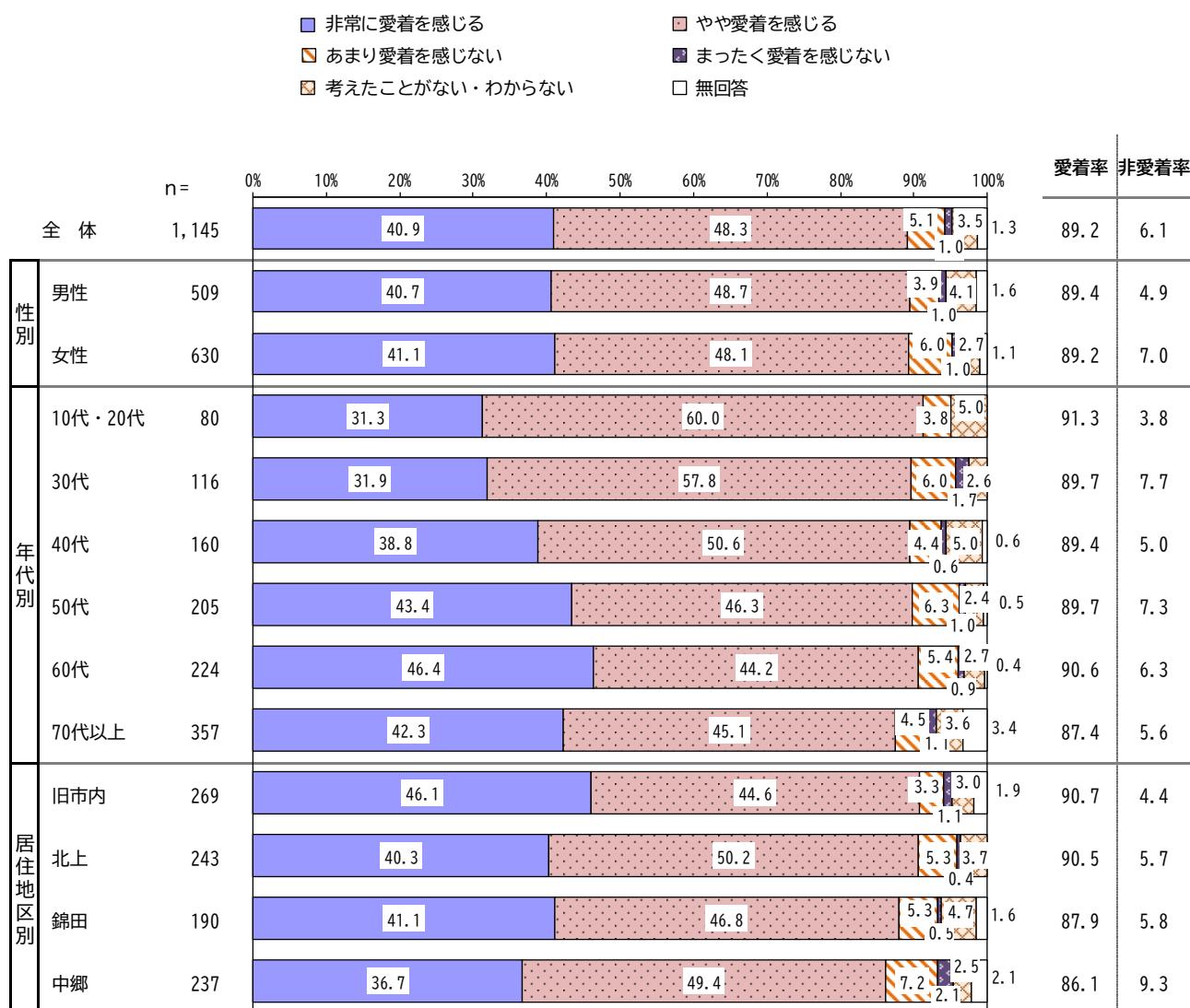
II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、“愛着率”は男女とも9割近くと差はありませんが、“非愛着率”は男性（4.9%）より女性（7.0%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“愛着率”は10～60代で9割前後を占めていますが、70代以上（87.4%）がやや低くなっています。

居住地区別でみると、“非愛着率”は中郷（9.3%）が最も高くなっています。



愛着率＝「非常に愛着を感じる」+「やや愛着を感じる」

非愛着率＝「あまり愛着を感じない」+「まったく愛着を感じない」

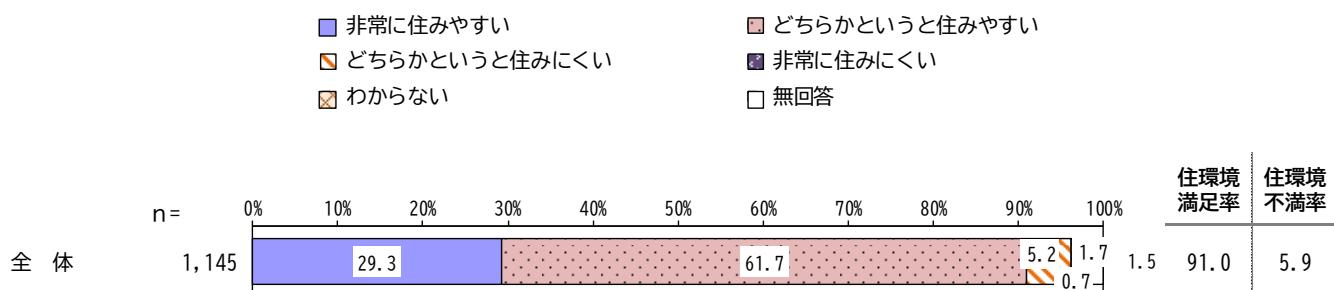
(2) 三島市の住みやすさ

問2 あなたは、三島市が住みやすいところだと思いますか。(○は一つ)

– 三島市が“住みやすい”と感じる人は 91.0% –

三島市の住みやすさについて、「非常に住みやすい」(29.3%) と「どちらかというと住みやすい」(61.7%) を合わせた “住環境満足率” は 91.0% となっています。

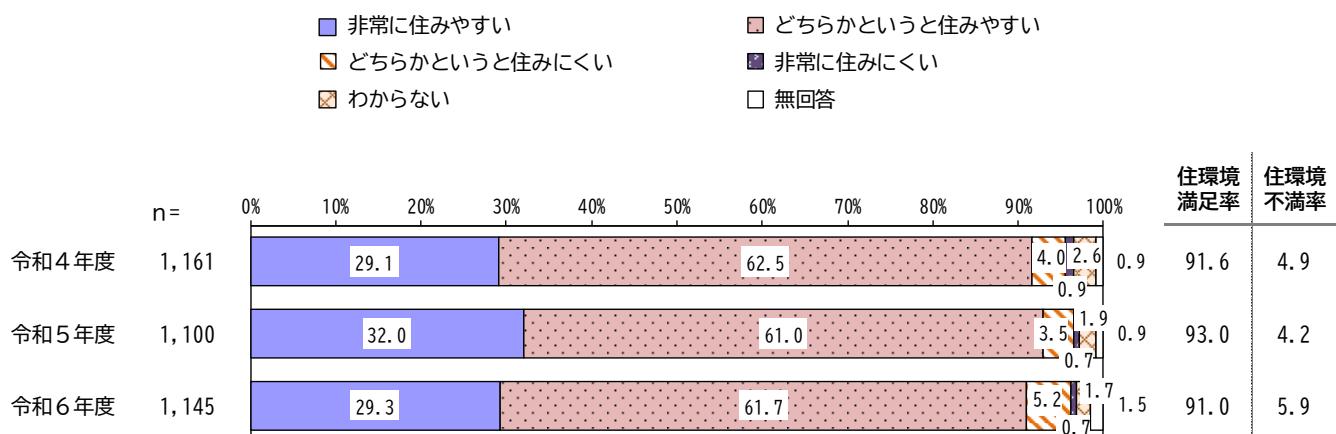
一方、「どちらかというと住みにくい」(5.2%) と「非常に住みにくい」(0.7%) を合わせた “住環境不満率” は 5.9% となっています。



住環境満足率＝「非常に住みやすい」+「どちらかというと住みやすい」
住環境不満率＝「どちらかというと住みにくい」+「非常に住みにくい」

【経年比較】

過去調査と比較すると、“住環境満足率”は令和5年度からやや減少しています。



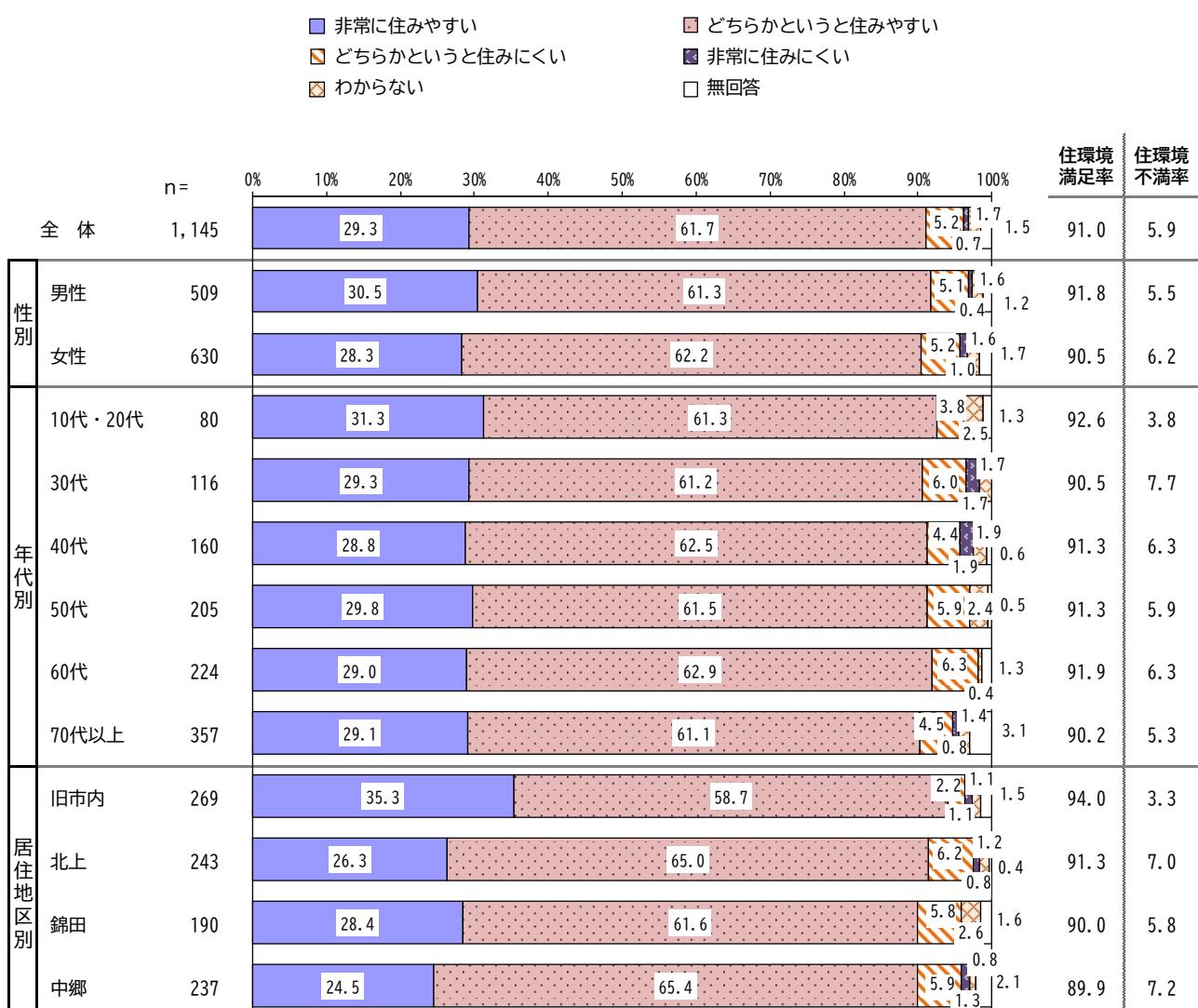
II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、“住環境満足率”（男性 91.8%、女性 90.5%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“住環境満足率”は 10代・20代(92.6%)が、最も高くなっています。

居住地区別でみると、“住環境満足率”は旧市内(94.0%)が、最も高くなっています。



住環境満足率＝「非常に住みやすい」+「どちらかというと住みやすい」

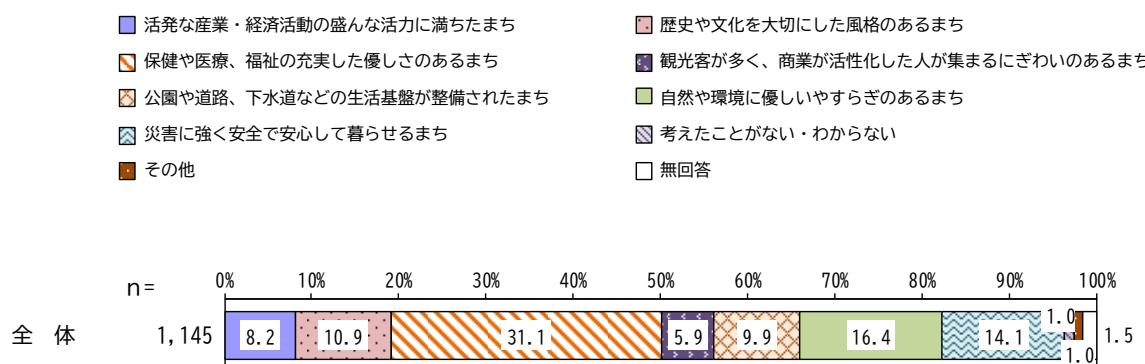
住環境不満率＝「どちらかというと住みにくい」+「非常に住みにくい」

(3) 三島市の将来像

問3 あなたは、三島市が将来どのようなまちになったらよいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(○は一つ)

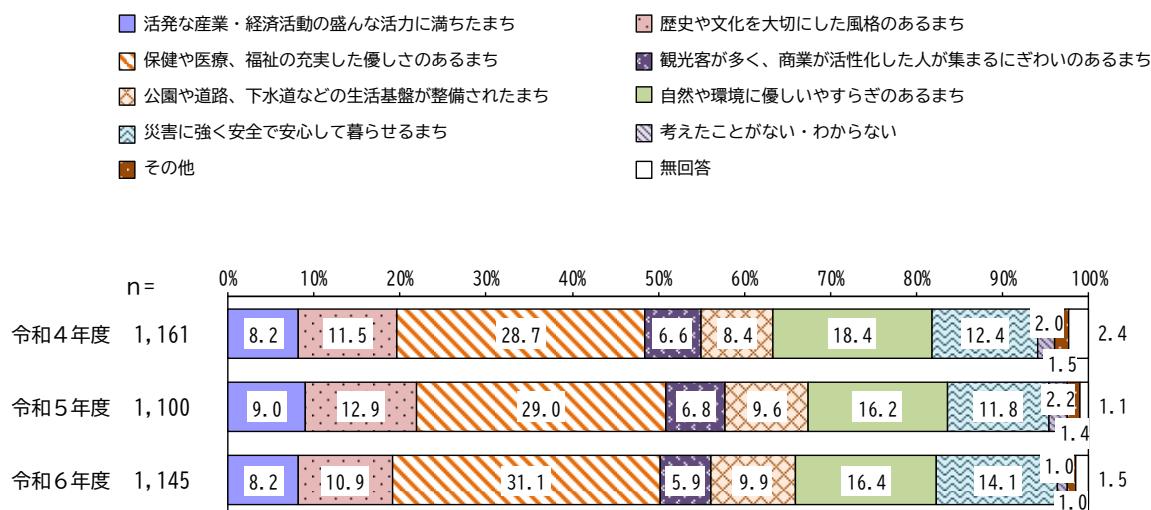
– 三島市の将来像は「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」が 31.1% –

三島市の将来像について、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」の割合が 31.1% と最も高く、次いで「自然や環境に優しいやすらぎのあるまち」が 16.4%、「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」の割合が 14.1% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「災害に強く安全で安心して暮らせるまち」の割合がやや増加しています。



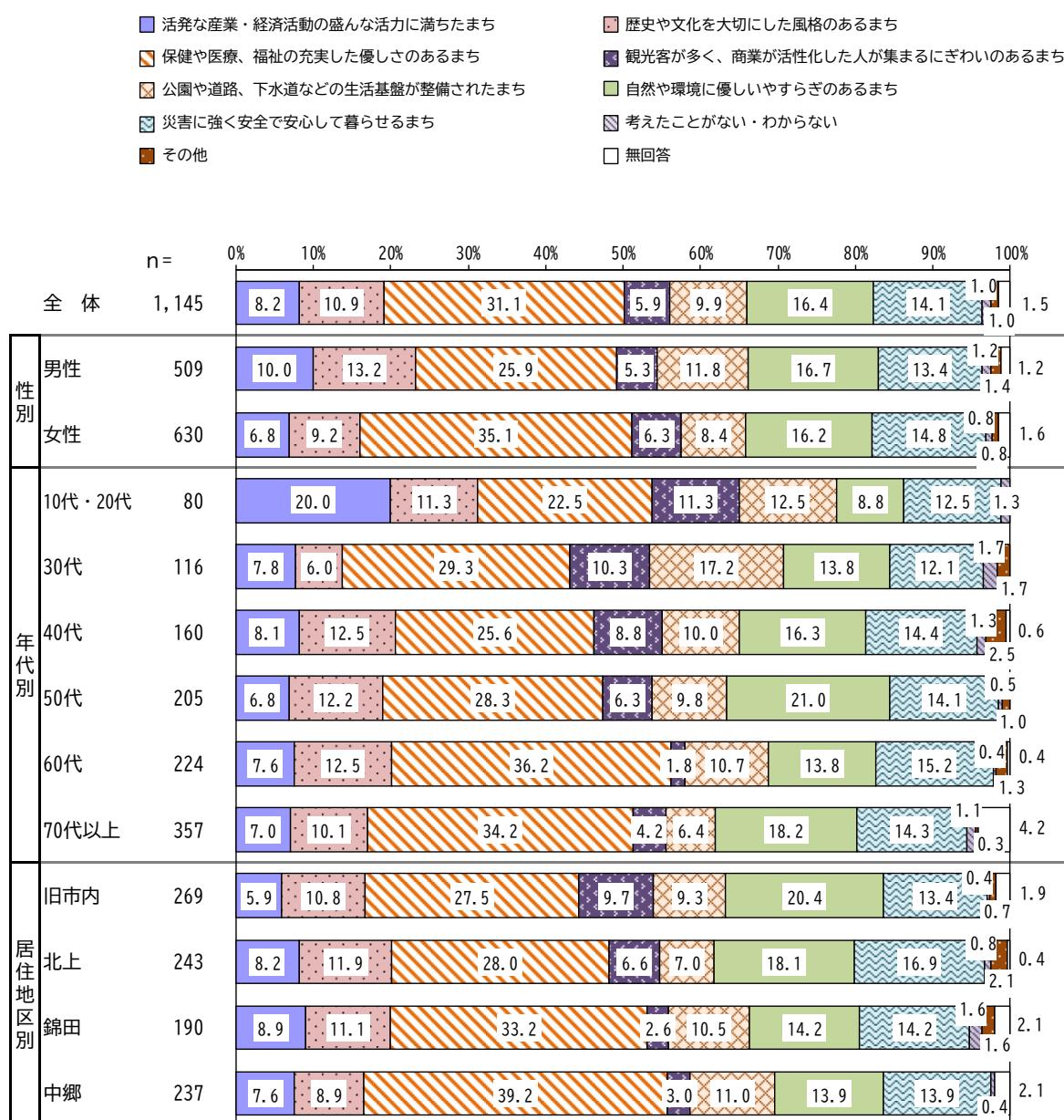
II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は、男性(25.9%)より女性(35.1%)の割合が高くなっています。

年代別でみると、「活発な産業・経済活動の盛んな活力に満ちたまち」は10代・20代(20.0%)、「公園や道路、下水道などの生活基盤が整備されたまち」は30代(17.2%)、「自然や環境に優しいやすらぎのあるまち」は50代(21.0%)が最も高くなっています。また、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は60代と70代以上で3割半ば前後を占めて高くなっています。

居住地区別でみると、「保健や医療、福祉の充実した優しさのあるまち」は、中郷(39.2%)が最も高くなっています。

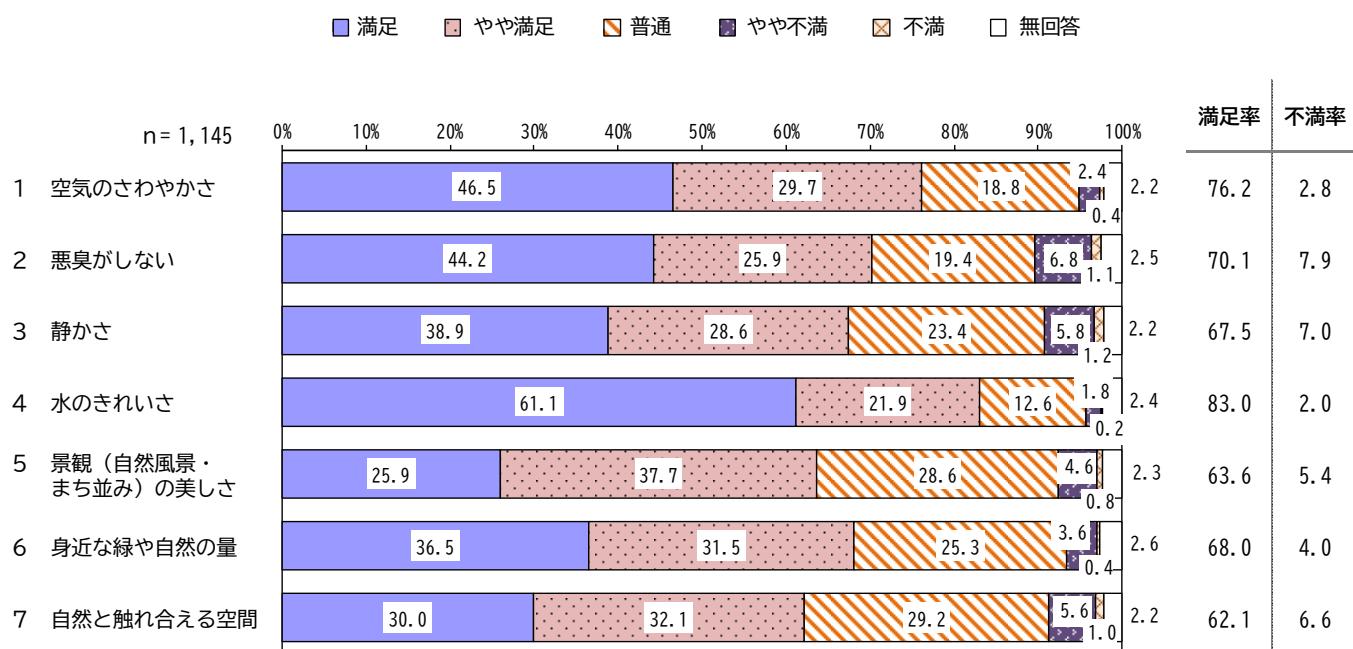


(4) 生活環境の満足度

問4 あなたが住む地域の生活環境の満足度についてお答えください。1~7の項目ごとに該当する番号を選んでください。

- 生活環境の“満足率”が最も高いのは『水のきれいさ』で 83.0% -

生活環境の満足度について、いずれの項目でも「満足」と「やや満足」を合わせた“満足率”が「やや不満」と「不満」を合わせた“不満率”を大きく上回っています。中でも『1 空気のさわやかさ』、『2 悪臭がしない』、『4 水のきれいさ』の“満足率”は7割を超えて高くなっています。



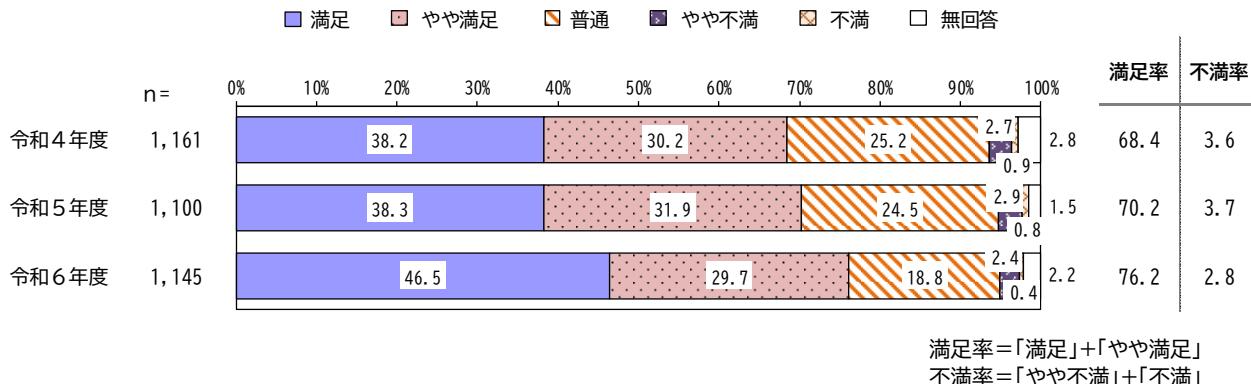
満足率=「満足」+「やや満足」
不満率=「やや不満」+「不満」

II 調査結果

(4)-1 空気のさわやかさ

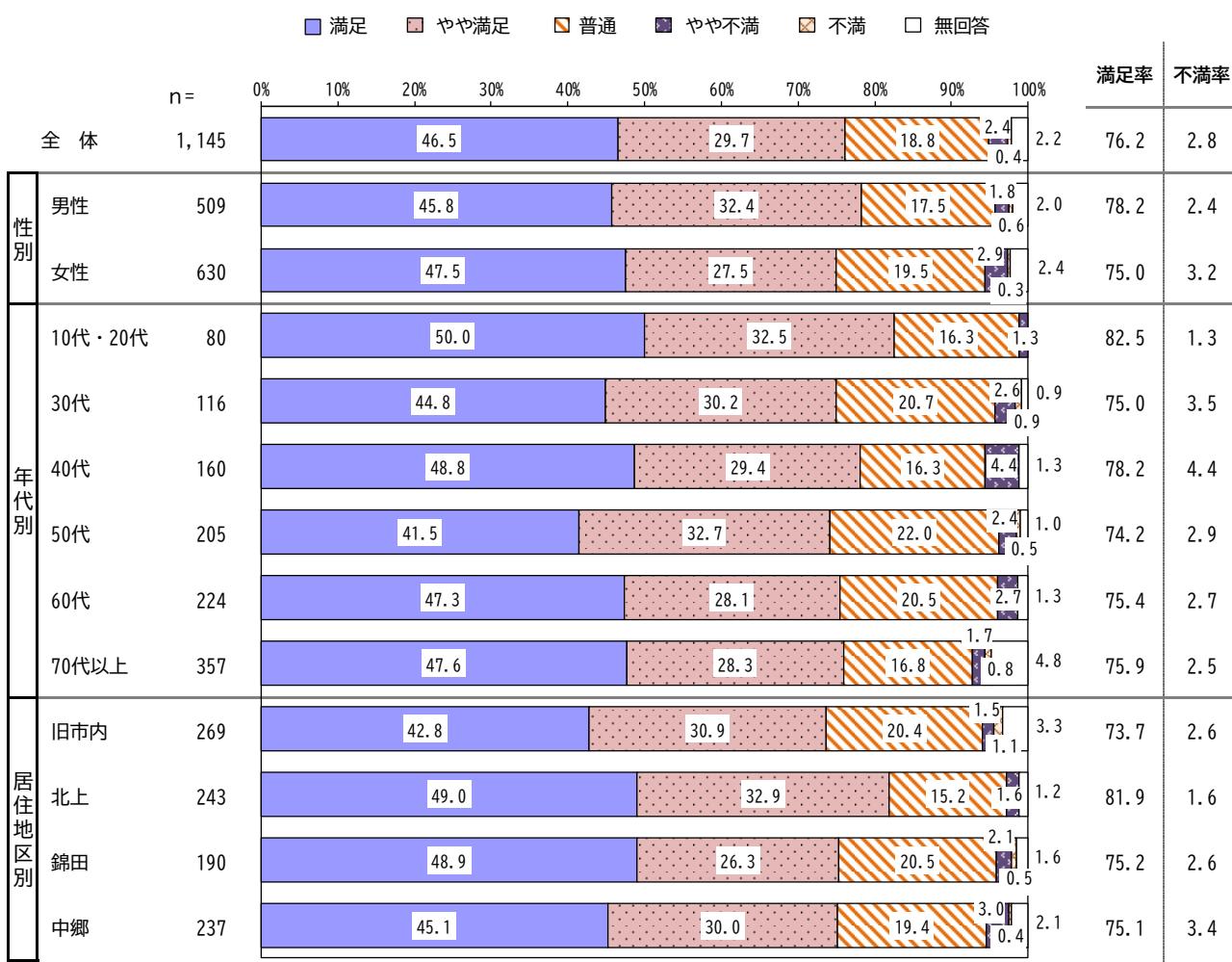
【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度より6.0ポイント上がっています。



【属性別比較】

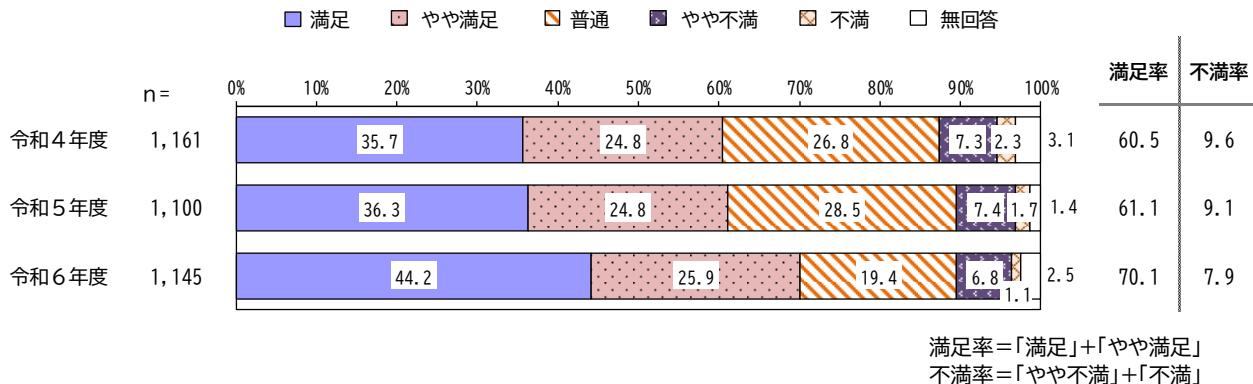
性別でみると、“満足率”は、男性（78.2%）の割合が女性（75.0%）より高くなっています。年代別でみると、“満足率”は、10代・20代（82.5%）で8割を超えて最も高くなっています。居住地区別でみると、“満足率”は、北上（81.9%）が最も高くなっています。



(4)-2 悪臭がしない

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度より9.0ポイント上がっています。

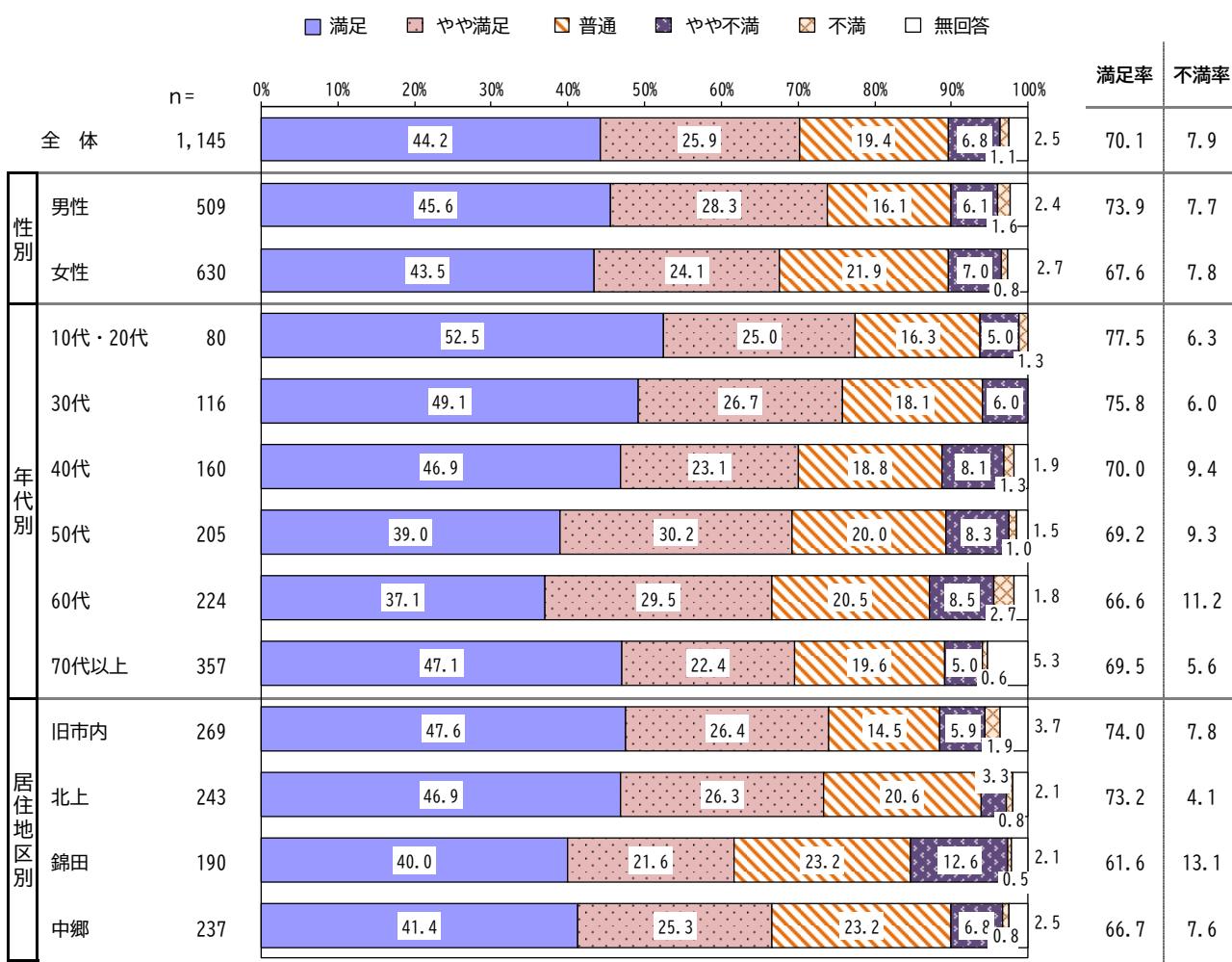


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”は、男性（73.9%）の割合が女性（67.6%）より高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、40代以下の年代で7割以上となっています。

居住地区別でみると、“不満率”は錦田(13.1%)が最も高くなっています。

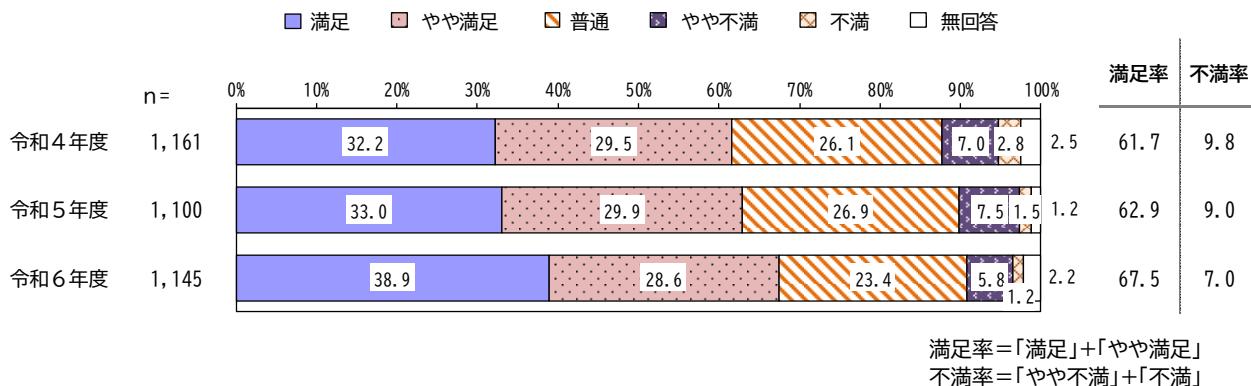


II 調査結果

(4)-3 静かさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は増加傾向にあります。

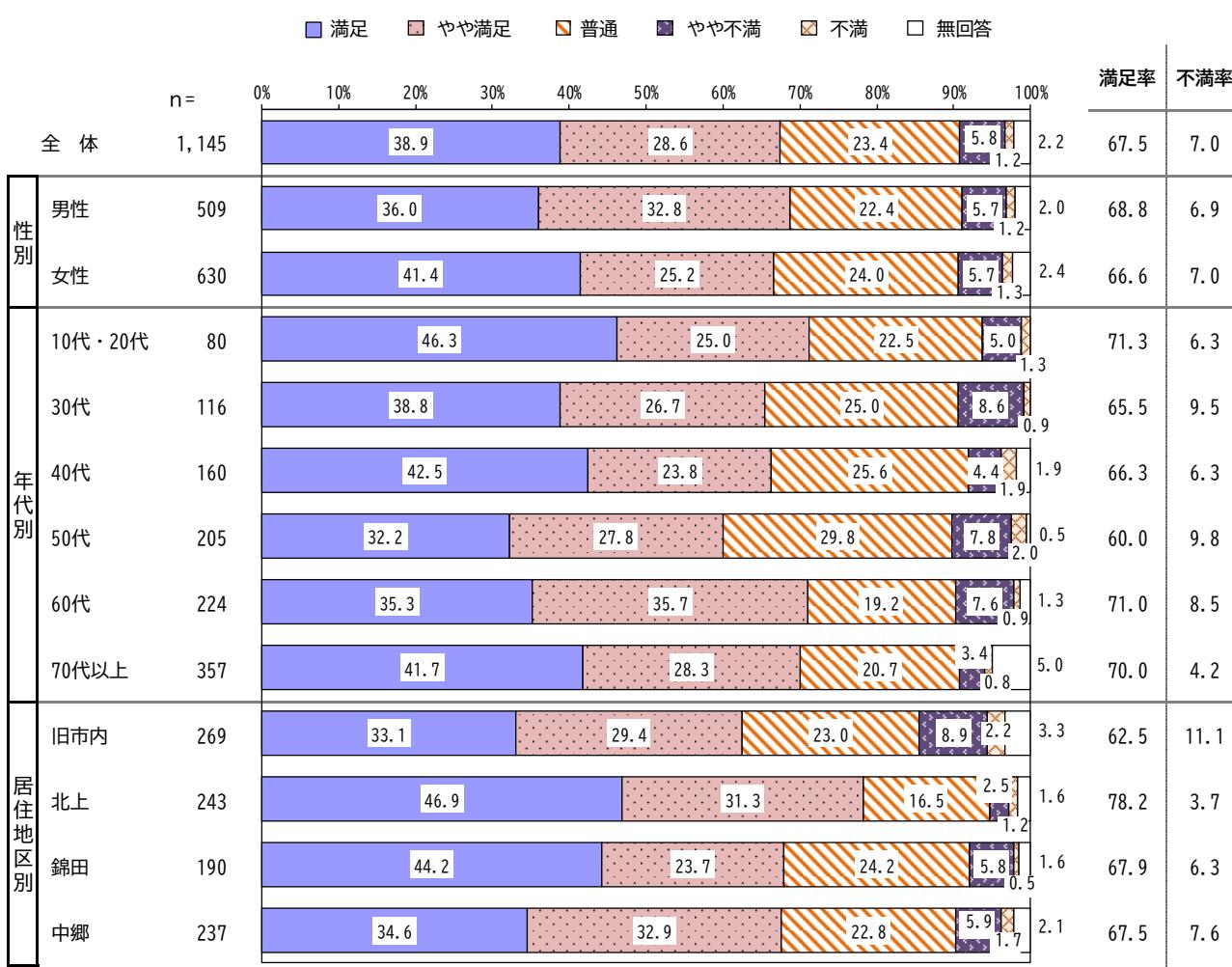


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”は、男性（68.8%）の割合が女性（66.6%）より高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、30～50代で6割台と低くなっています。

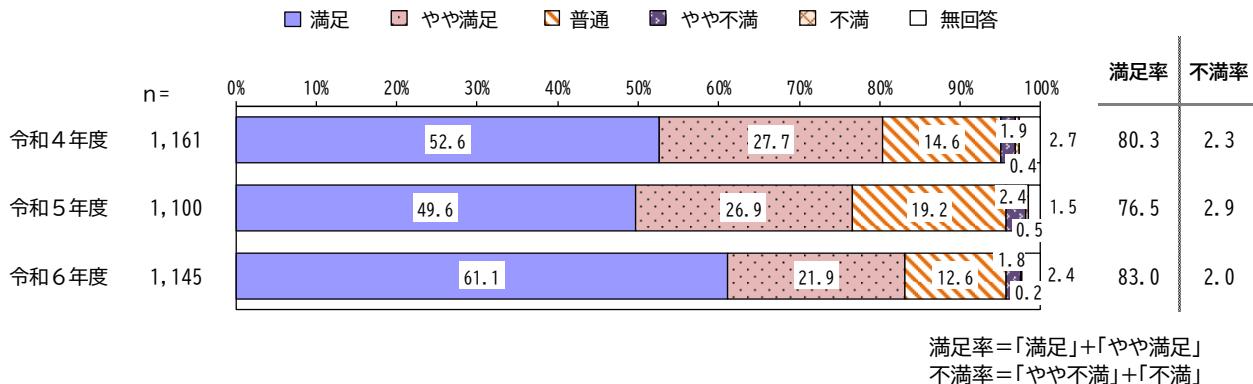
居住地区別でみると、“満足率”は、北上(78.2%)が最も高くなっています。



(4)-4 水のきれいさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度から6.5ポイント上がっています。

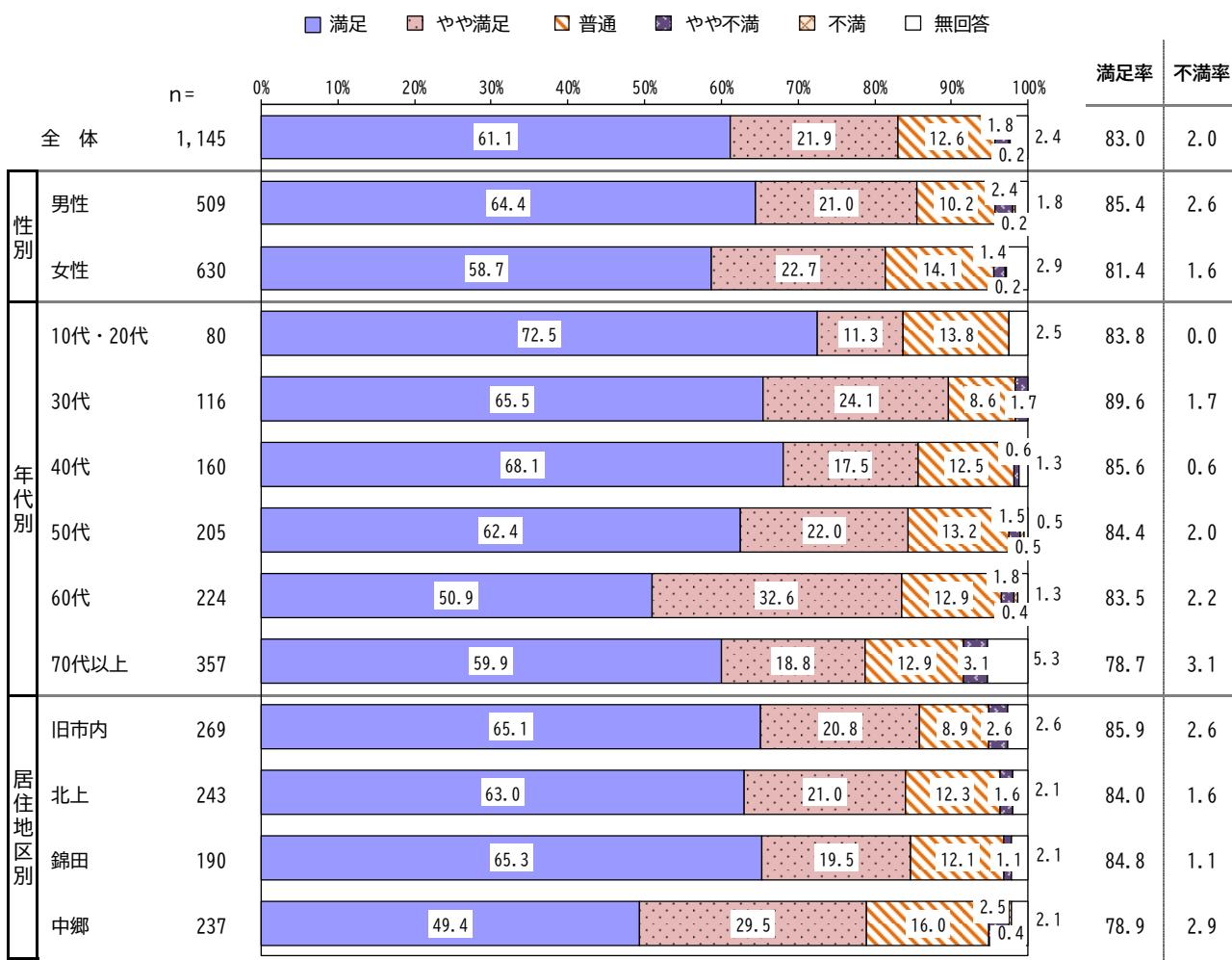


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”は、男性（85.4%）の割合が女性（81.4%）より高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、70代以外の年代でいずれも8割を超えてています。

居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（78.9%）が8割を切ってやや低くなっています。

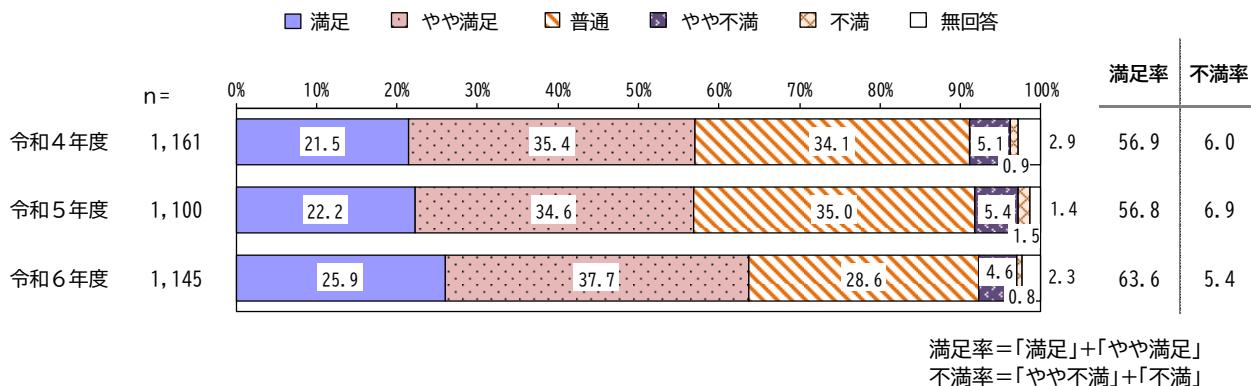


II 調査結果

(4)－5 景観(自然風景・まち並み)の美しさ

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度より6.8ポイント上がっています。

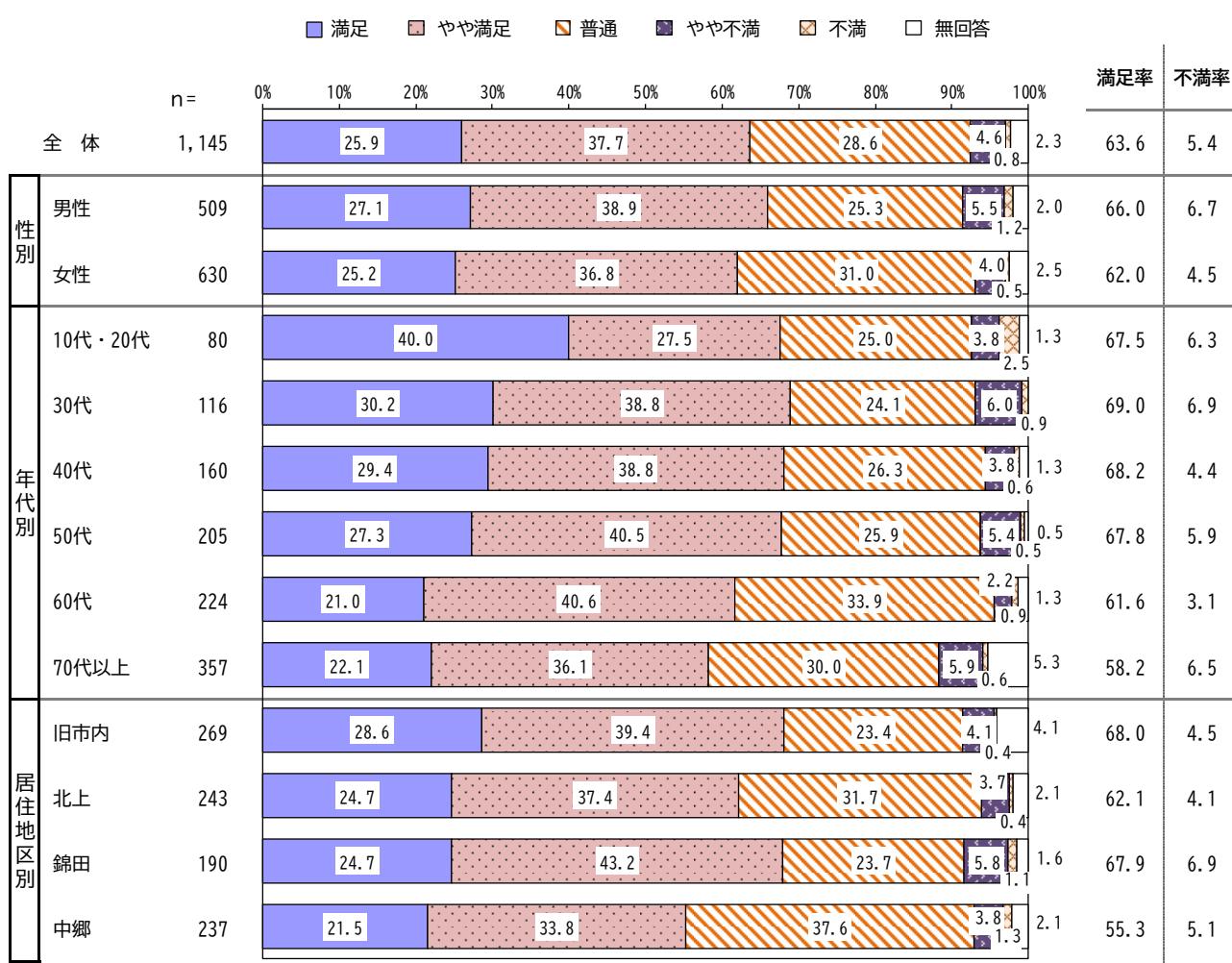


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”は、男性（66.0%）の割合が女性（62.0%）より高くなっています。

年代別でみると、“満足率”は、70代以外の年代でいずれも6割を超えてています。

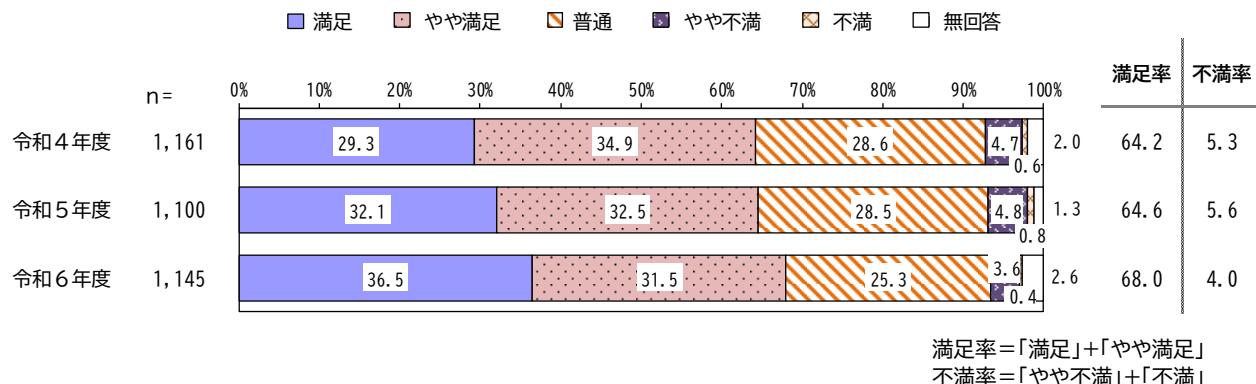
居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（55.3%）が5割半ばで低くなっています。



(4)－6 身近な緑や自然の量

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度より3.4ポイント上がっています。

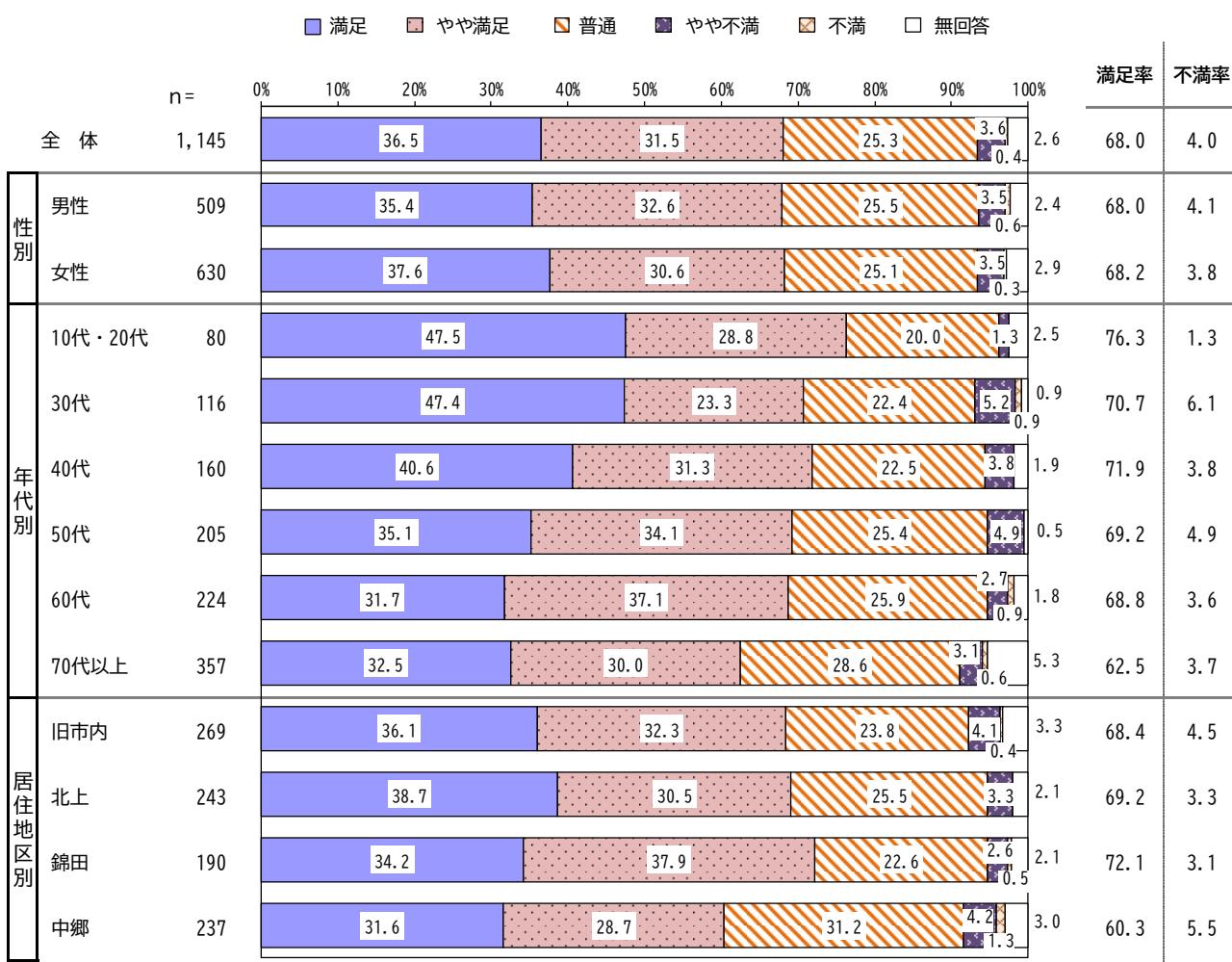


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性68.0%、女性68.2%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足率”は、40代以下の年代で7割を超えてています。

居住地区別でみると、“満足率”は、錦田(72.1%)が最も高くなっています。

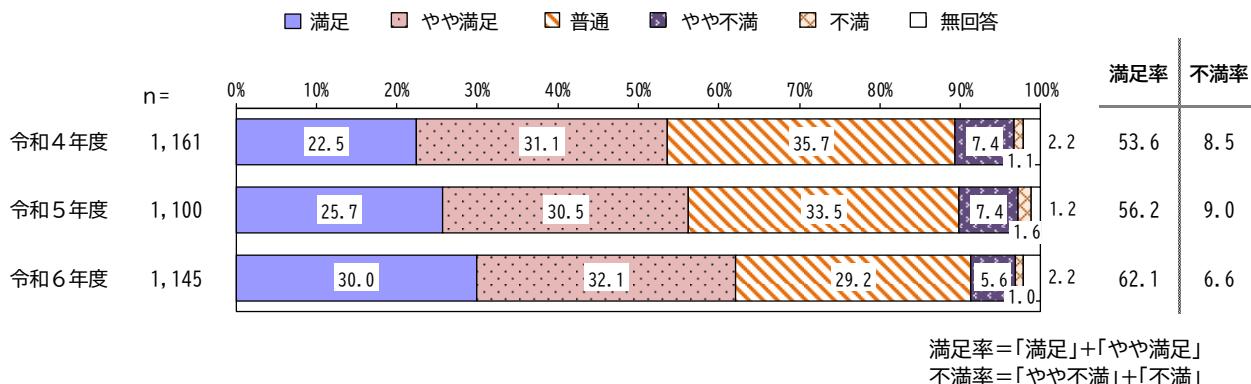


II 調査結果

(4)–7 自然と触れ合える空間

【経年比較】

過去調査と比較すると、“満足率”は令和5年度より5.9ポイント上がっています。

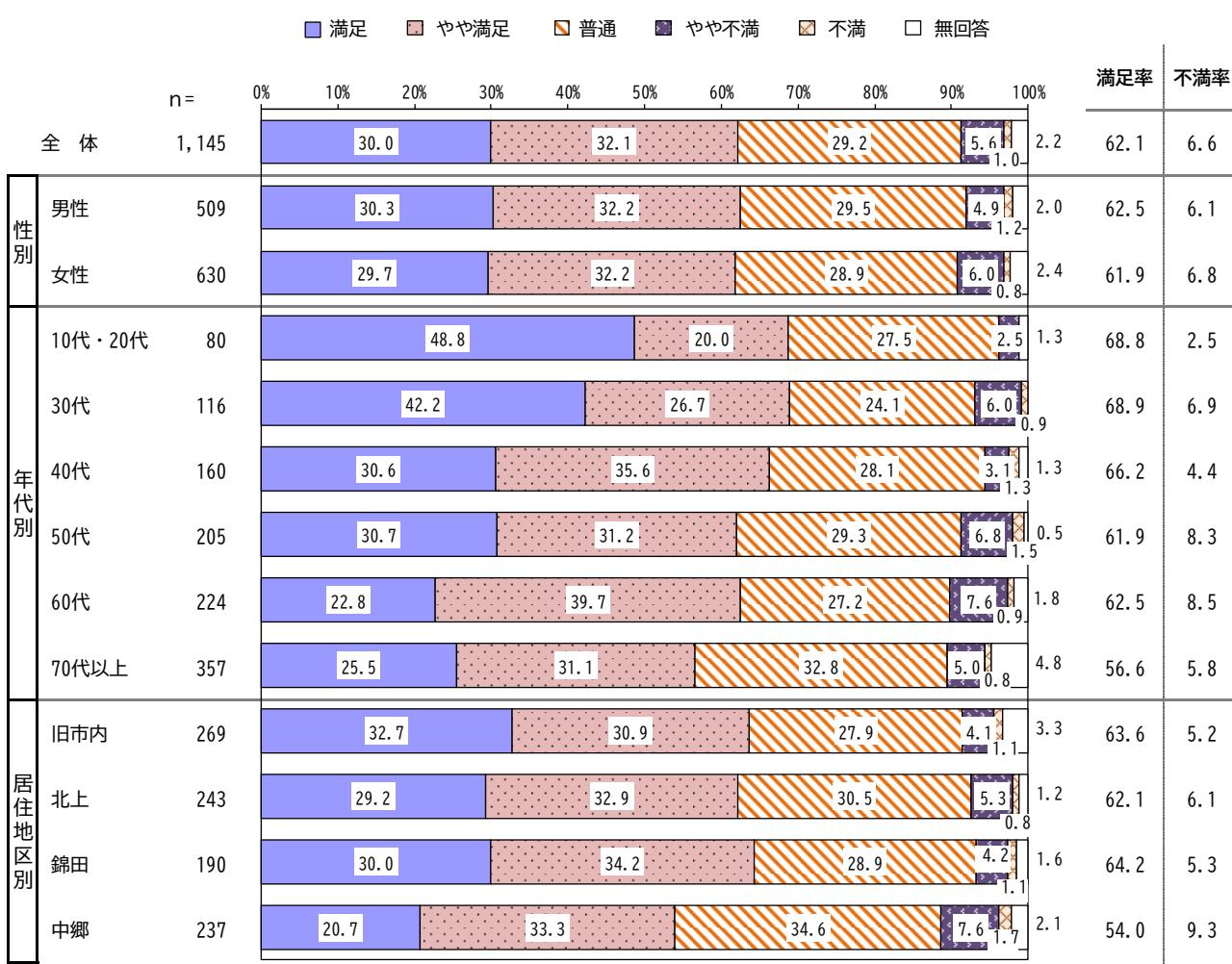


【属性別比較】

性別でみると、“満足率”（男性62.5%、女性61.9%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“満足率”は、70代以外の年代でいずれも6割を超えてています。

居住地区別でみると、“満足率”は、中郷（54.0%）が5割半ば程度で低くなっています。



3 『市の取り組みの満足度』について

(1) 市の取り組みの満足度

問5 毎日の暮らしを通じて、市が行っている施策に対する満足(充実)度についてお答えください。
1~36 の項目ごとに該当する番号を選んでください。

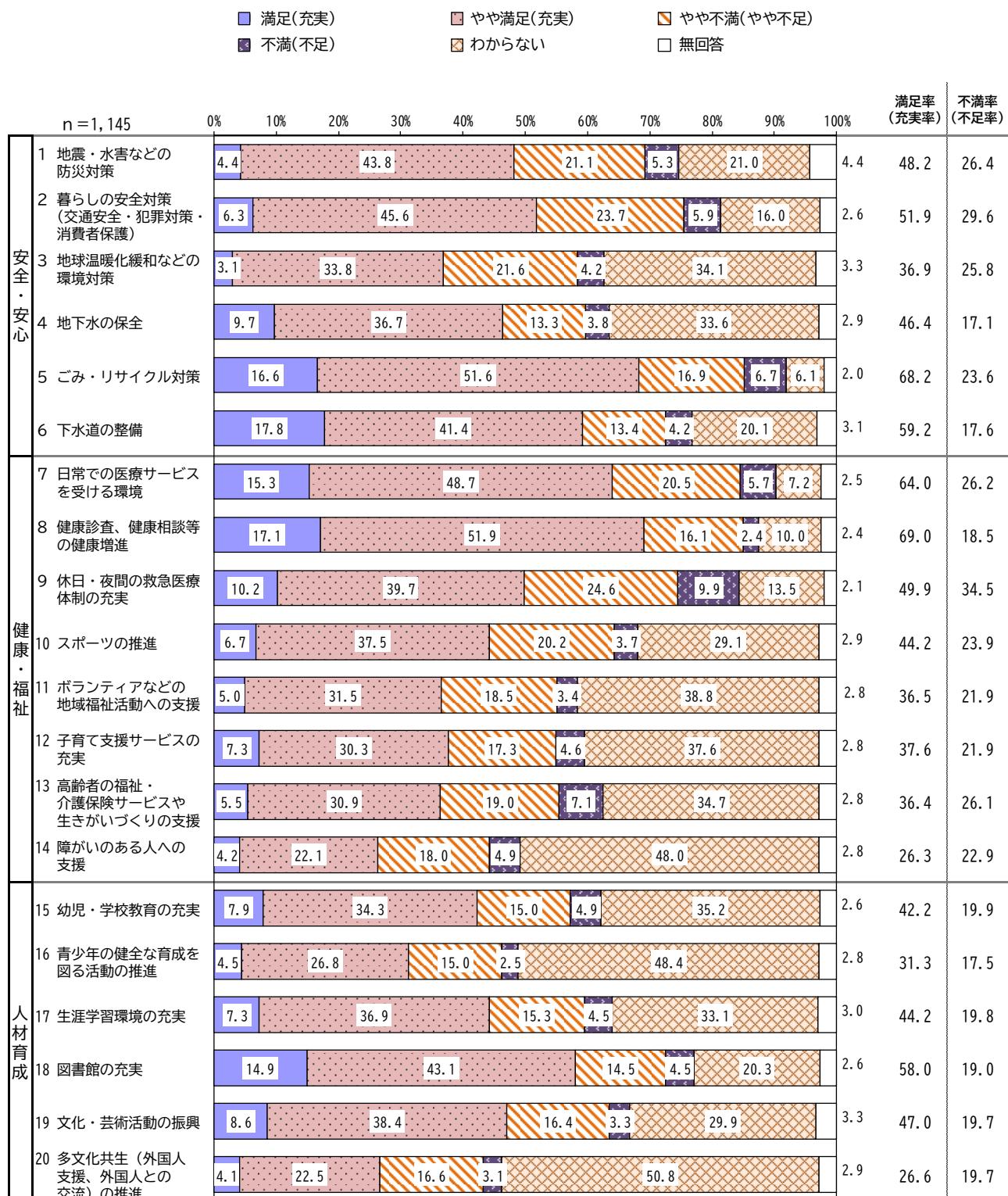
– 三島市の施策の“満足率”は『せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』が 80.5% –

– “不満率”は『生活道路・歩道の整備』が 60.7% –

三島市の施策に対する満足（充実）率について聞いたところ、“満足率”は、安全・安心に関する項目では『5 ごみ・リサイクル対策』(68.2%)、健康・福祉に関する項目では『8 健康診査、健康相談等の健康増進』(69.0%)、人材育成に関する項目では『18 図書館の充実』(58.0%)、交流とにぎわいに関する項目では『22 観光・イベントの振興』(52.3%)、快適なくらしに関する項目では『31 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』(80.5%)、共創に関する項目では『36 「広報みしま」による市政情報の提供』(73.9%) が最も高くなっています。

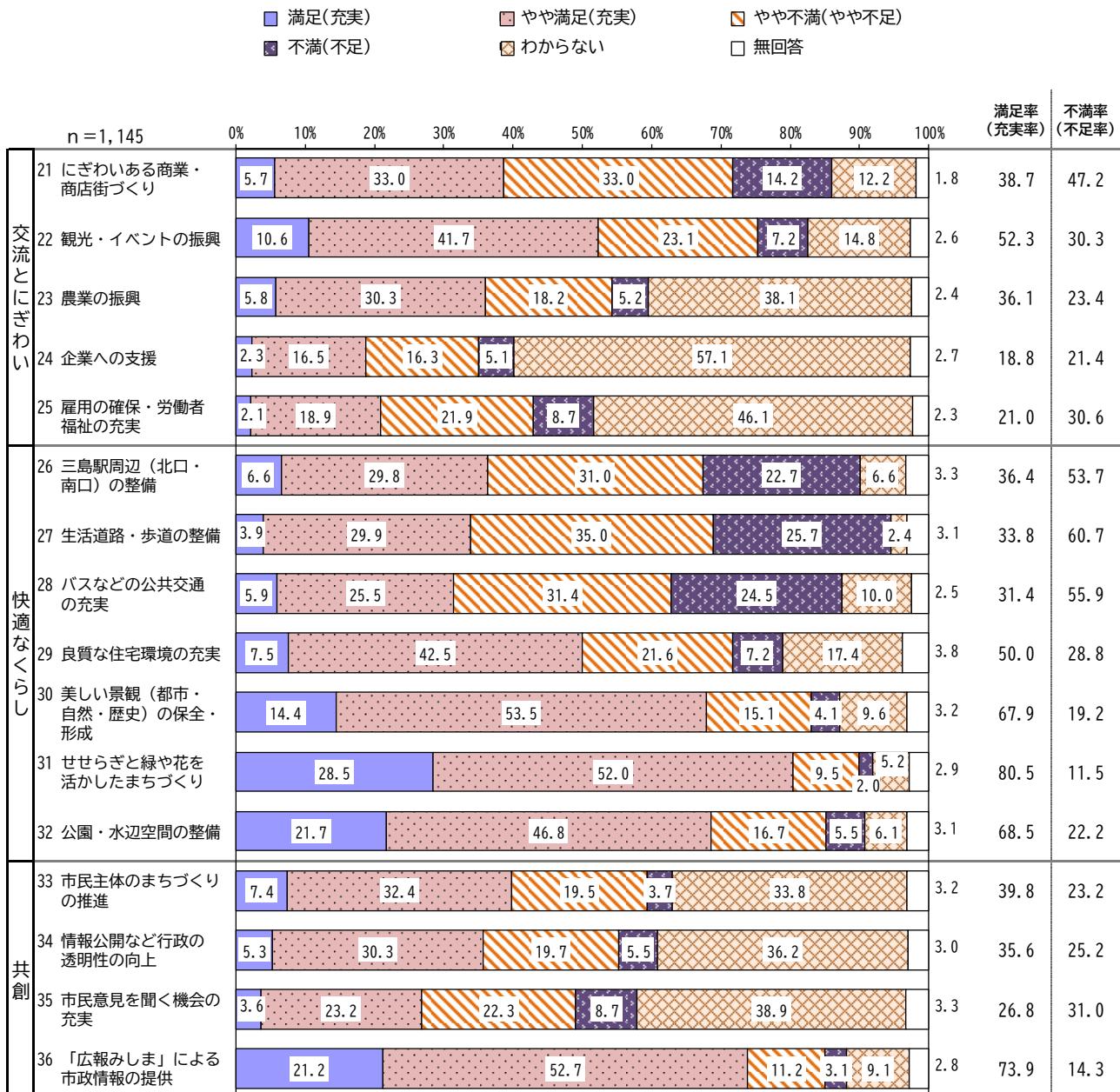
“不満率”は、安全・安心に関する項目では『2 暮らしの安全対策（交通安全・犯罪対策・消費者保護）』(29.6%)、健康・福祉に関する項目では『9 休日・夜間の救急医療体制の充実』(34.5%)、人材育成に関する項目では『15 幼児・学校教育の充実』(19.9%)、交流とにぎわいに関する項目では『21 にぎわいある商業・商店街づくり』(47.2%)、快適なくらしに関する項目では『27 生活道路・歩道の整備』(60.7%)、共創に関する項目では『35 市民意見を聞く機会の充実』(31.0%) が最も高くなっています。

II 調査結果



満足率(充実率)=「満足(充実)」+「やや満足(やや充実)」
 不満率(不足率)=「やや不満(やや不足)」+「不満(不足)」

II 調査結果



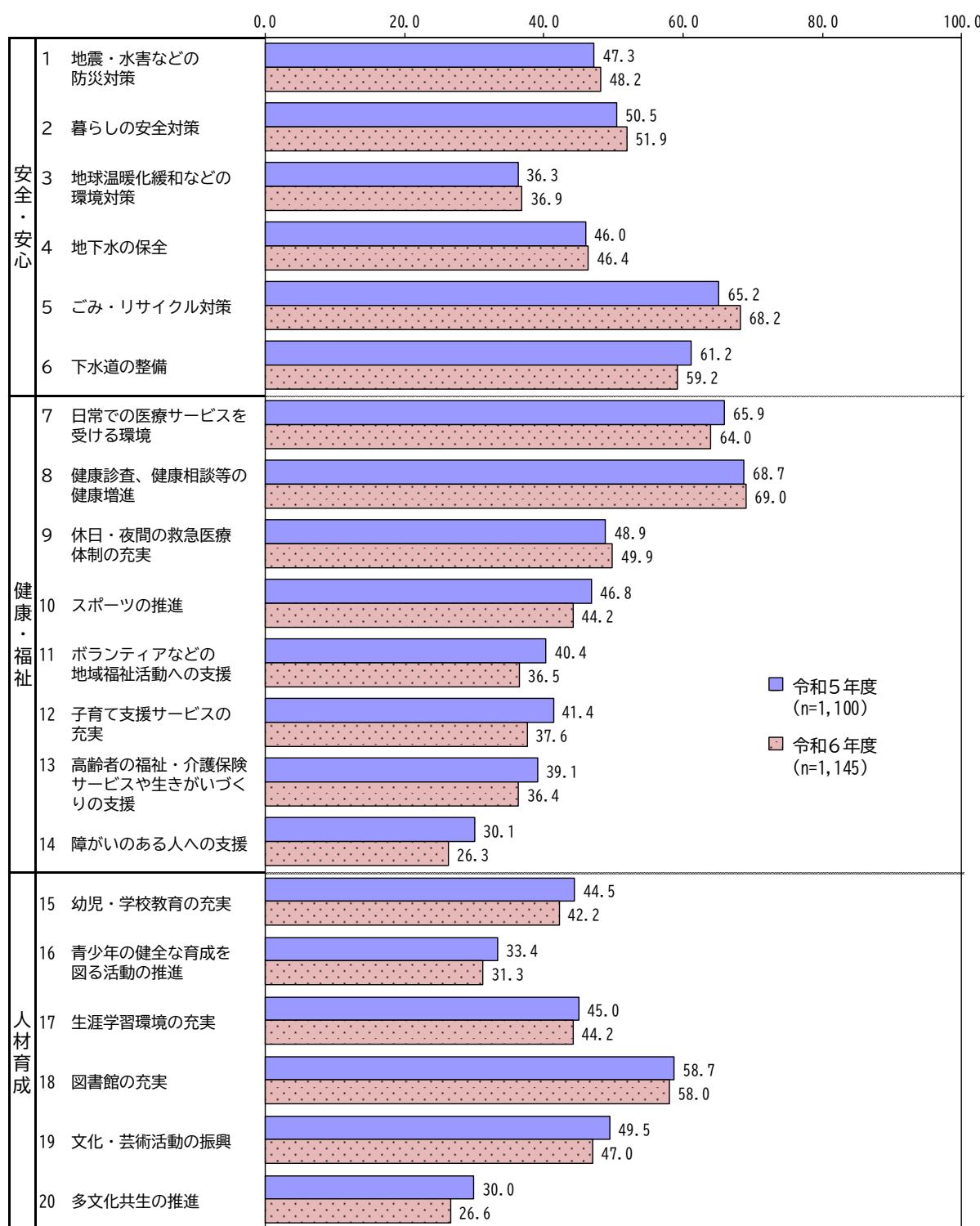
満足率(充実率)＝「満足(充実)」+「やや満足(やや充実)」
 不満率(不足率)＝「やや不満(やや不足)」+「不満(不足)」

II 調査結果

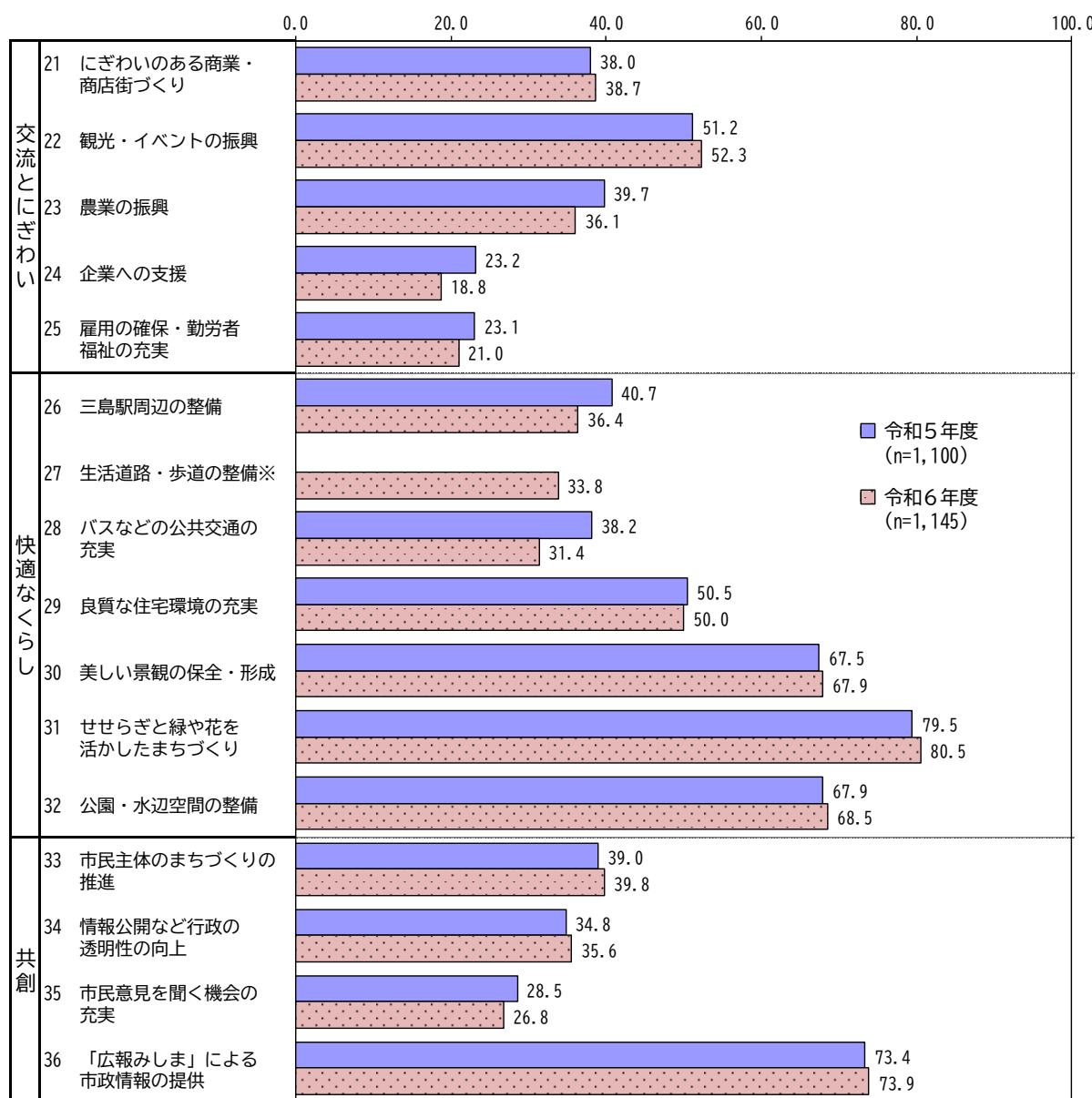
【経年比較】

① 満足率

過去調査と比較すると、満足率は令和5年度と全体的な傾向はあまり変化がありません。安全・安心に関する項目では『6 下水道の整備』以外のいずれの施策でも満足率が上がっているのに対し、健康・福祉に関する項目では『8 健康診査、健康相談等の健康増進』と『9 休日・夜間の救急医療体制の充実』以外の施策、人材育成に関する項目ではすべての施策の満足率が、令和5年度より下がっています。



交流とにぎわいに関する項目では『24 企業への支援』が4.4 ポイント、『23 農業の振興』が3.6 ポイント下がっています。快適なくらしに関する項目では『28 バスなどの公共交通の充実』が6.8 ポイント、『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』が4.3 ポイント下がっています。共創に関する項目では令和5年度よりあまり変化ありません。

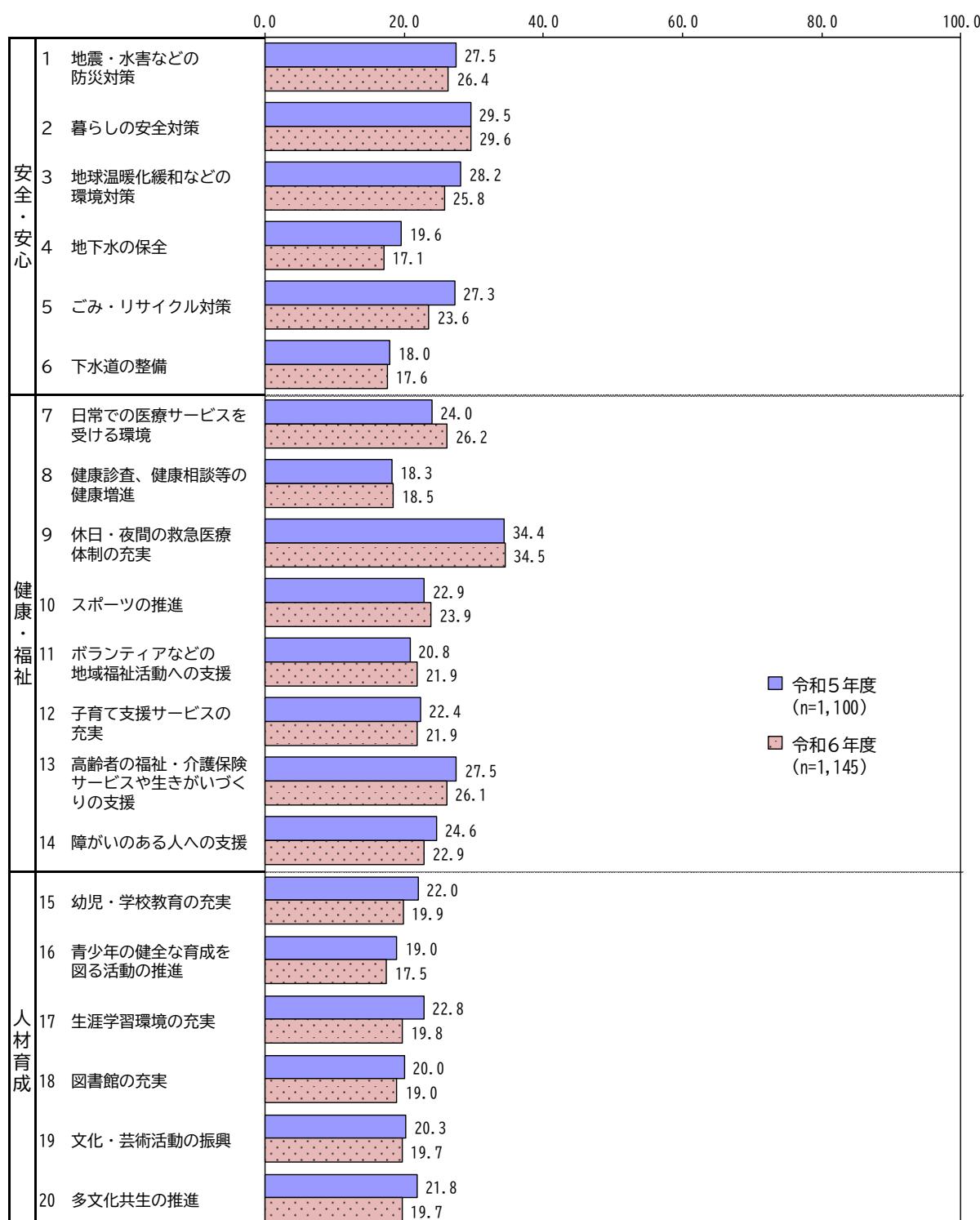


※「27 生活道路・歩道の整備」は令和5年度の「歩道の整備」と「生活道路の整備」を統合したため、比較しない。

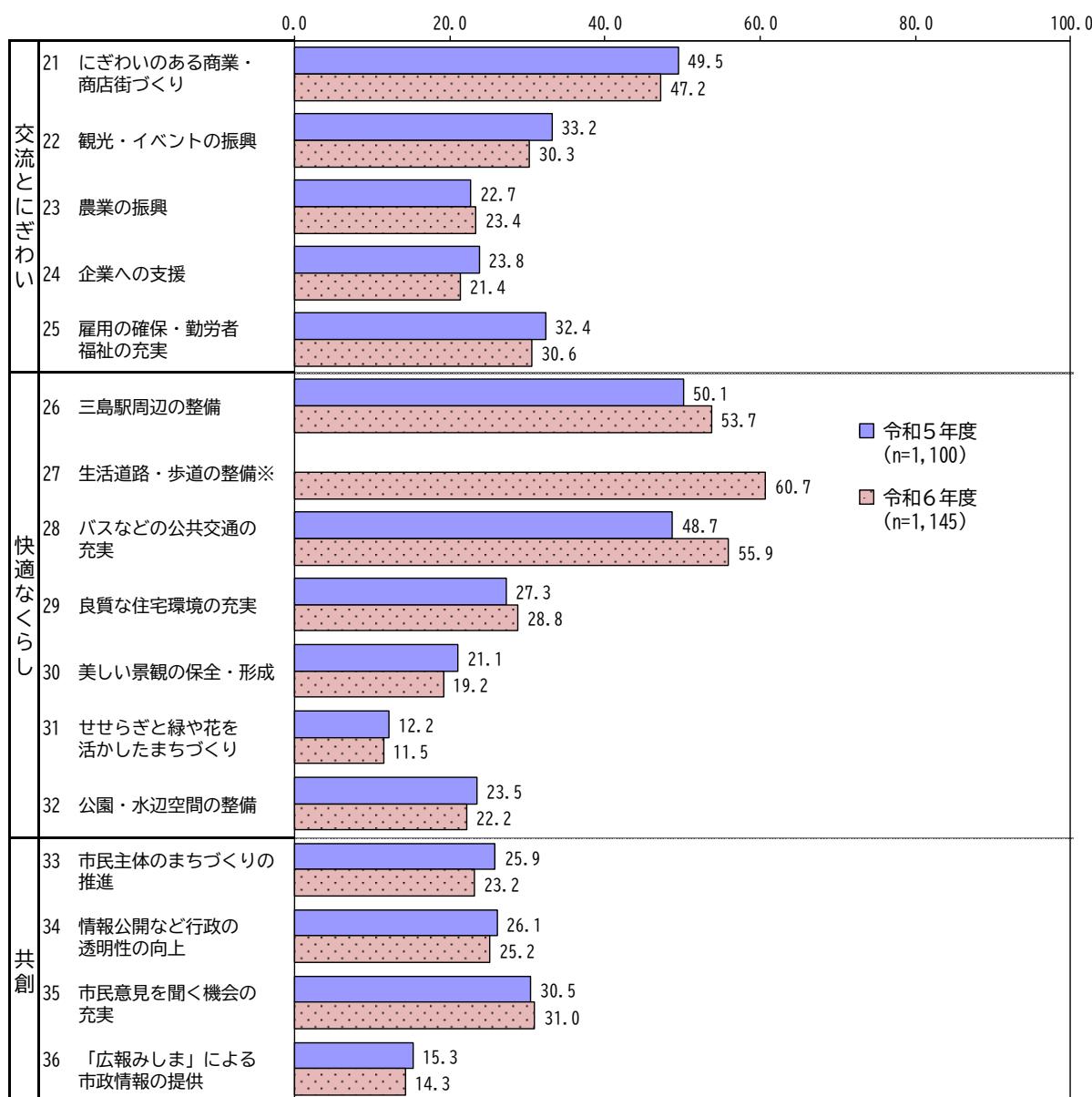
II 調査結果

② 不満率

過去調査と比較すると、安全・安心に関する項目では『2 暮らしの安全対策（交通安全・犯罪対策・消費者保護）』以外のすべての施策の不満率が、令和5年度より下がっています。健康・福祉に関する項目では『7 日常での医療サービスを受ける環境』が2.2ポイント上がっていますが、不満率にあまり変化ありません。人材育成に関する項目ではすべての施策の不満率が、令和5年度より下がっています。



交流とにぎわいに関する項目では『23 農業の振興』以外のすべての施策の不満率が、令和5年度より下がっています。快適なくらしに関する項目では『28 バスなどの公共交通の充実』が7.2ポイント、『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』が3.6ポイント上がっています。共創に関する項目では『33 市民主体のまちづくりの推進』の不満率が2.7ポイント下がっています。



※「27 生活道路・歩道の整備」は令和5年度の「歩道の整備」と「生活道路の整備」を統合したため、比較しない。

II 調査結果

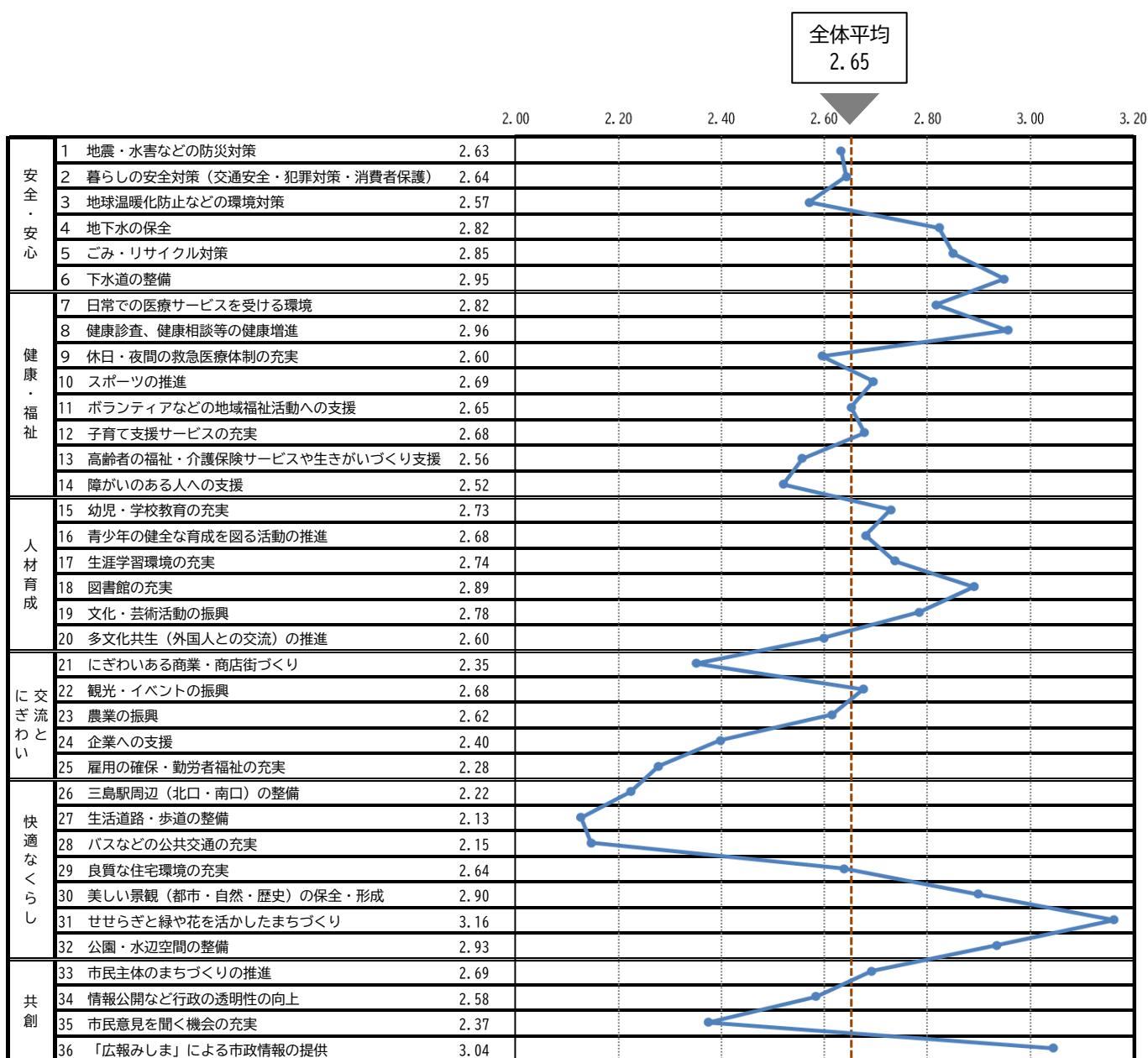
【ウェイトづけによる満足度比較】

36項目の質問項目について、「満足度」を4つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

満足度	得点	得点の算出式
満足(充実)	4点	(4点×「満足」の回答数
やや満足(やや充実)	3点	+3点×「やや満足」の回答数
やや不満(やや不足)	2点	+2点×「やや不満」の回答数
不満(不足)	1点	+1点×「不満の回答数」
わからない・無回答	計算対象外	÷「わからない」「無回答」を除く回答数

『31 せせらぎと緑や花を活かしたまちづくり』『36 「広報みしま」による市政情報の提供』『8 健康診査、健康相談等の健康増進』が高くなっています。

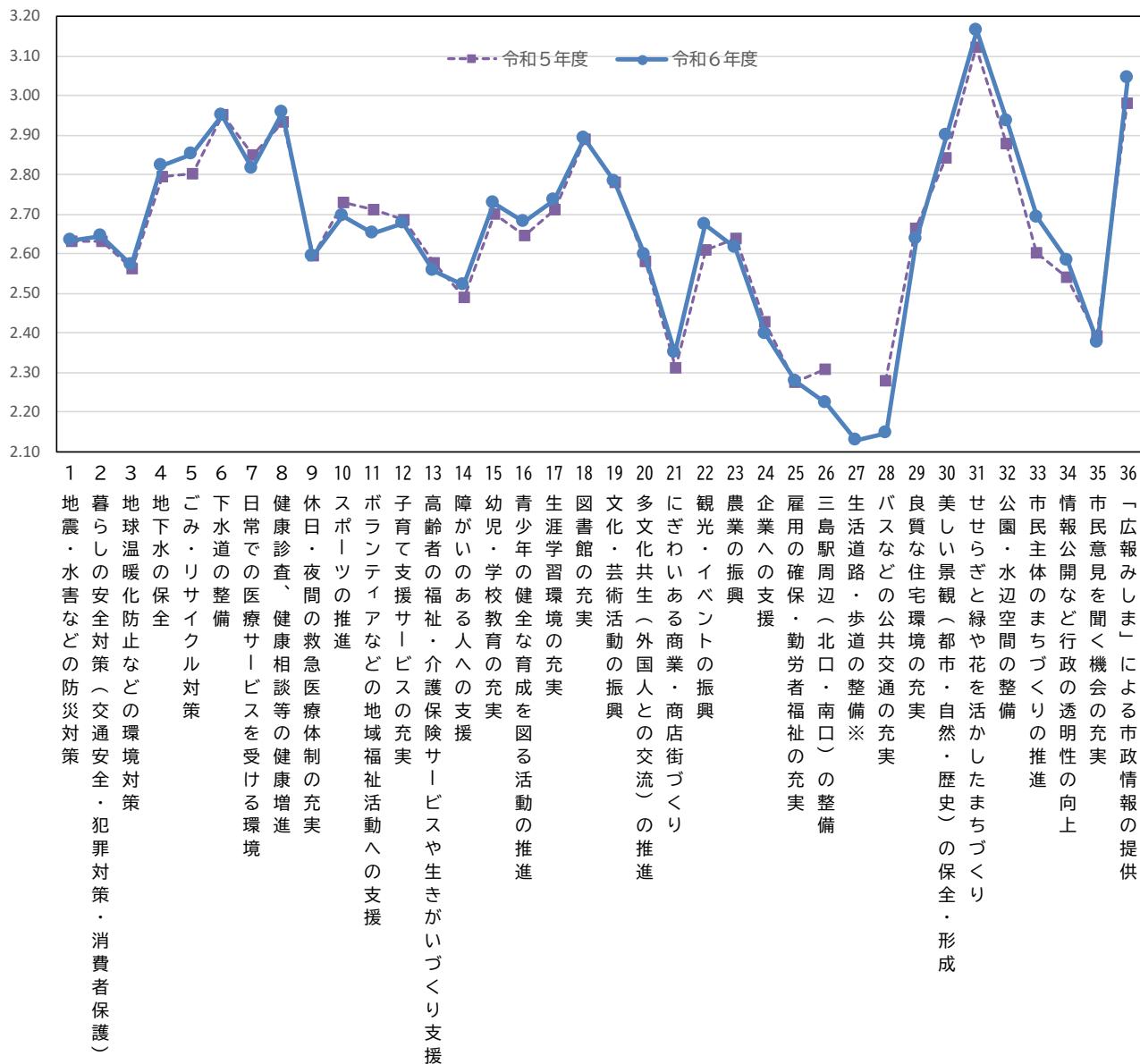
一方、『27 生活道路・歩道の整備』『28 バスなどの公共交通の充実』『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』が低くなっています。



【ウェイトづけによる満足度の経年比較】

過去調査と比較すると、満足度の全体的な傾向は令和5年度よりあまり変化ありませんが、『33 市民主体のまちづくりの推進』が0.1ポイント上がっており、『28 バスなどの公共交通の充実』と『26 三島駅周辺（北口・南口）の整備』の満足度が0.1ポイント前後下がっています。

(満足度)



※「27 生活道路・歩道の整備」は令和5年度の「歩道の整備」と「生活道路の整備」を統合したため、比較しない。

II 調査結果

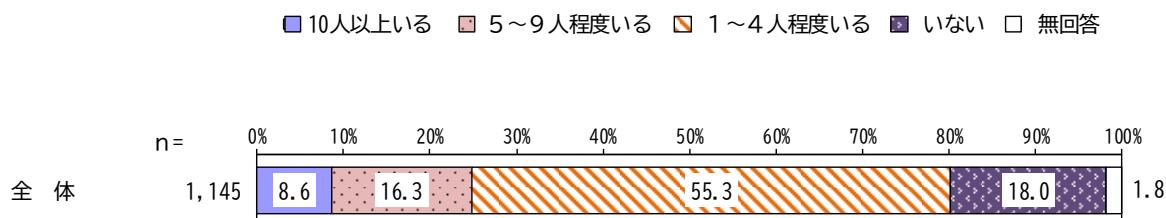
4 『各種計画の指標に関する項目』について

(1) 近所に助け合う人の有無

問6 近所に助け合うことができる人がいますか。(○は一つ)

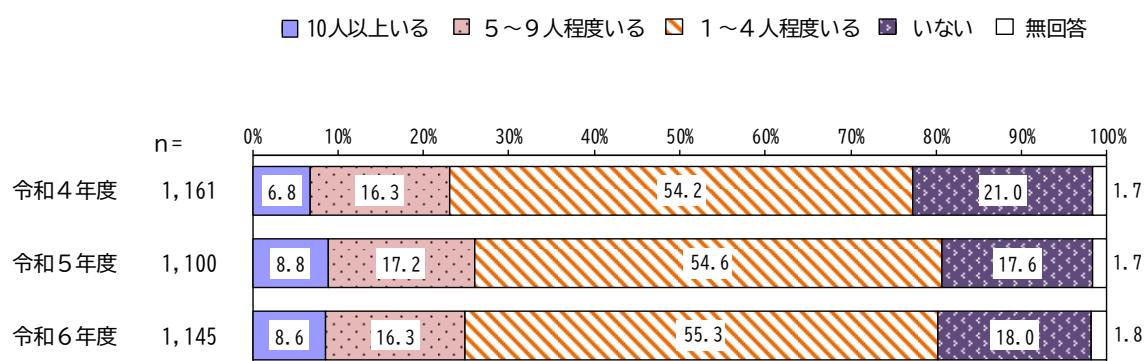
– 近所に助け合うことができる人が「1～4人程度いる」は 55.3% –

近所に助け合うことができる人がいるかについて、「1～4人程度いる」が 55.3% と 5 割半ばを占めて最も高く、次いで「いない」が 18.0%、「5～9人程度いる」が 16.3% と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度とあまり変化がありません。

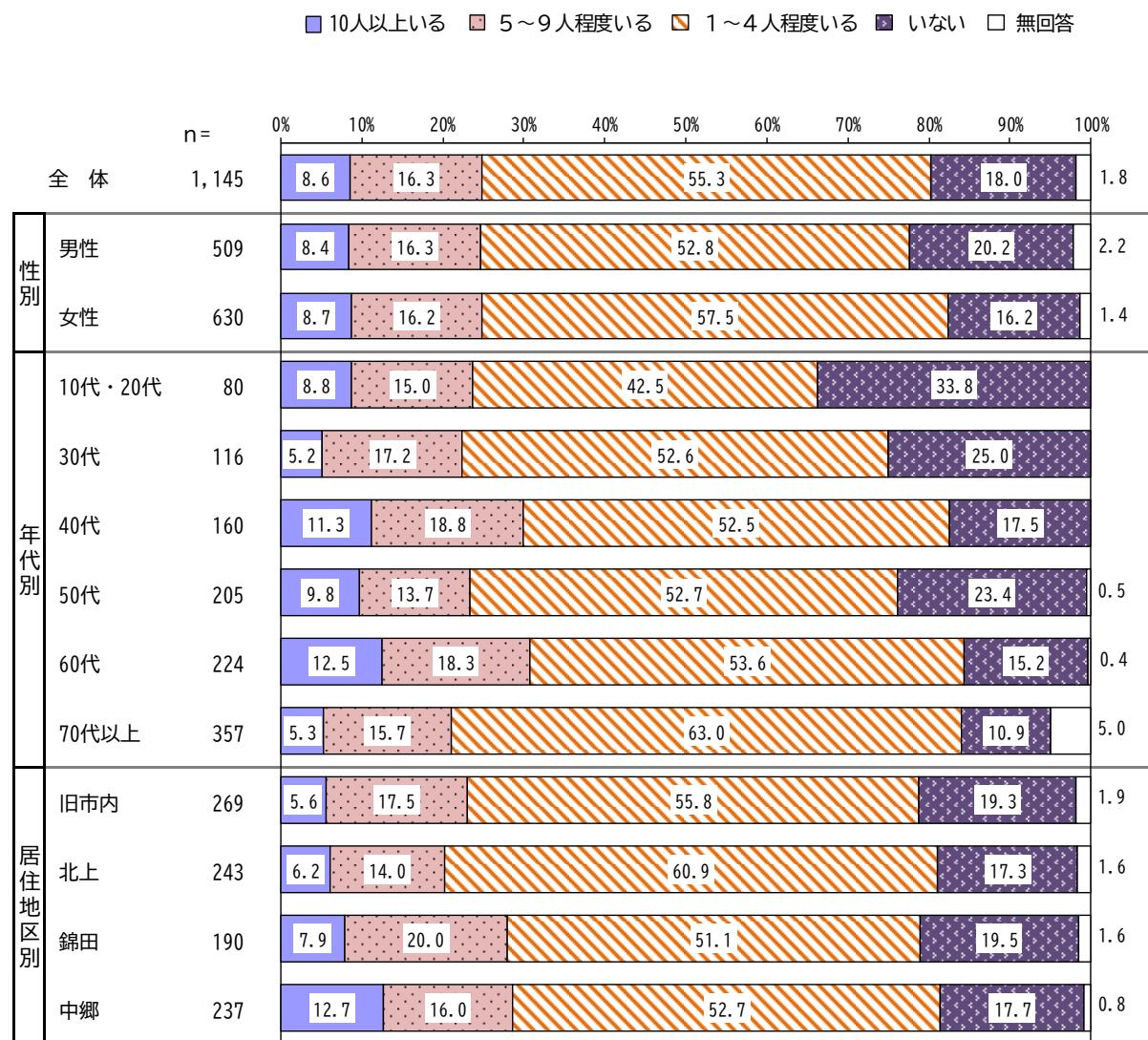


【属性別比較】

性別でみると、「1～4人程度いる」は、男性（52.8%）より女性（57.5%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「いない」は、10・20代（33.8%）が3割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「1～4人程度いる」は、北上（60.9%）が6割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

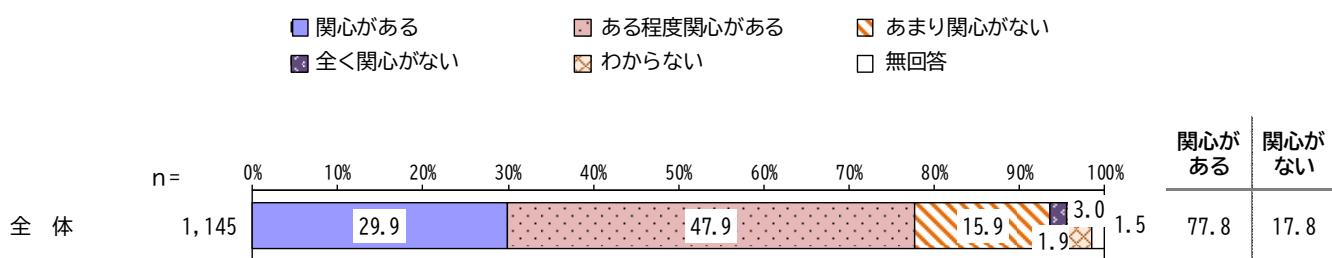
(2) 食育についての関心

問7 食育(食に関する知識や食を選択する力を身に付けること)に関心がありますか。(○は一つ)

– 食育に“関心がある”割合は 77.8% –

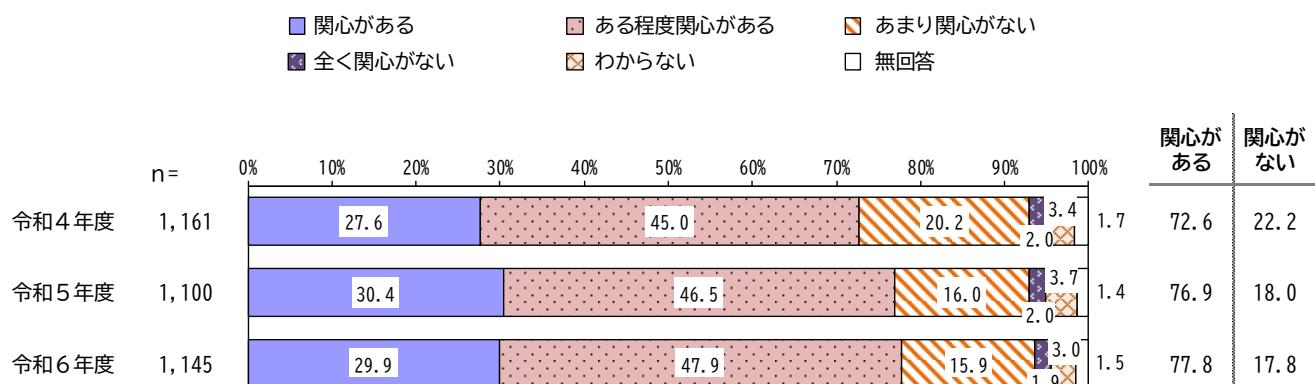
食育に関心があるかについて、「関心がある」(29.9%) と「ある程度関心がある」(47.9%) を合わせた “関心がある” は 77.8% となっています。

「あまり関心がない」(15.9%) と「全く関心がない」(1.9%) を合わせた “関心がない” は 17.8% となっています。



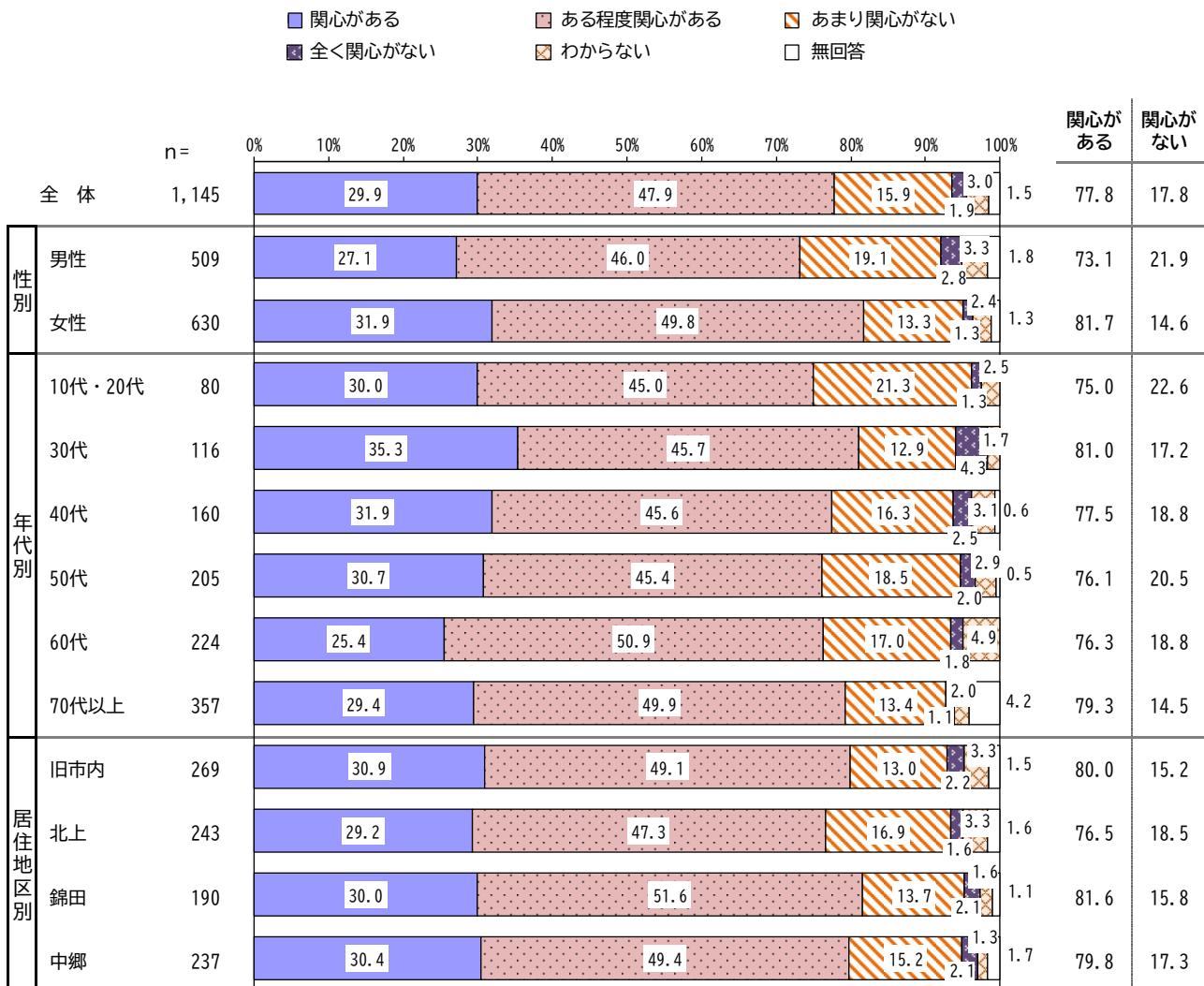
【経年比較】

過去調査と比較すると、“関心がある”的割合は令和5年度よりやや上がっていますが、あまり変化ありません。



【属性別比較】

性別でみると、“関心がある”は、男性（73.1%）より女性（81.7%）の割合が高くなっています。
 年代別でみると、“関心がある”は、30代(81.0%)が最も高くなっています。
 居住地区別でみると、“関心がある”は、北上(76.5%)が他の地区より低くなっています。



関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」
 関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

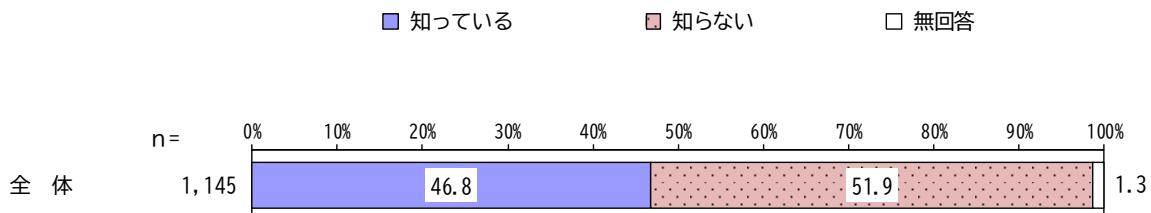
II 調査結果

(3) 消費生活センターの認知状況

問8 三島市役所に消費生活センター(通信販売や契約などのトラブルに関する消費生活相談窓口)があることを知っていますか。(○は一つ)

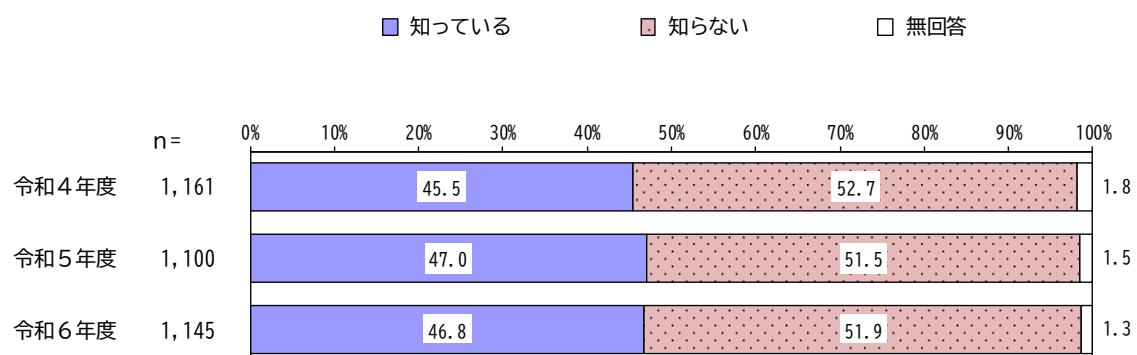
- 消費生活センターの認知状況は「知っている」が 46.8% -

三島市役所にある消費生活センターの認知状況について、「知っている」が 46.8%、「知らない」が 51.9%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、あまり変化はありません。

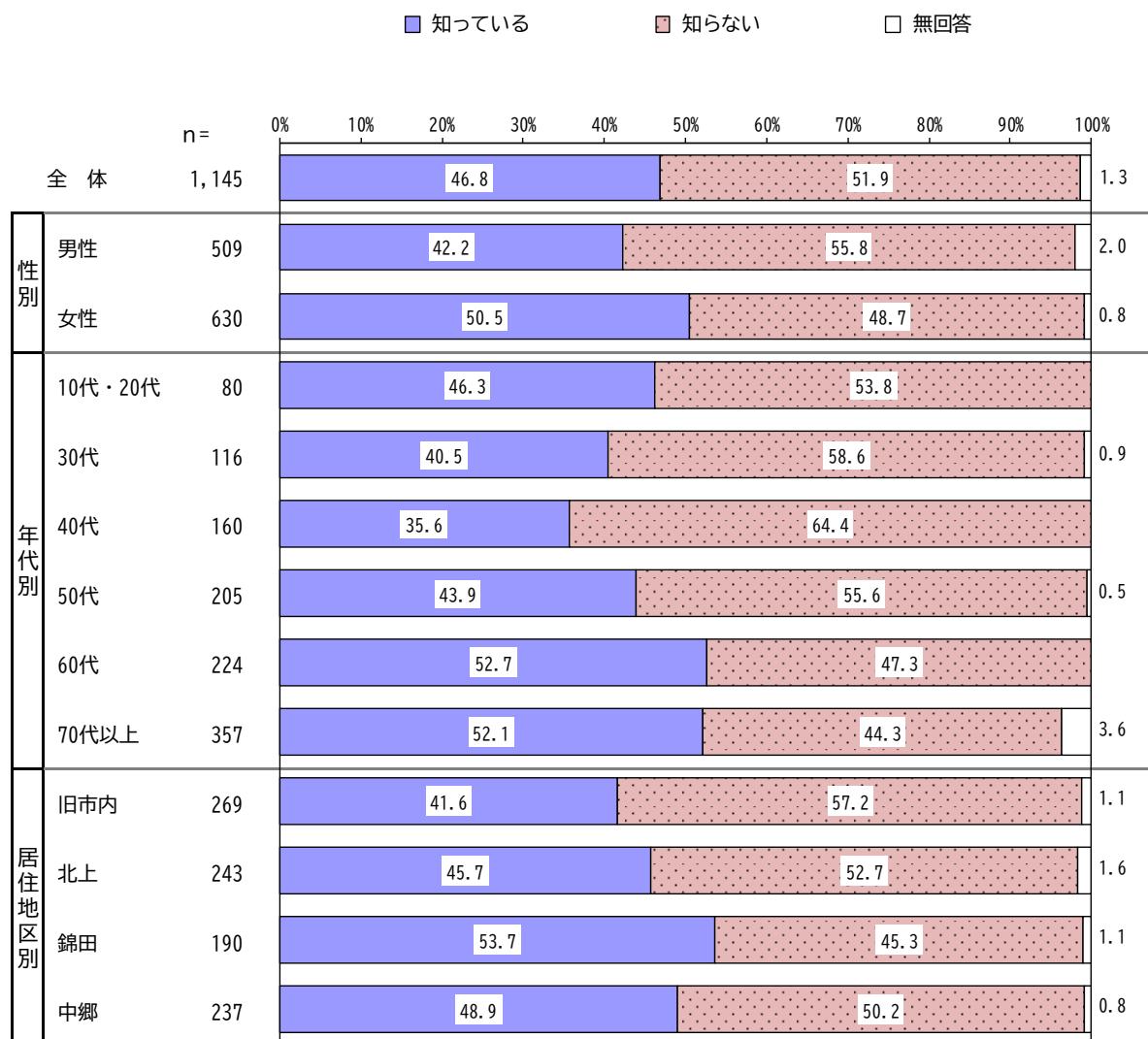


※令和4年度と令和5年度は消費生活相談窓口の認知状況

【属性別比較】

性別でみると、「知っている」は、男性（42.2%）より女性（50.5%）の割合が高くなっています。年代別でみると、「知っている」は、60代（52.7%）と70代以上（52.1%）で5割を超えて高く、40代（35.6%）で4割を切って最も低くなっています。

居住地区別でみると、「知っている」は、錦田（53.7%）が5割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

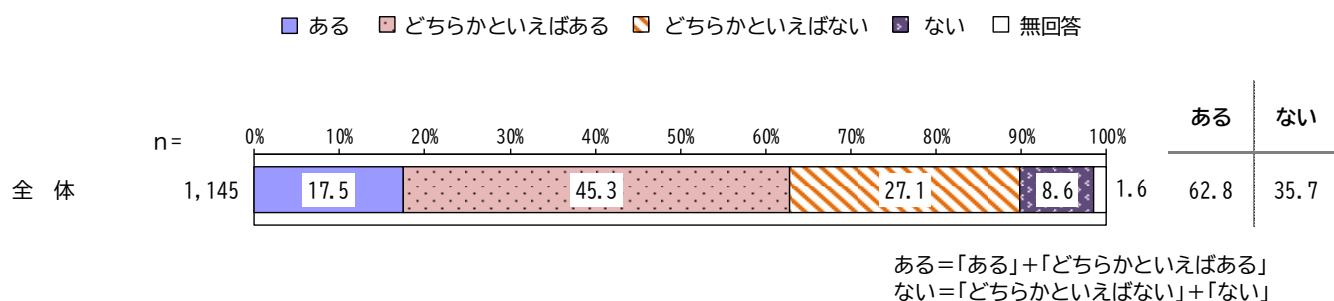
(4) エシカル消費への意識

問9 商品やサービスを選択する際に、環境への配慮、地産地消、障がい者支援など社会貢献につながる消費(エシカル消費)を意識することがありますか。(○は一つ)

– エシカル消費を意識することが“ある”は 62.8% –

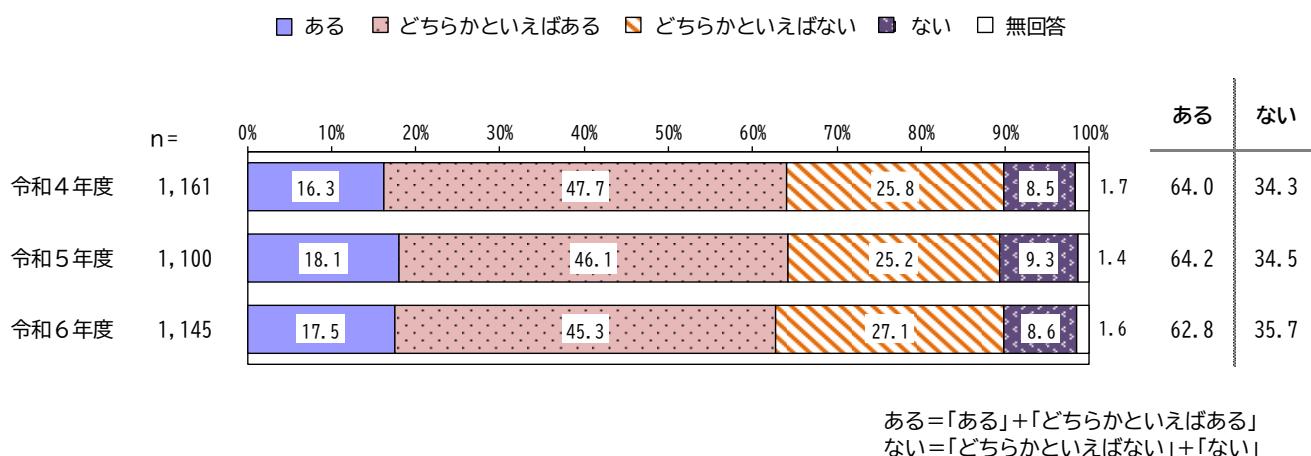
エシカル消費への意識について、「ある」(17.5%) と「どちらかといえばある」(45.3%) を合わせた “ある” は 62.8% となっています。

「どちらかといえばない」(27.1%) と「ない」(8.6%) を合わせた “ない” は 35.7% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、“ある”が令和5年度よりやや下がっていますが、あまり変化ありません。

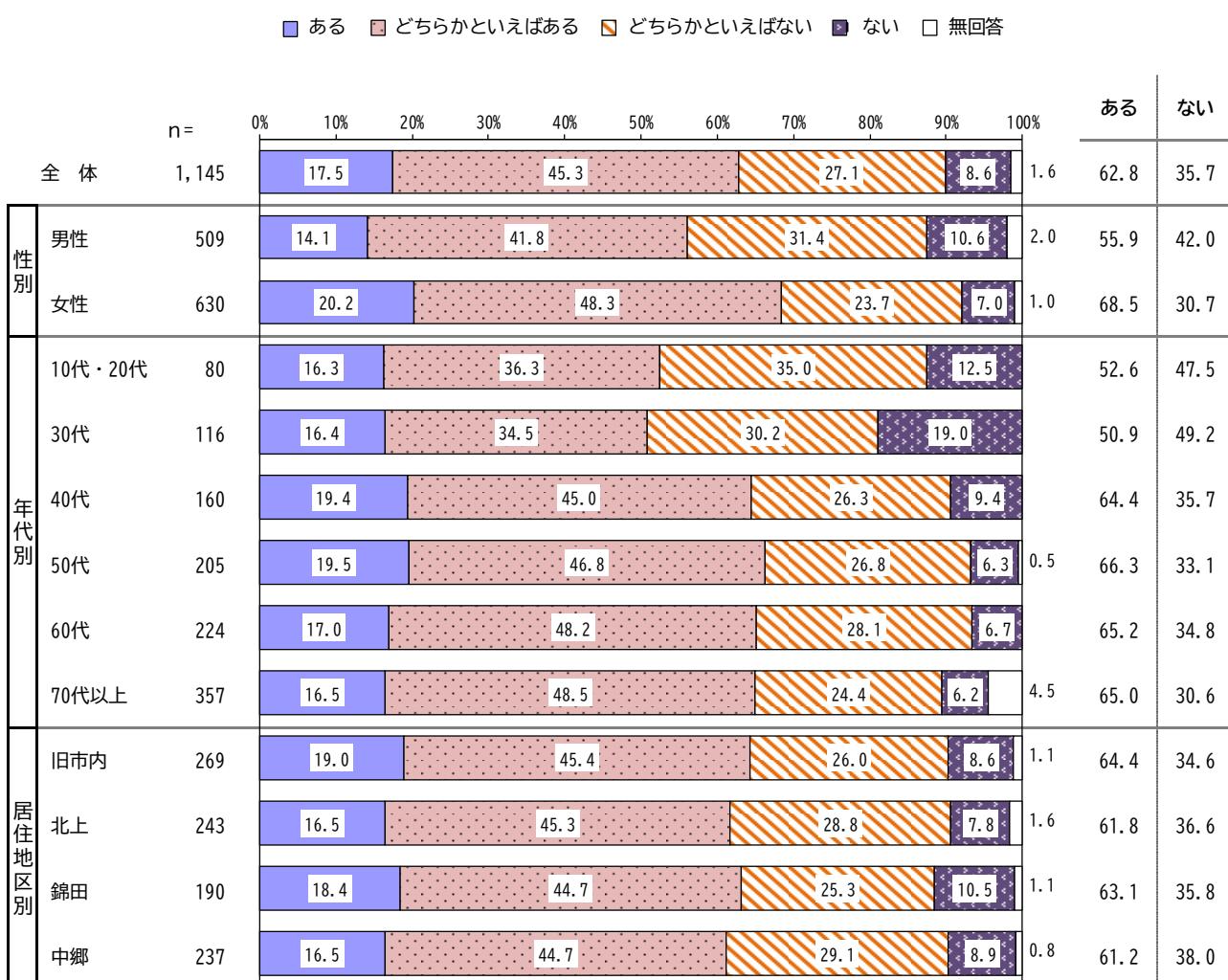


【属性別比較】

性別でみると、“ある”は、男性（55.9%）より女性（68.5%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“ある”は、40代以上の年代で6割を超えていました。

居住地区別でみると、“ある”は、いずれの地区も6割を超えていました。



ある＝「ある」+「どちらかといえばある」

ない＝「どちらかといえばない」+「ない」

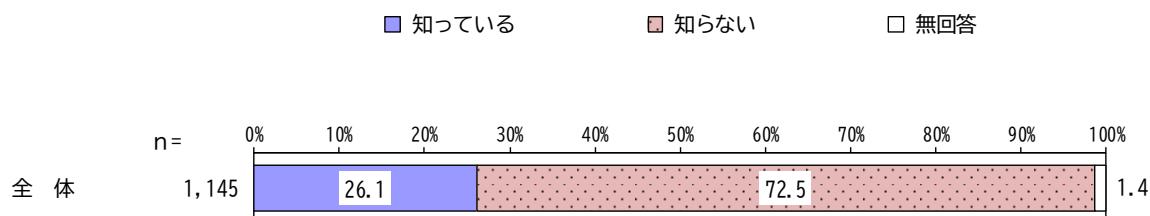
II 調査結果

(5) 箱根八里の「日本遺産」認定の認知状況

問10 箱根八里が「日本遺産」に認定されていることを知っていますか。(○は一つ)

- 箱根八里が「日本遺産」に認定されていると「知っている」が 26.1% -

箱根八里が「日本遺産」認定されていることについて、「知っている」が 26.1%、「知らない」が 72.5%となっています。

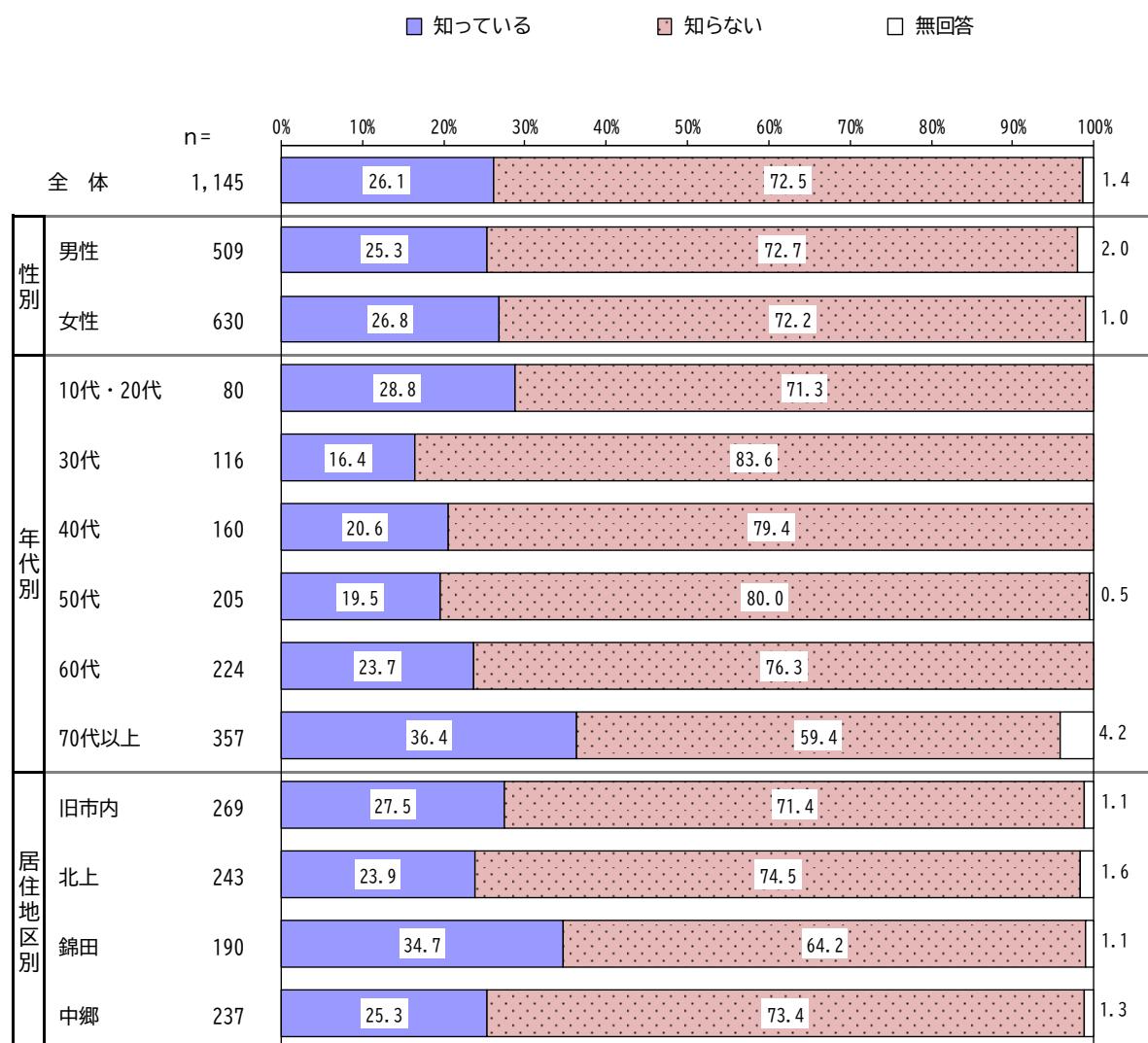


【属性別比較】

性別でみると、「知っている」は、男性(25.3%)と女性(26.8%)で大きな差はありません。

年代別でみると、「知っている」は、70代以上(36.4%)で3割半ばを超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「知っている」は、錦田(34.7%)が3割を超えて最も高くなっています。



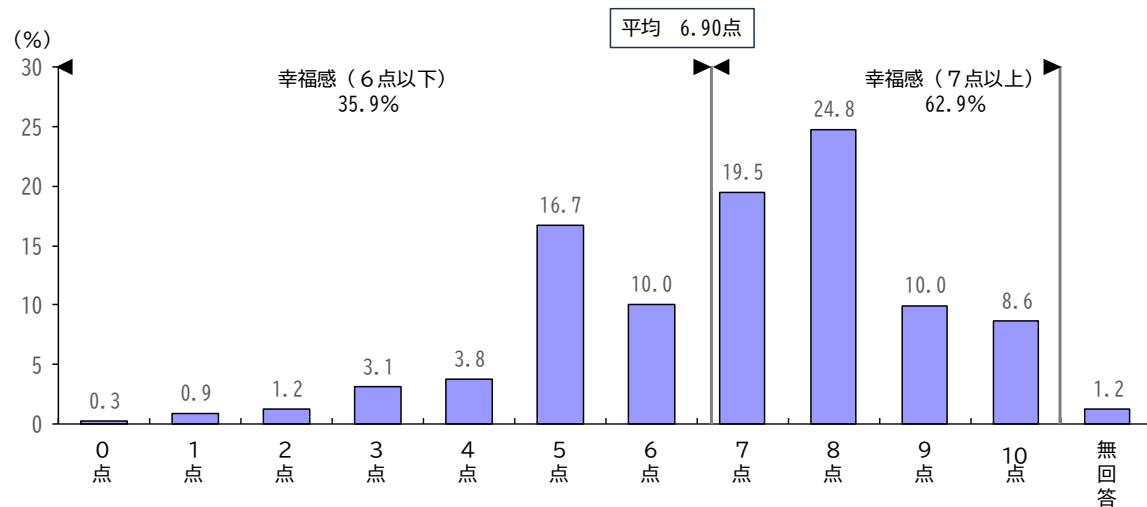
5 『幸福感』について

(1) 幸福感

問 11 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの点数を1つだけ○で囲んでください。

– 現在の幸福感の平均は6.90点 –

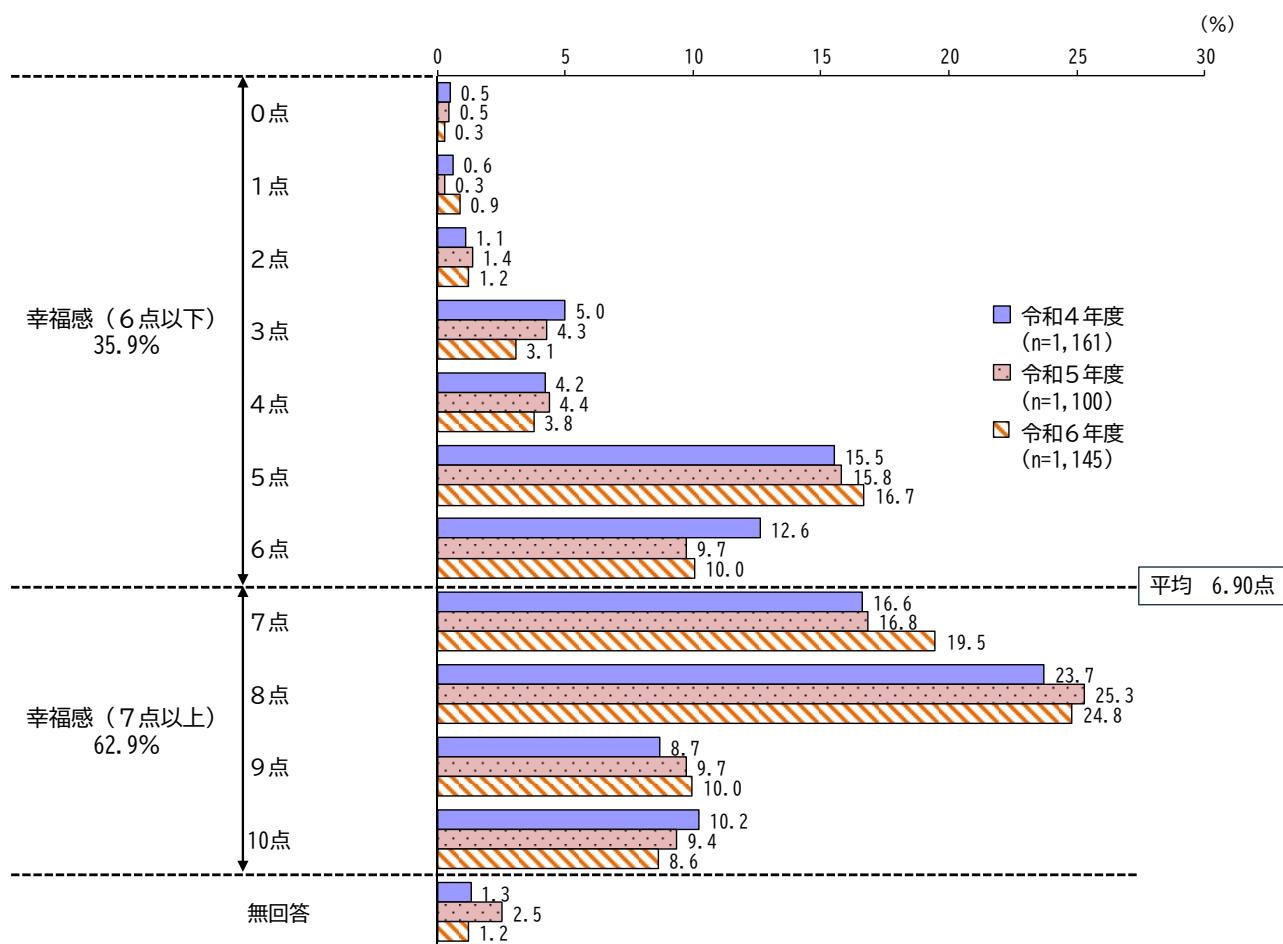
現在の幸福感について、「8点」の割合が24.8%と最も高く、次いで「7点」の割合が19.5%、「5点」の割合が16.7%となっています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、幸福感は令和5年度より変化ありません。



【属性別比較】

性別でみると、男性・女性ともに、「8点」(男性 24.0%、女性 25.6%) が最も高くなっています。年代別でみると、すべての年代で「8点」が2割を超えて高くなっています。また、30~50代は「7点」も2割を超えていました。

居住地区別でみると、すべての居住地区で「8点」が最も高くなっています。

		回答者数 (件)	単位：%											
区分			0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体		1,145	0.3	0.9	1.2	3.1	3.8	16.7	10.0	19.5	24.8	10.0	8.6	1.2
性別	男性	509	0.6	1.0	1.8	4.3	4.3	16.3	11.2	20.8	24.0	8.8	5.7	1.2
	女性	630	0.0	0.8	0.8	2.1	3.3	17.0	9.0	18.4	25.6	11.0	10.8	1.3
年代別	10代・20代	80	1.3	0.0	2.5	0.0	3.8	15.0	15.0	17.5	22.5	12.5	8.8	1.3
	30代	116	0.0	3.4	0.9	3.4	2.6	12.9	11.2	24.1	23.3	8.6	9.5	0.0
	40代	160	0.0	0.0	1.3	2.5	4.4	11.9	11.9	20.6	26.3	11.9	8.8	0.6
	50代	205	0.0	1.5	1.0	5.9	5.4	15.6	6.8	23.4	22.9	9.3	7.8	0.5
	60代	224	0.0	0.9	1.3	1.8	3.6	17.4	13.4	18.3	22.8	11.6	7.6	1.3
	70代以上	357	0.6	0.3	1.1	3.1	3.1	20.7	7.3	16.2	27.7	8.4	9.2	2.2
居住地区別	旧市内	269	0.4	0.0	0.7	3.3	3.0	16.7	8.6	17.8	29.0	9.3	10.0	1.1
	北上	243	0.0	1.2	1.2	1.6	2.1	18.1	9.1	21.0	23.9	11.5	8.6	1.6
	錦田	190	1.1	1.6	2.1	2.6	4.2	15.3	13.2	18.4	23.2	8.9	7.4	2.1
	中郷	237	0.0	1.3	1.3	3.4	5.1	17.3	10.1	16.0	25.3	11.0	8.4	0.8

1位

2位

3位

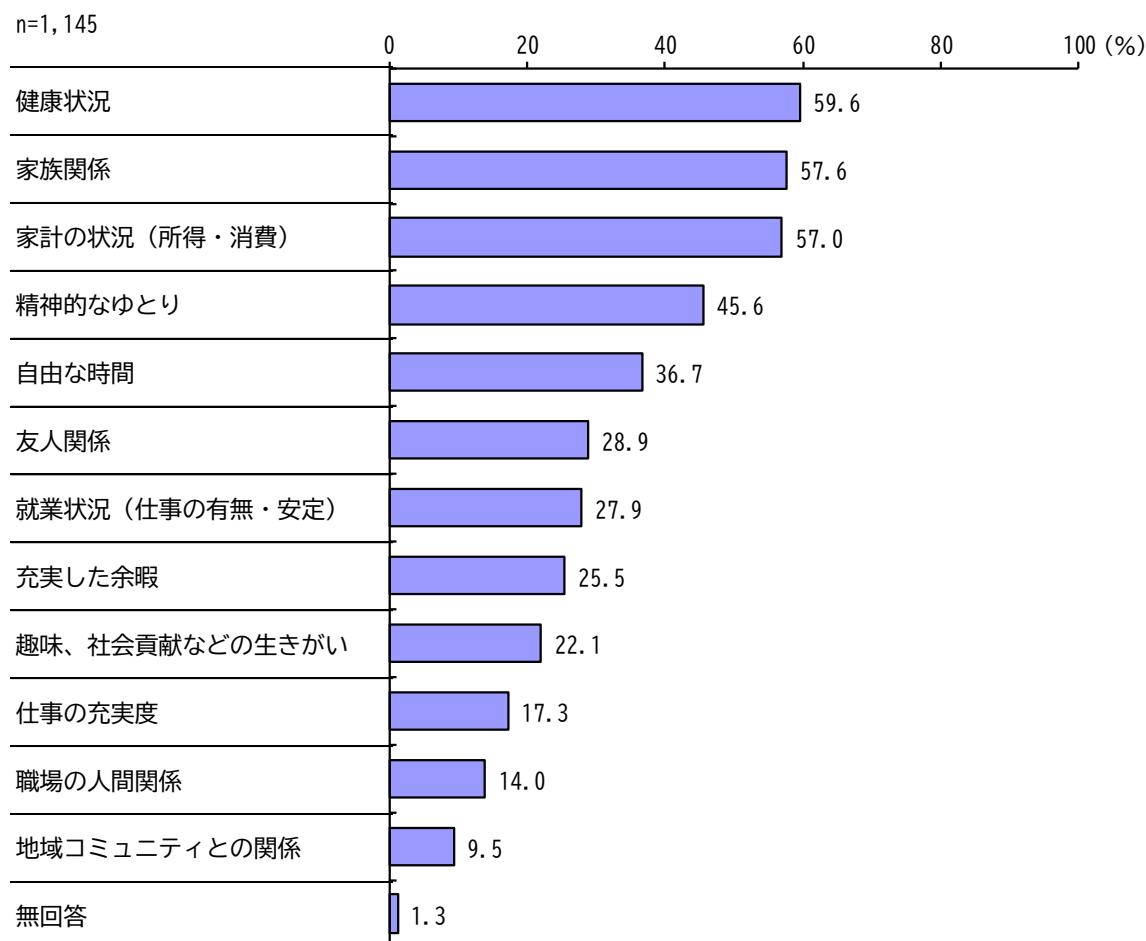
II 調査結果

(2) 幸福感の判断事項

問12 問11で、幸福感を判断する際に重視した事項は何ですか。(○はいくつでも)

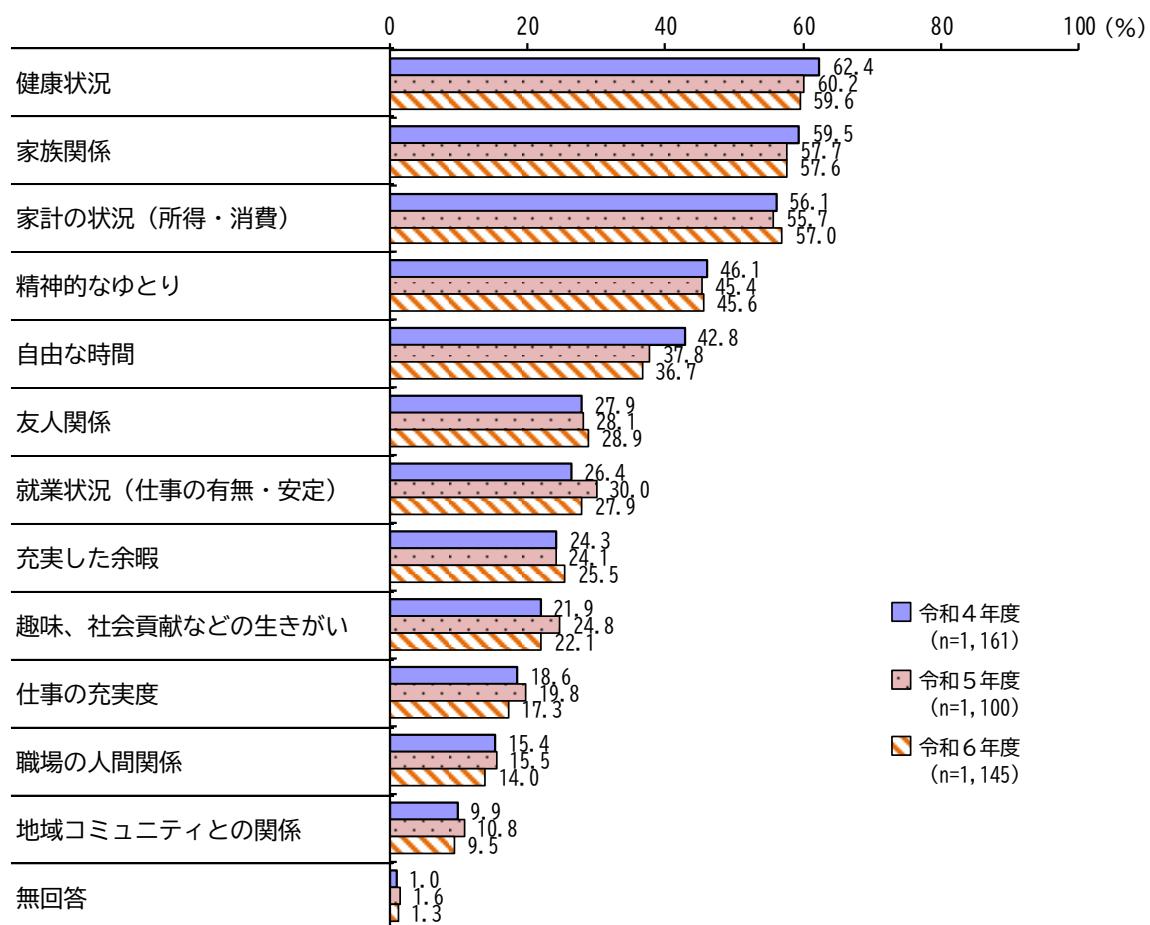
－幸福感を判断する際に重視するのは「健康状況」で59.6%－

幸福感を判断する際に重視した事項について、「健康状況」が59.6%と約6割で最も高く、次いで「家族関係」が57.6%、「家計の状況（所得・消費）」が57.0%と5割半ばを超えて続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より「自由な時間」が減少傾向にあります。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、男性では「家計の状況（所得・消費）」(59.1%)、女性では「健康状況」(61.4%)が、最も高くなっています。

年代別でみると、「家計の状況（所得・消費）」と「家族関係」はいずれの年代でも上位3位に入っていますが、10・20代と30代では「精神的なゆとり」、40代以上では「健康状況」が高くなっています。

居住地区別でみると、中郷で「家族関係」(57.8%)が最も高く、それ以外の地区では「健康状況」が最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	家計の状況 (所得・消費)	就業状況 (仕事の有無・安定期)	健康状況	自由な時間	充実した余暇	仕事の充実度	精神的なゆとり	趣味・社会貢献などの生きがい	家族関係	友人関係	職場の人間関係	地域コミュニティとの関係	無回答
全体		1,145	57.0	27.9	59.6	36.7	25.5	17.3	45.6	22.1	57.6	28.9	14.0	9.5	1.3
性別	男性	509	59.1	28.5	57.0	35.4	28.9	21.2	46.2	23.2	54.2	23.0	14.7	11.6	1.2
	女性	630	55.2	27.8	61.4	37.8	22.9	14.1	45.1	21.3	60.2	33.3	13.3	7.6	1.4
年代別	10代・20代	80	53.8	37.5	43.8	45.0	37.5	20.0	51.3	30.0	50.0	32.5	18.8	7.5	0.0
	30代	116	67.2	47.4	56.9	49.1	37.9	25.9	60.3	22.4	69.8	30.2	27.6	12.1	0.0
	40代	160	64.4	41.9	55.6	33.1	20.6	23.8	48.1	23.1	62.5	27.5	18.1	6.9	1.3
	50代	205	58.5	37.6	57.1	30.2	25.4	21.5	51.2	22.9	58.5	26.8	23.9	7.8	1.0
	60代	224	58.5	30.4	65.2	31.3	23.7	19.6	39.7	20.1	55.8	25.4	10.3	8.0	0.9
	70代以上	357	49.6	6.4	63.3	38.9	22.1	7.0	38.4	20.7	53.8	31.4	3.1	12.0	2.5
居住地区別	旧市内	269	55.4	27.9	60.2	39.8	28.6	18.6	49.4	23.8	58.0	30.9	16.7	10.0	1.1
	北上	243	57.6	24.7	62.1	40.7	25.5	15.6	44.9	21.8	58.4	32.1	14.4	10.3	1.6
	錦田	190	57.9	32.6	58.4	36.8	23.2	12.6	48.9	22.1	57.9	26.3	10.0	10.0	0.5
	中郷	237	54.0	25.3	57.0	32.9	23.2	18.1	40.1	21.1	57.8	24.5	11.4	7.2	1.3

1位

2位

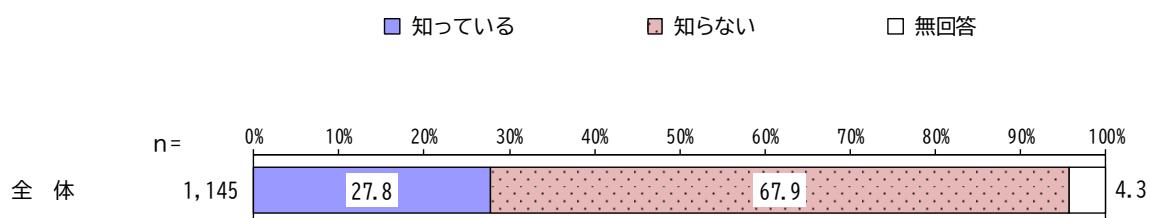
3位

(3) ウェルビーイングの認知状況

問13 あなたは、「ウェルビーイング」という言葉を知っていますか。(○は一つ)

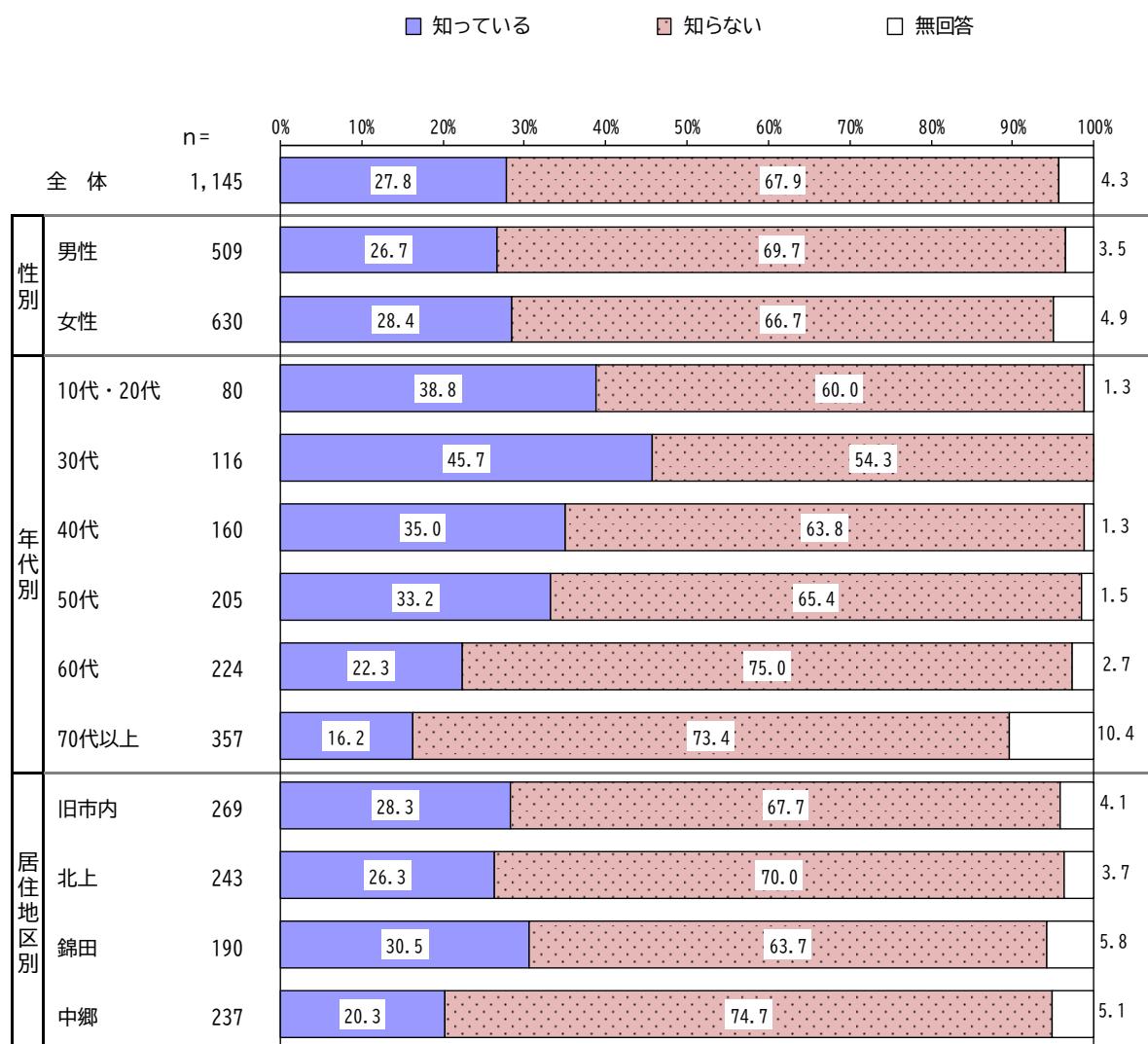
– 「ウェルビーイング」という言葉を「知っている」が 27.8% –

「ウェルビーイング」という言葉を知っているかについて、「知っている」が 27.8%、「知らない」が 67.9%となっています。



【属性別比較】

性別でみると、「知っている」は、男性 (26.7%) より女性 (28.4%) の割合が高くなっています。年代別でみると、「知っている」は、30代 (45.7%) で4割半ばを超えて最も高くなっています。居住地区別でみると、「知っている」は、錦田 (30.5%) が3割を占めて最も高くなっています。



II 調査結果

6 『健康』について

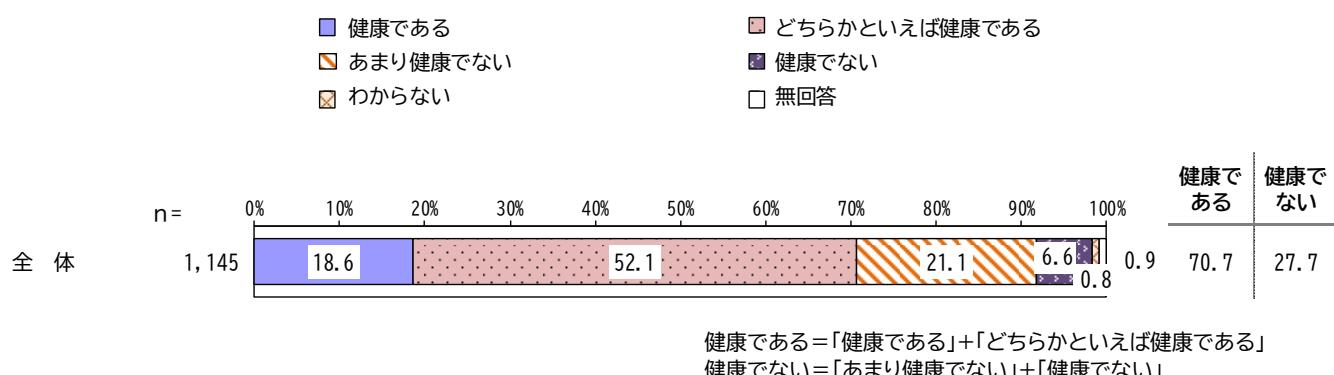
(1) 現在の健康状態

問14 あなたは、現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は一つ)

– 現在“健康である”と感じている人は 70.7% –

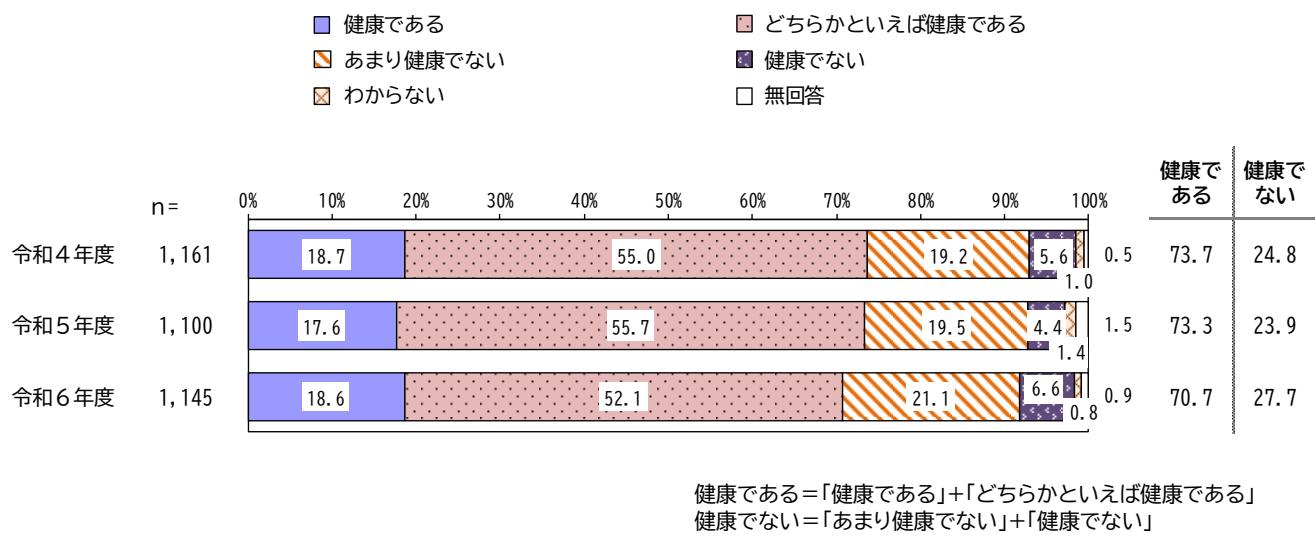
現在の健康状態について、「健康である」(18.6%) と「どちらかといえば健康である」(52.1%) を合わせた “健康である” は 70.7% となっています。

一方、「あまり健康でない」(21.1%) と「健康でない」(6.6%) を合わせた “健康でない” は 27.7% となっています。



【経年比較】

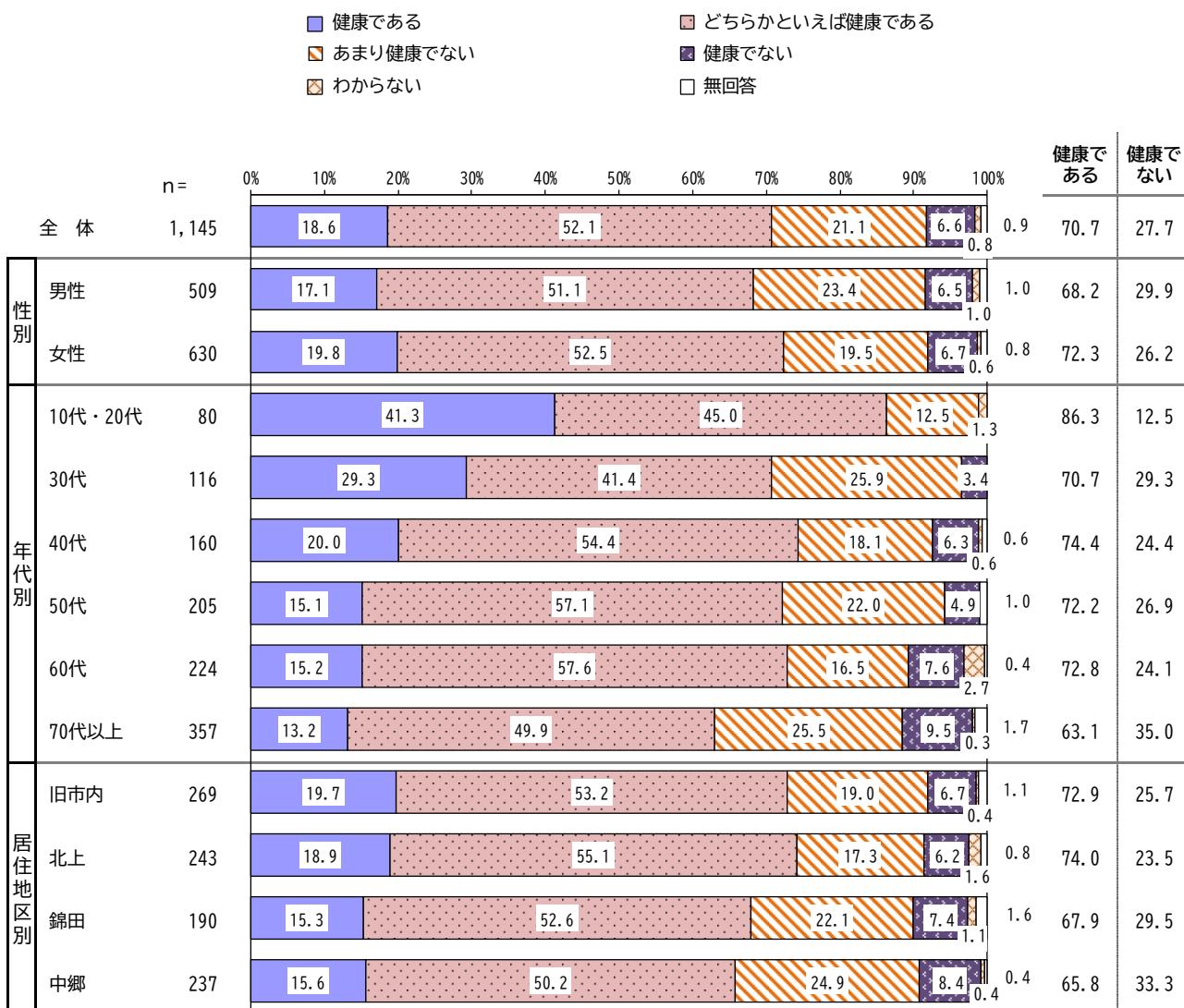
過去調査と比較すると、“健康である”の割合は令和5年度より 2.6 ポイント下がっています。



【属性別比較】

性別でみると、“健康である”は、男性（68.2%）より女性（72.3%）の割合が高くなっています。年代別でみると、年代が上がるにつれて“健康である”割合は低くなる傾向にあり、70代以上（63.1%）で6割台と最も低くなっています。

居住地区別でみると、“健康である”は北上（74.0%）が、最も高くなっています。



II 調査結果

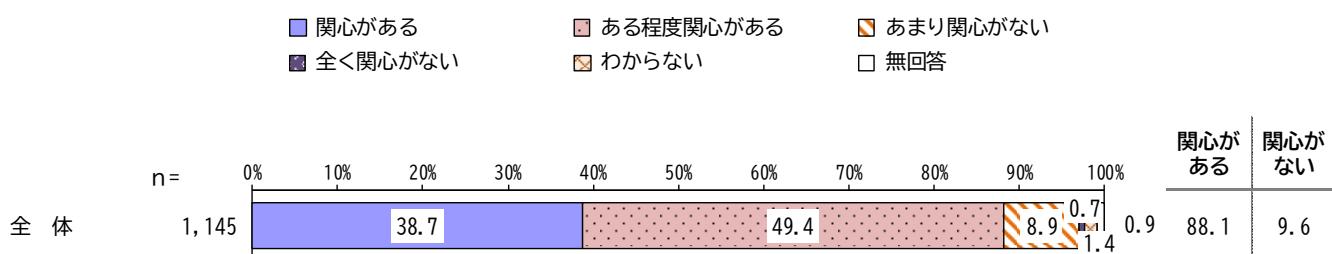
(2) 健康づくりへの関心

問15 あなたは、健康づくりに関心がありますか。(○は一つ)

– 健康づくりに“関心がある”割合は 88.1% –

健康づくりに関心があるかについて、「関心がある」(38.7%)と「ある程度関心がある」(49.4%)を合わせた“関心がある”は 88.1% となっています。

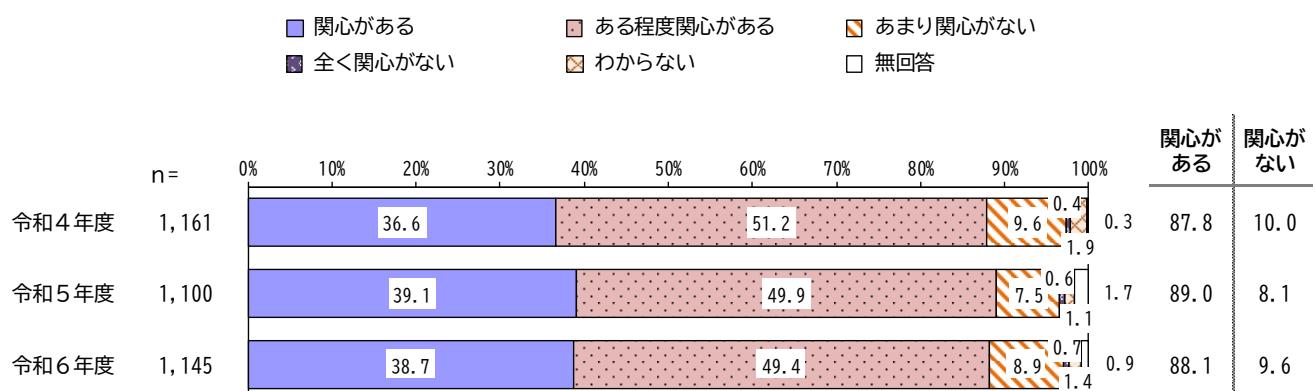
一方、「あまり関心がない」(8.9%)と「全く関心がない」(0.7%)を合わせた“関心がない”は 9.6% となっています。



関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」
関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

【経年比較】

過去調査と比較すると、あまり変化はありません。

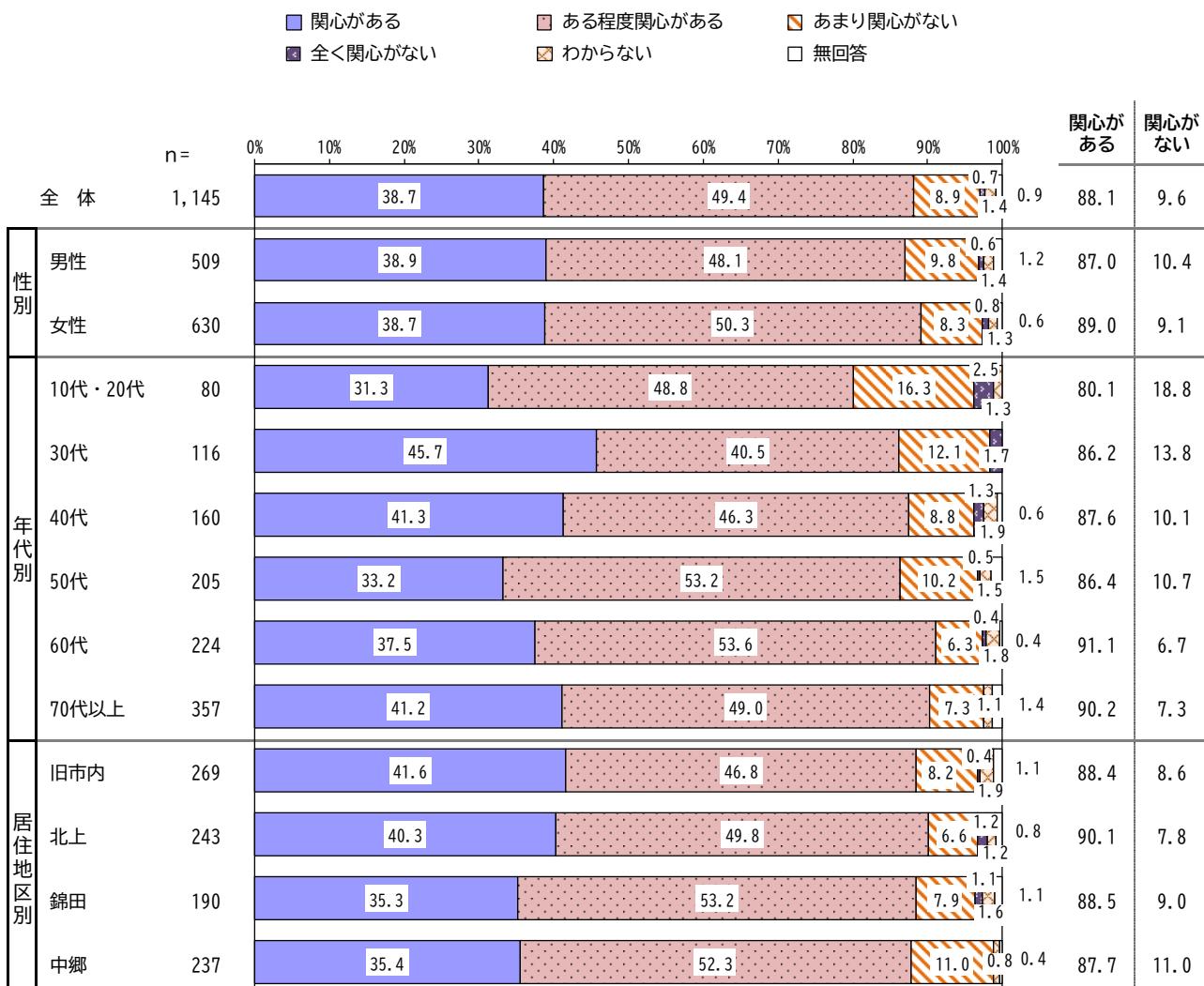


関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」
関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

【属性別比較】

性別でみると、“関心がある”は、男性（87.0%）より女性（89.0%）の割合が高くなっています。年代別でみると、“関心がある”は60代(91.1%)と70代以上 (90.2%) で9割を超えて高くなっています。

居住地区別でみると、“関心がある”は、北上（90.1%）で9割を占めて最も高くなっています。



関心がある＝「関心がある」+「ある程度関心がある」

関心がない＝「あまり関心がない」+「全く関心がない」

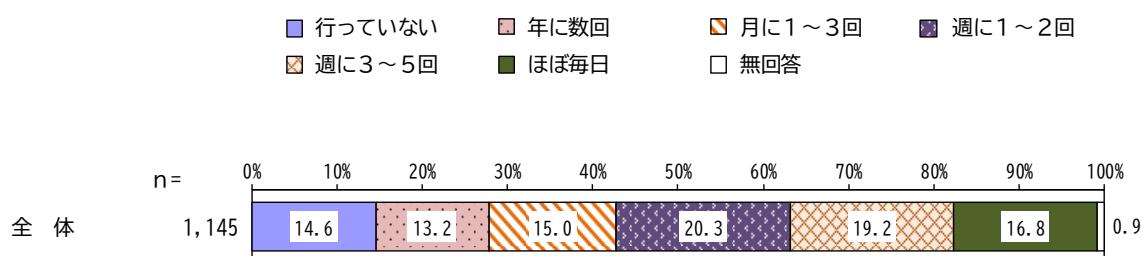
II 調査結果

(3) 運動の状況

問16 あなたは、この1年あいだに運動を行いましたか。(運動には、ウォーキング[通勤・散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き等]を含みます。)(○は一つ)

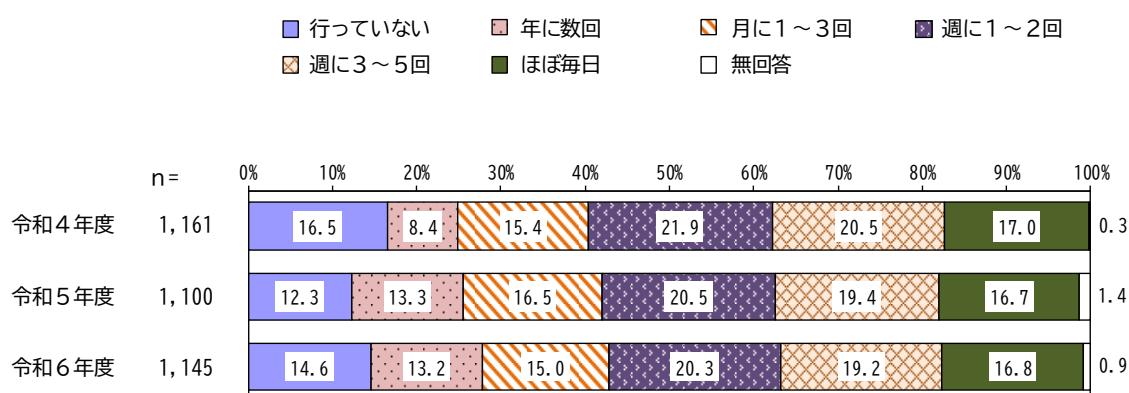
- 直近1年間で運動を行った頻度は「週に1～2回」が20.3% -

直近1年間で運動を行った頻度について、「週に1～2回」が20.3%と最も高く、次いで「週に3～5回」の割合が19.2%、「ほぼ毎日」が16.8%と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度よりあまり変化はありません。

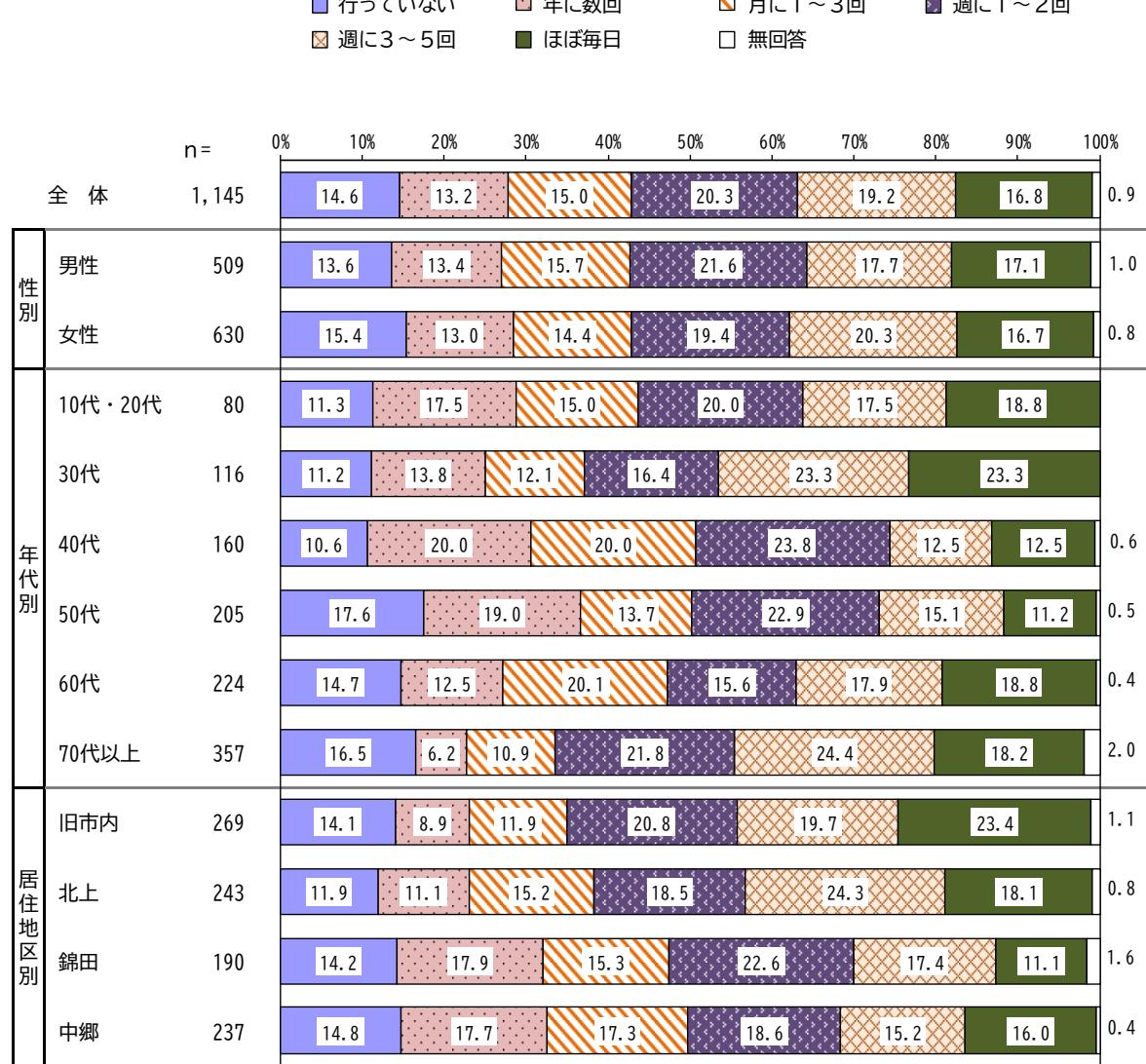


【属性別比較】

性別でみると、「行っていない」は、男性（13.6%）より女性（15.4%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「行っていない」は、40代以下に比べ、50代以上の年代で高くなっています。

居住地区別でみると、「ほぼ毎日」は、旧市内（23.4%）が2割を超えて最も高くなっています。



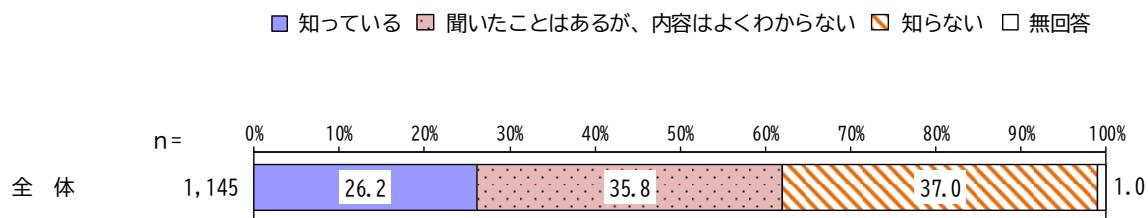
II 調査結果

(4) 健幸都市の取り組みの認知状況

問17 三島市が健幸都市(スマートウエルネスみしま)の取り組みを行っていることを知っていますか。(○は一つ)

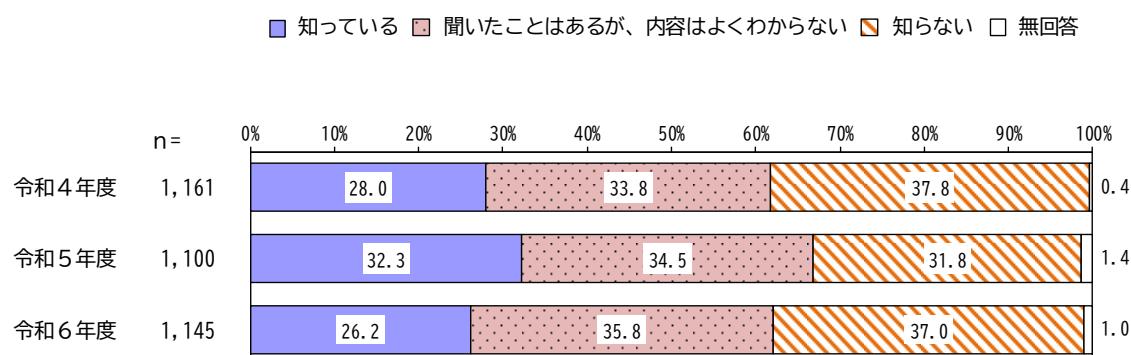
- 健幸都市の取り組みの認知状況は「知っている」が 26.2% -

三島市が健幸都市(スマートウエルネスみしま)の取り組みを行っていることを知っているかについて、「知らない」が 37.0% と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」が 35.8% と 3割半ばを超えています。一方、「知っている」(26.2%) は 3割切っています。



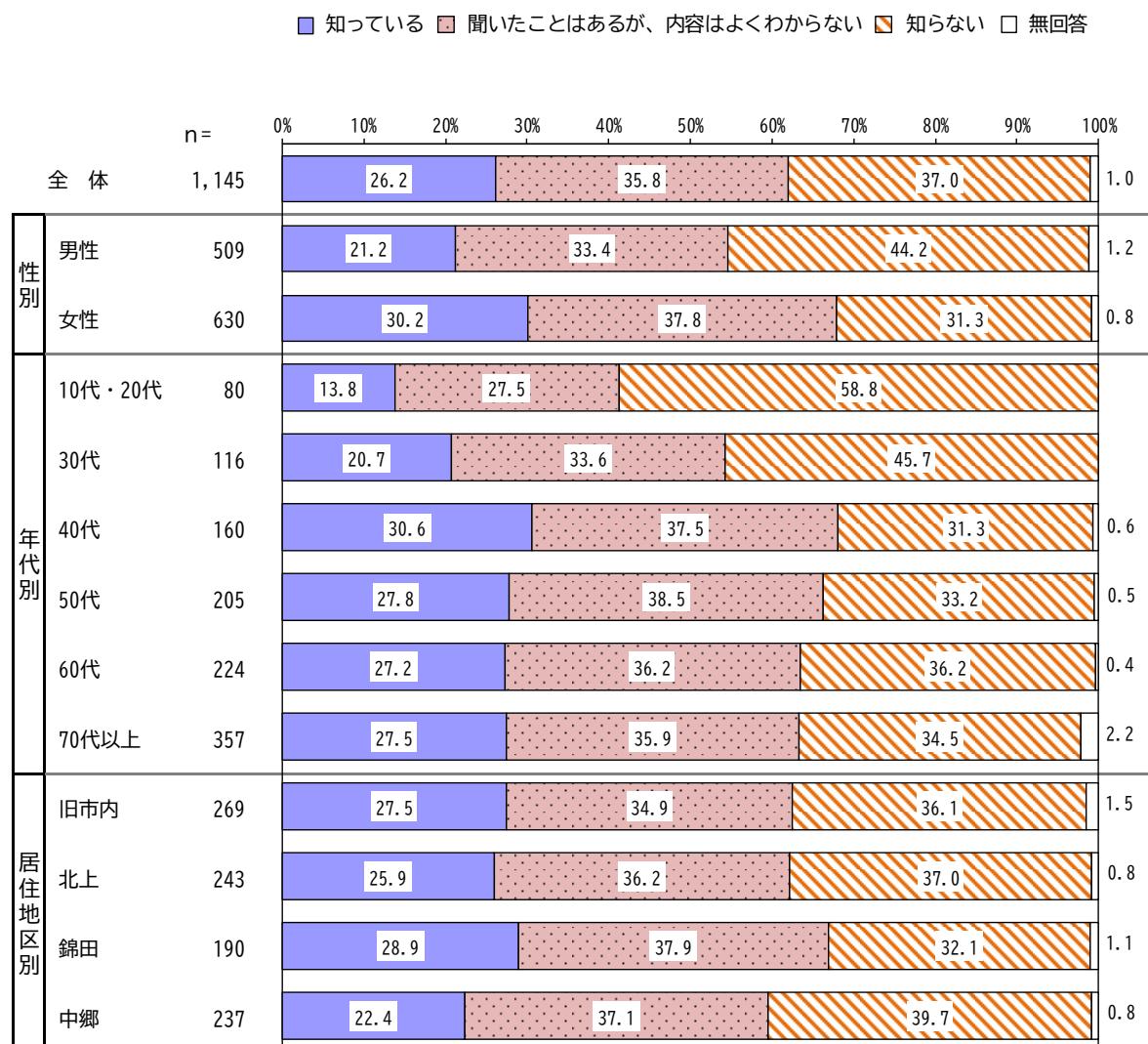
【経年比較】

過去調査と比較すると、「知っている」の割合は令和5年度より 6.1 ポイント下がっています。



【属性別比較】

性別でみると、「知らない」は、男性（44.2%）の割合が女性（31.3%）よりも高くなっています。年代別でみると、「知らない」は、10代・20代（58.8%）で6割近くを占め最も高くなっています。居住地区別でみると、「知らない」は、中郷（39.7%）が約4割を占めて最も高くなっています。



II 調査結果

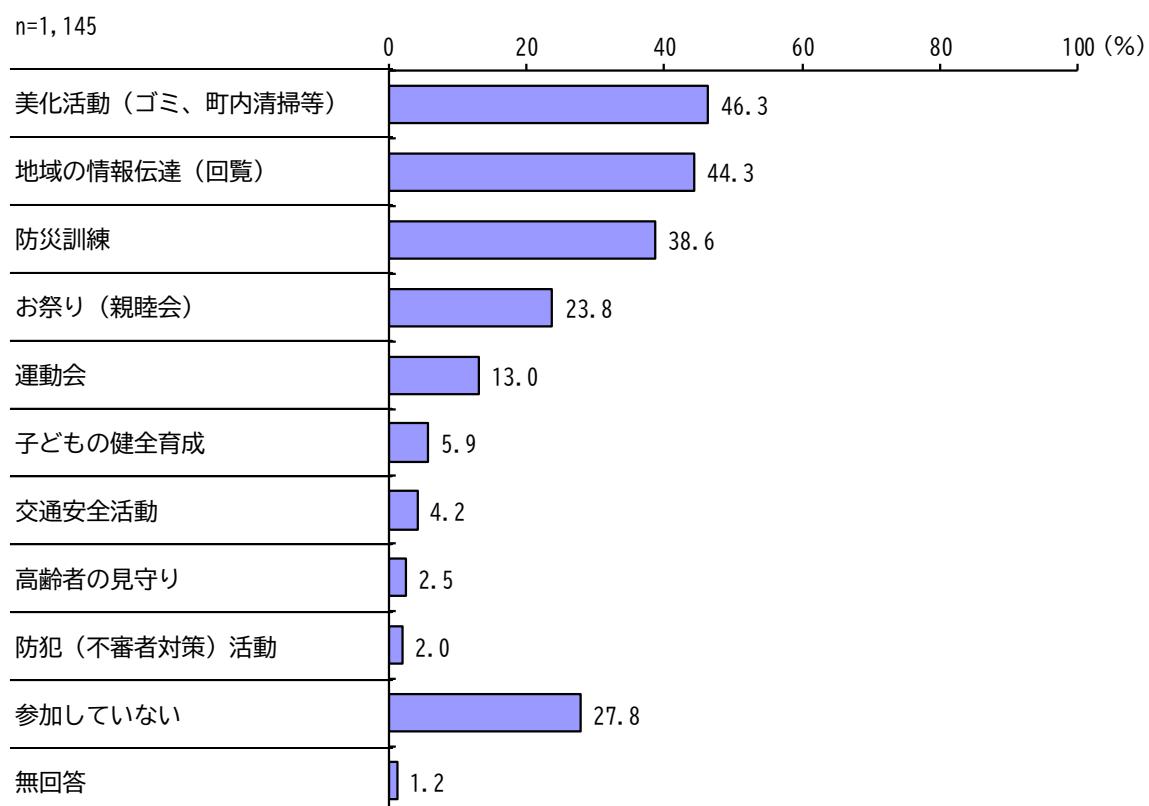
7 『自治会・町内会での活動』について

(1) 自治会・町内会での活動

問18 あなたは、自治会・町内会のどのような活動に参加されていますか。(○はいくつでも)

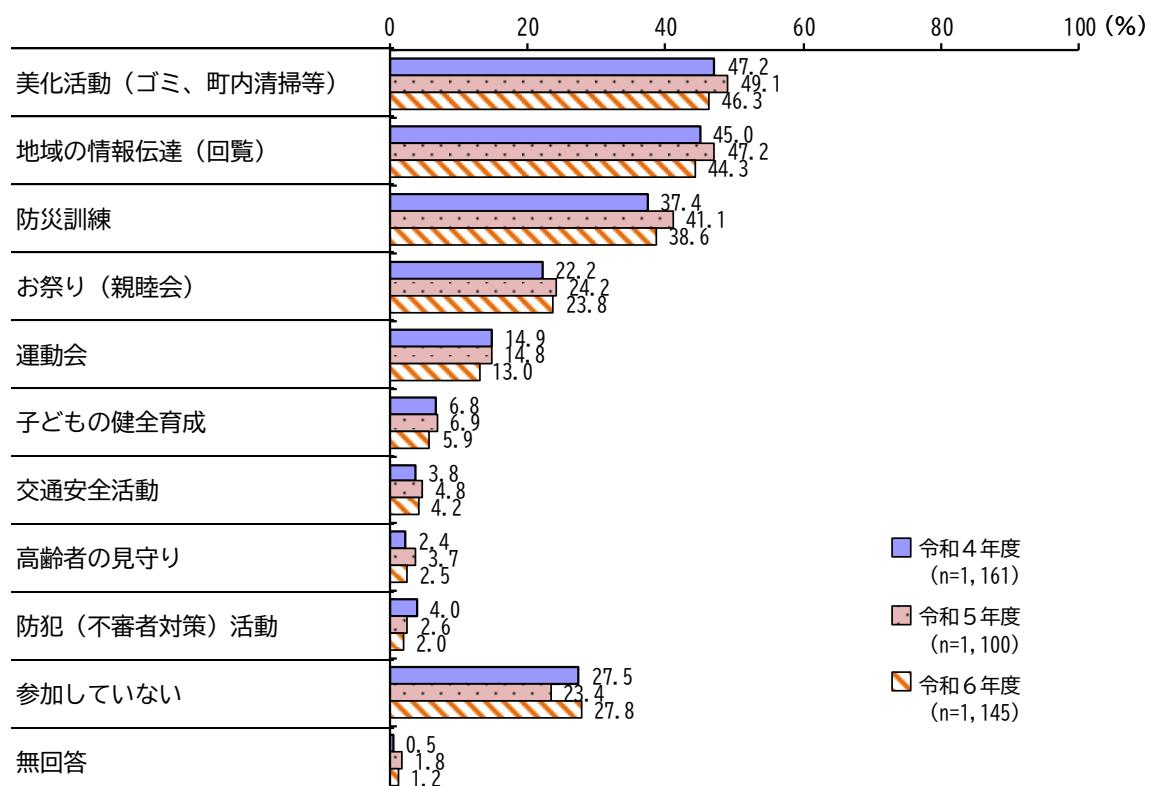
– 自治会・町内会の活動に“参加している”割合は 71.0% –

自治会・町内会での活動について、「美化活動（ゴミ、町内清掃等）」が 46.3%と最も高く、次いで「地域の情報伝達（回覧）」の割合が 44.3%、「防災訓練」が 38.6%と続いており、「参加していない」と「無回答」を除いた自治会・町内会の活動に“参加している”割合は 71.0%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、自治会・町内会活動は、「参加していない」を除くすべての項目で令和5年度より下がっており、「参加していない」は令和4年度と同じ水準まで戻っています。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、男性は「美化活動（ゴミ、町内清掃等）」（46.2%）が最も高く、女性は「地域の情報伝達（回覧）」（47.0%）が最も高くなっています。

年代別でみると、「参加していない」は年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向にあり、10代・20代（62.5%）では6割を超えています。

居住地区別でみると、すべての地区で「美化活動（ゴミ、町内清掃等）」が最も高くなっています。また、中郷で「地域の情報伝達（回覧）」が5割を超えて高くなっています。

区分		回答者数（件）	防災訓練	高齢者の見守り	防犯（不審者対策）活動	子どもの健全育成	お祭り（親睦会）	運動会	美化活動（ゴミ、町内清掃等）	交通安全活動	地域の情報伝達（回覧）	参加していない	無回答
全体		1,145	38.6	2.5	2.0	5.9	23.8	13.0	46.3	4.2	44.3	27.8	1.2
性別	男性	509	42.2	2.8	2.8	5.7	24.0	12.4	46.2	4.7	40.9	27.9	0.8
	女性	630	35.1	2.4	1.4	5.9	23.2	13.3	46.5	3.7	47.0	27.9	1.6
年代別	10代・20代	80	10.0	0.0	0.0	0.0	12.5	5.0	12.5	0.0	23.8	62.5	0.0
	30代	116	22.4	0.0	1.7	10.3	21.6	12.9	35.3	5.2	36.2	44.0	0.9
	40代	160	33.1	1.3	0.6	10.6	24.4	19.4	45.0	4.4	40.6	30.6	0.0
	50代	205	41.5	2.0	1.0	4.9	26.3	13.2	52.2	0.5	46.8	27.3	0.5
	60代	224	48.2	4.5	1.8	5.4	25.9	15.6	54.0	4.9	56.7	18.3	0.9
	70代以上	357	44.8	3.6	3.9	4.5	23.8	10.1	50.1	6.2	43.4	19.9	2.8
居住地区別	旧市内	269	33.5	1.9	2.6	6.3	20.1	7.8	37.9	4.5	37.9	36.4	1.1
	北上	243	34.6	2.9	0.4	5.3	27.2	11.1	57.6	2.1	43.6	25.1	0.8
	錦田	190	40.5	4.2	3.2	5.3	19.5	9.5	49.5	7.4	47.9	27.9	1.6
	中郷	237	46.0	1.3	1.7	6.3	27.8	23.6	51.1	4.6	51.1	19.4	1.3

1位

2位

3位

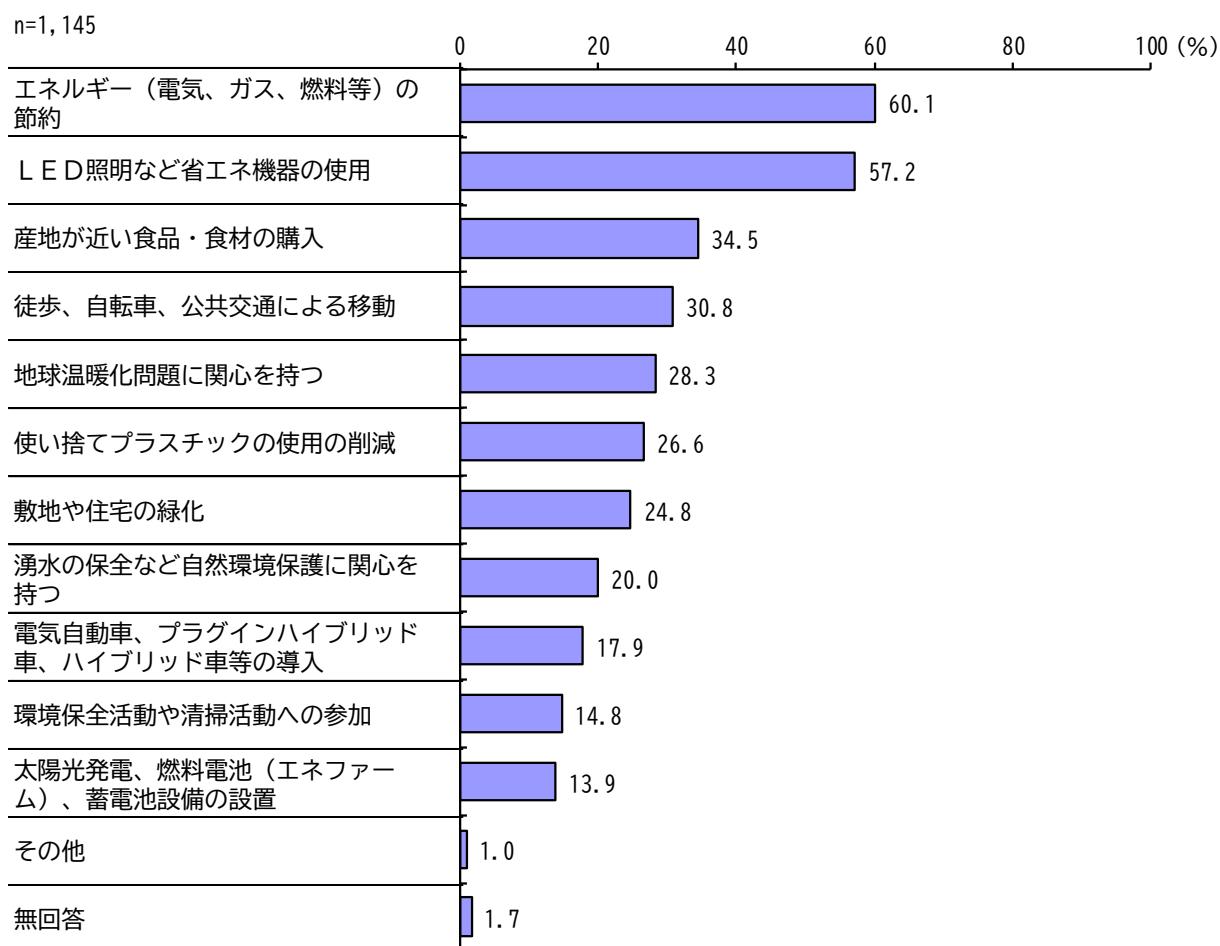
8 『環境への取り組み』について

(1) 環境に配慮するための取り組み

問 19 あなたは、環境に配慮するためどのような取り組みをしていますか。

– 行っている環境への取り組みは「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が 60.1% –

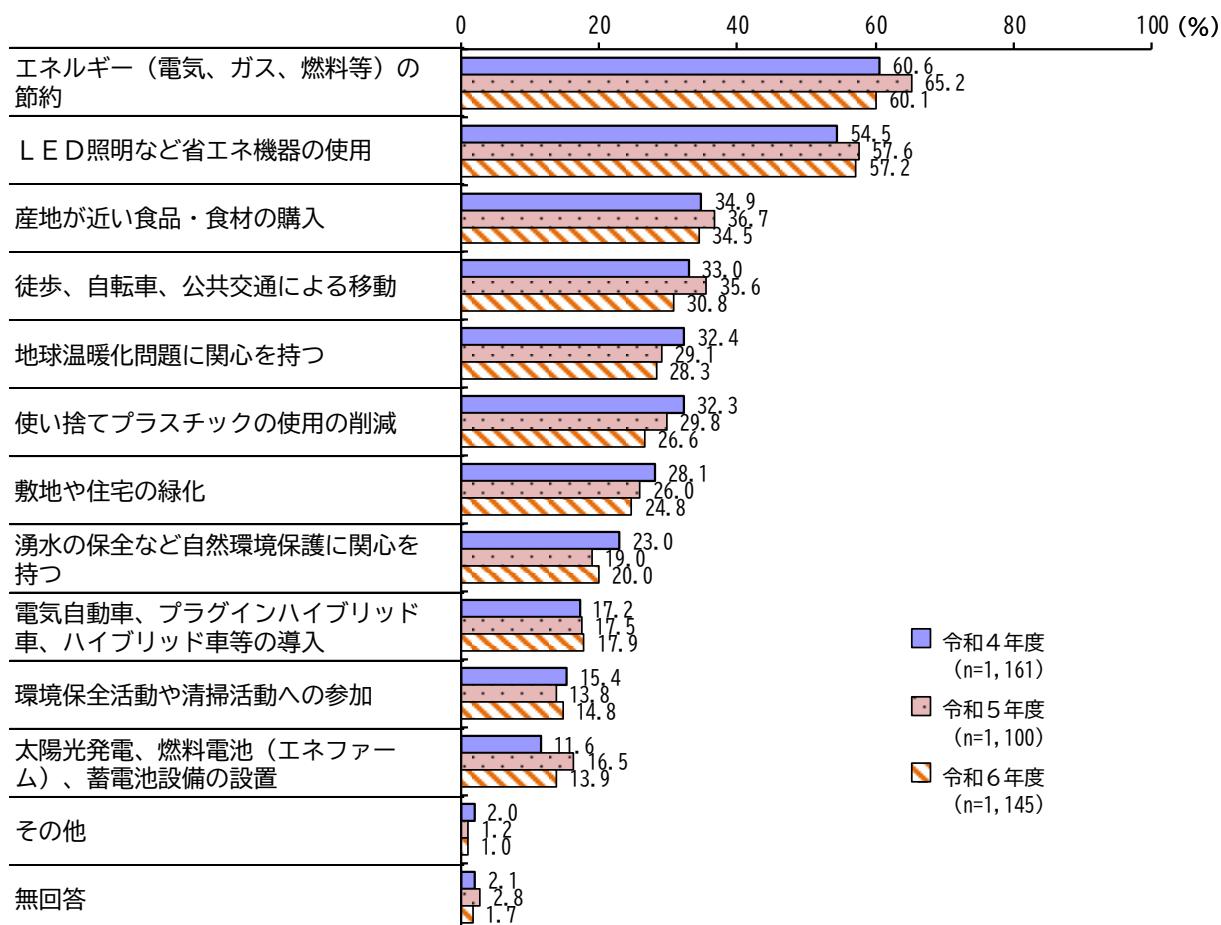
環境に配慮するためにしている取り組みについて、「エネルギー(電気、ガス、燃料等)の節約」が 60.1% と 6 割に達し最も高く、次いで「LED 照明など省エネ機器の使用」が 57.2%、「産地が近い食品・食材の購入」が 34.5% と続いています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、「エネルギー（電気、ガス、燃料等）の節約」と「徒歩、自転車、公共交通による移動」の割合が5ポイント程度、令和5年度より下がっています。



【属性別比較】

性別でみると、「エネルギー（電気、ガス、燃料等）の節約」、「使い捨てプラスチックの使用の削減」、「産地が近い食品・食材の購入」の割合は、男性より女性が10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、40代と50代で「LED照明など省エネ機器の使用」が最も高く、それ以外の年代では「エネルギー（電気、ガス、燃料等）の節約」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、「エネルギー（電気、ガス、燃料等）の節約」は、旧市内（59.1%）が6割を切って最も低くなっています。

		単位：%													
区分		回答者数（件）	工エネルギー（電気、ガス、燃料等）の節約	LED照明など省エネ機器の使用	太陽光発電、蓄電池設置	電気自動車、ハイブリッド車等の導入	歩、自転車、公共交通による移動	敷地や住宅の緑化	使い捨てプラスチックの使用の削減	産地が近い食品・食材の購入	環境保全活動や清掃活動への参加	地球温暖化問題に関心を持つ	湧水の保全など自然環境保護に関心を持つ	その他	無回答
全体		1,145	60.1	57.2	13.9	17.9	30.8	24.8	26.6	34.5	14.8	28.3	20.0	1.0	1.7
性別	男性	509	53.8	55.6	14.1	20.2	30.8	23.8	18.3	24.4	15.3	26.7	20.2	1.6	1.6
	女性	630	65.1	58.4	13.7	16.0	30.8	25.4	33.3	42.4	14.3	29.5	20.0	0.6	1.9
年代別	10代・20代	80	55.0	33.8	5.0	7.5	38.8	8.8	23.8	13.8	7.5	20.0	15.0	0.0	1.3
	30代	116	47.4	44.8	22.4	20.7	32.8	13.8	16.4	31.0	6.0	22.4	13.8	1.7	0.9
	40代	160	52.5	56.9	20.6	21.3	29.4	15.0	20.0	28.8	9.4	21.9	14.4	1.3	1.3
	50代	205	60.0	62.0	15.6	16.1	28.8	18.5	27.8	37.1	16.6	27.3	19.5	1.0	1.0
	60代	224	65.2	63.8	15.6	22.3	27.7	25.4	27.2	38.4	17.4	30.4	19.6	1.3	0.9
	70代以上	357	65.8	59.7	7.6	16.2	31.9	39.8	32.8	38.7	19.0	34.5	26.3	0.8	3.4
居住地区別	旧市内	269	59.1	53.2	7.8	16.0	42.0	19.0	31.6	39.4	15.2	29.7	26.4	0.4	2.2
	北上	243	61.3	59.7	14.8	19.8	31.7	29.2	25.1	37.0	16.5	29.2	18.5	1.6	1.6
	錦田	190	63.2	61.6	16.3	17.9	22.6	26.3	30.0	34.2	14.2	32.6	23.7	1.6	1.6
	中郷	237	63.3	57.4	15.2	19.8	24.9	29.1	24.1	31.2	16.5	30.0	17.7	0.8	1.7

1位

2位

3位

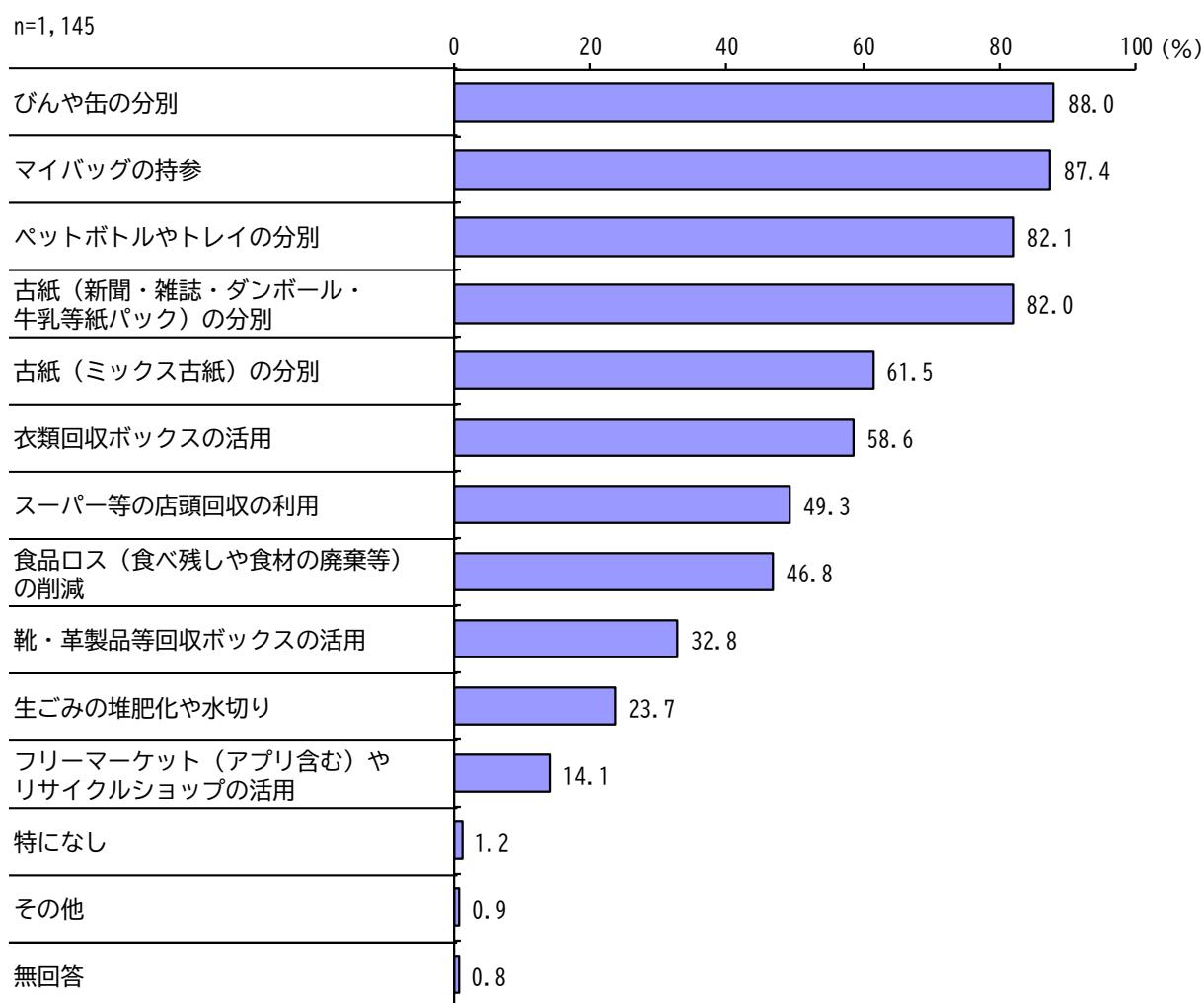
II 調査結果

(2) ゴミの減量やリサイクルへの取り組み

問20 ゴミの減量やリサイクルについて、どのような取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

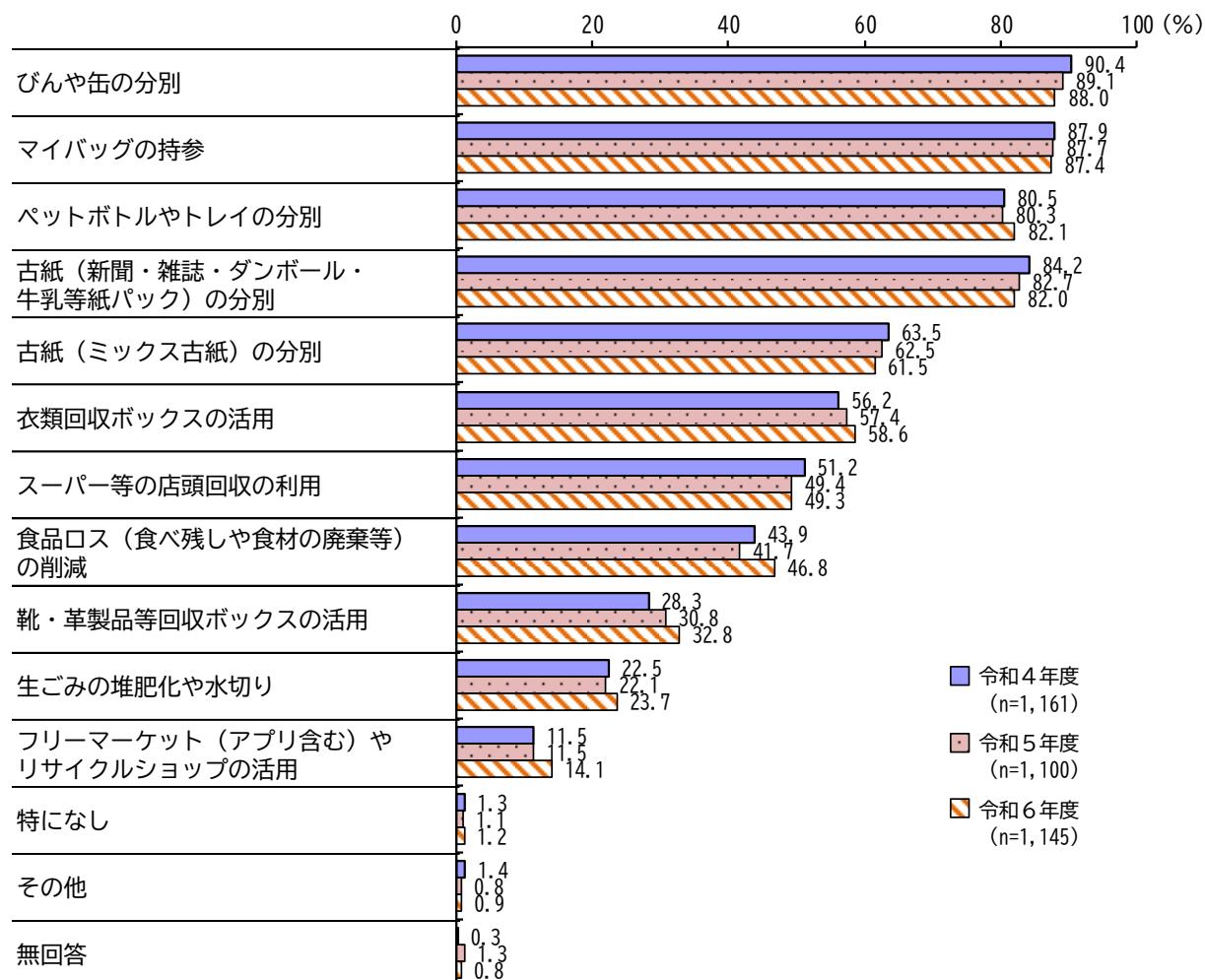
－ 行っているゴミの減量やリサイクルへの取り組みは「びんや缶の分別」が 88.0% －

ゴミの減量やリサイクルへの取り組みについて、「びんや缶の分別」が 88.0% と最も高く、次いで「マイバッグの持参」(87.4%)、「ペットボトルやトレイの分別」(82.1%)、「古紙（新聞・雑誌・ダンボール・牛乳等紙パック）の分別」(82.0%) が8割を超えて続いている。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「衣類回収ボックスの活用」や「靴・革製品等回収ボックスの活用」の割合が増加傾向にあります。また、「食品ロス（食べ残しや食材の廃棄等）の削減」は令和5年度より5.1ポイント上がっています。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、男性では「びんや缶の分別」(84.7%)が最も高く、女性では「マイバッグの持参」(93.2%)が最も高くなっています。

年代別でみると、40代以下では「マイバッグの持参」が最も高く、50代以上の年代では「びんや缶の分別」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、「びんや缶の分別」は錦田(92.1%)、「マイバッグの持参」は北上(92.2%)が9割を超えて最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	生ごみの堆肥化や水切り	牛乳等紙パックの分別	古紙(ミックス古紙)の分別	びんや缶の分別	ペットボトルやトレイの分別	スーパー等の店頭回収の利用	食品ロス(食べ残しや食材の廃棄等)の削減	マイバッグの持参	衣類回収ボックスの活用	靴・革製品等回収ボックスの活用	特なし	その他	無回答	
全体		1,145	23.7	82.0	61.5	88.0	82.1	49.3	14.1	46.8	87.4	58.6	32.8	1.2	0.9	0.8
性別	男性	509	19.6	80.0	57.0	84.7	78.4	44.2	11.8	38.3	80.2	50.9	28.5	2.4	1.2	1.0
	女性	630	27.1	83.5	65.1	90.6	84.9	53.3	16.0	53.2	93.2	65.1	36.3	0.3	0.6	0.6
年代別	10代・20代	80	12.5	56.3	41.3	60.0	66.3	28.8	17.5	46.3	72.5	35.0	13.8	1.3	2.5	1.3
	30代	116	6.9	63.8	40.5	79.3	78.4	53.4	26.7	49.1	86.2	53.4	30.2	0.9	0.0	0.0
	40代	160	15.6	78.8	61.3	83.1	84.4	49.4	19.4	41.3	85.6	65.6	41.3	3.1	0.6	0.0
	50代	205	22.9	83.4	66.8	92.7	84.4	56.6	16.1	48.8	89.3	65.4	34.1	2.4	0.5	0.0
	60代	224	26.3	90.2	68.3	93.8	86.2	54.0	9.8	44.6	92.0	64.3	40.6	0.9	1.3	0.4
	70代以上	357	34.2	89.1	65.5	93.0	81.8	45.7	8.4	48.7	88.0	54.9	28.6	0.0	0.8	2.0
居住地区別	旧市内	269	25.7	82.5	62.1	87.7	81.0	45.7	13.0	52.8	85.1	58.0	27.5	1.5	1.1	0.7
	北上	243	23.0	86.4	63.4	89.7	82.3	58.8	18.9	44.9	92.2	58.8	38.7	2.1	0.4	0.8
	錦田	190	24.2	81.1	67.4	92.1	83.7	48.4	12.1	43.2	88.4	60.5	34.2	1.1	2.1	0.5
	中郷	237	26.6	81.9	59.5	89.0	84.0	44.3	12.7	49.4	89.0	59.9	33.8	0.0	0.4	0.8

1位

2位

3位

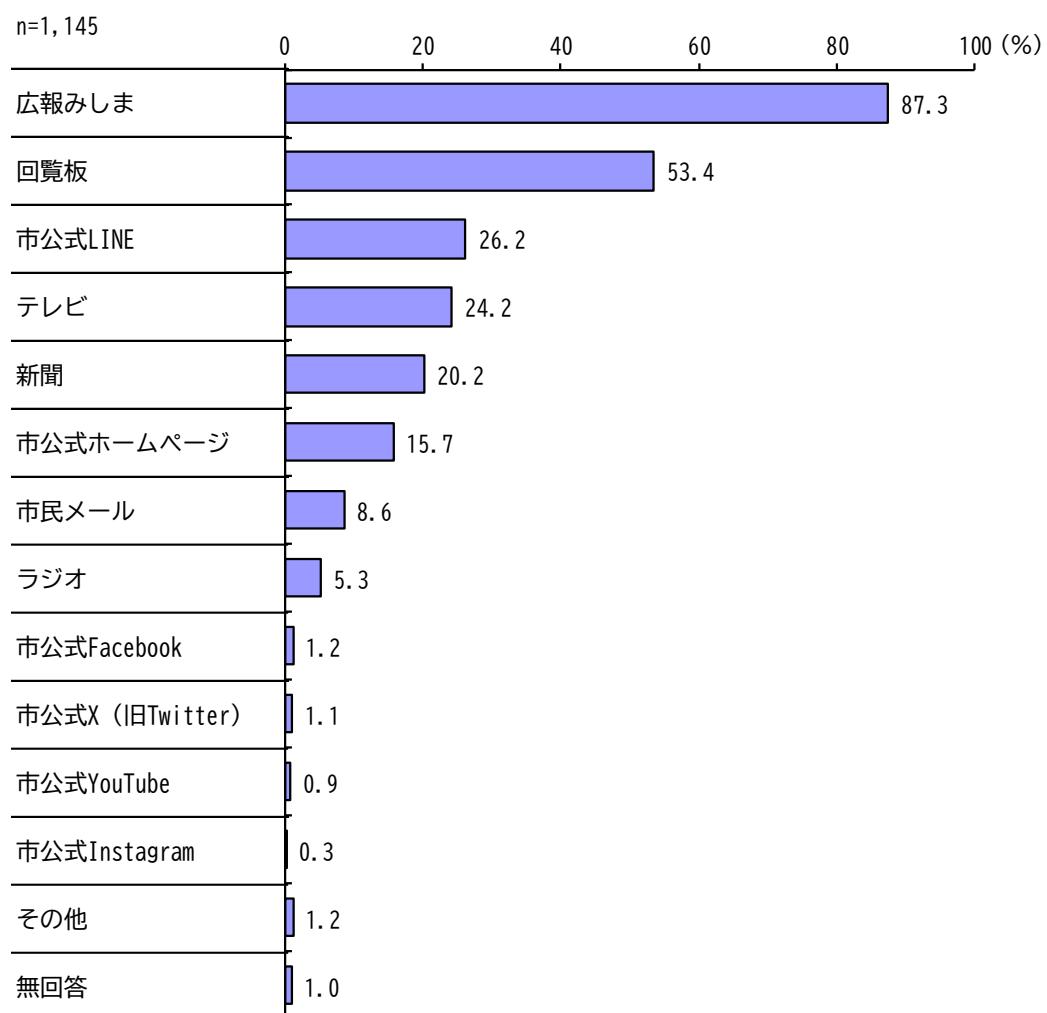
9 『広報活動』について

(1) 市政に関する情報入手先

問 21 市政に関する情報はどの媒体から入手していますか。(○はいくつでも)

– 市政に関する情報入手先は「広報みしま」が 87.3% –

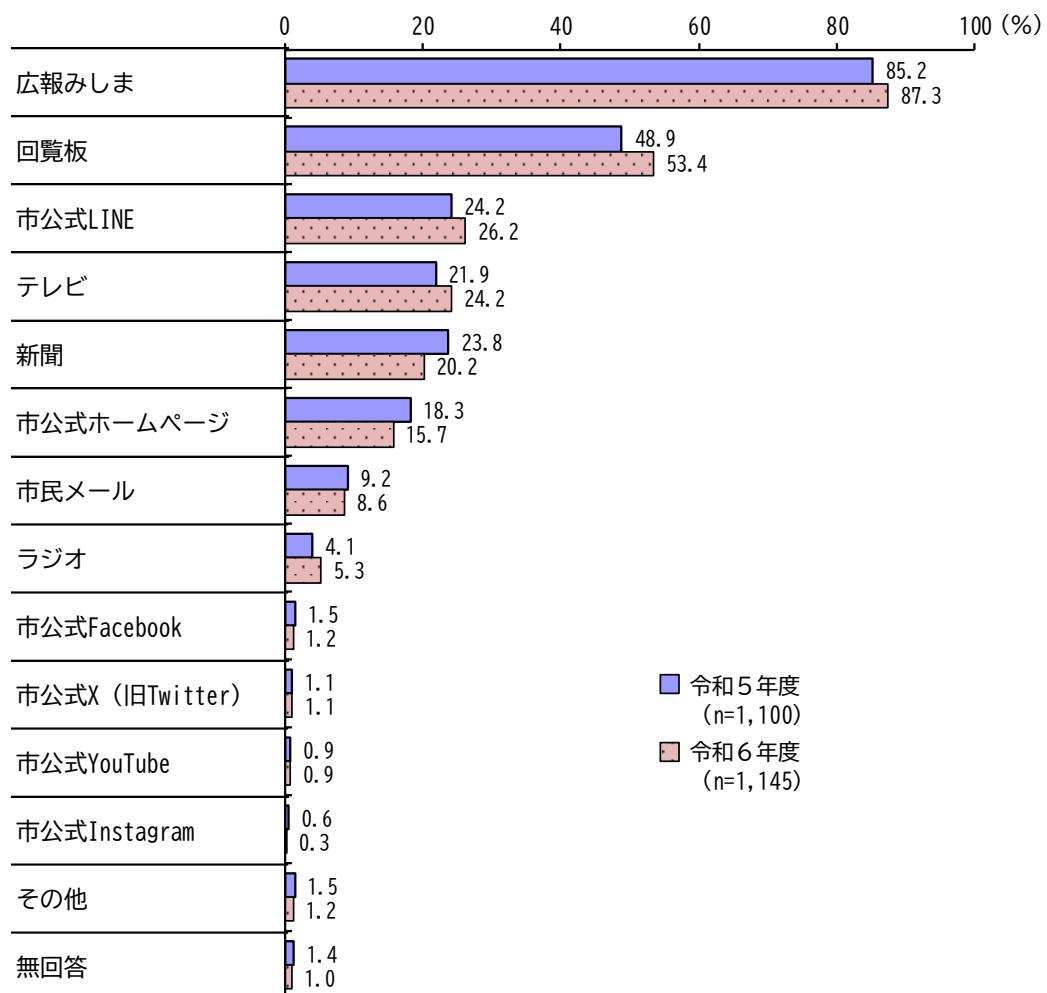
市政に関する情報入手先について、「広報みしま」が 87.3% と 8割半ばを超えて最も高く、次いで「回覧板」が 53.4%、「市公式 LINE」が 26.2% と続いています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、「回覧板」の割合が令和5年度より4.5ポイント上がっています。



【属性別比較】

性別でみると、「市公式LINE」の割合は、男性（21.0%）より女性（30.0%）が9.0ポイント高くなっています。

年代別でみると、「広報みしま」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60代以上で9割を超えています。また、「市公式LINE」は、40代（40.6%）で4割に達し、他の年代よりも高くなっています。

居住地区別でみると、「広報みしま」は、中郷（91.6%）が9割を超えて最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数（件）	新聞	テレビ	ラジオ	広報みしま	回覧板	市公式ホームページ	市民メール	市公式LINE	市公式Facebook	市公式X（旧Twitter）	市公式YouTube	市公式Instagram	その他	無回答
全体		1,145	20.2	24.2	5.3	87.3	53.4	15.7	8.6	26.2	1.2	1.1	0.9	0.3	1.2	1.0
性別	男性	509	20.4	23.0	4.9	85.3	49.7	18.3	5.7	21.0	1.6	1.0	1.0	0.2	1.4	1.4
	女性	630	20.2	25.4	5.7	88.9	56.3	13.8	11.0	30.0	1.0	1.3	0.8	0.2	1.1	0.8
年代別	10代・20代	80	8.8	25.0	5.0	71.3	32.5	11.3	1.3	32.5	1.3	2.5	2.5	0.0	0.0	1.3
	30代	116	5.2	16.4	3.4	75.9	31.9	18.1	7.8	36.2	0.9	3.4	0.9	0.9	3.4	0.9
	40代	160	7.5	15.0	3.1	86.3	45.6	22.5	6.3	40.6	4.4	3.1	1.3	0.0	3.1	1.3
	50代	205	16.1	20.0	5.4	86.8	46.3	21.0	12.7	28.3	2.0	0.5	0.5	0.5	1.0	0.5
	60代	224	21.0	25.0	4.5	90.6	59.4	17.9	9.4	27.2	0.4	0.0	1.3	0.0	0.9	0.4
	70代以上	357	35.3	32.8	7.6	93.3	69.5	8.7	8.7	12.9	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	1.7
居住地区別	旧市内	269	22.7	22.3	5.6	84.0	49.4	13.8	9.7	24.9	1.5	2.6	1.5	0.0	1.1	0.7
	北上	243	23.0	30.5	8.2	87.7	61.3	9.1	8.2	26.3	1.6	0.0	0.4	0.0	1.2	1.2
	錦田	190	21.1	26.3	3.7	86.8	51.1	19.5	12.1	28.4	1.6	0.5	0.5	1.1	2.1	0.0
	中郷	237	18.6	23.2	3.0	91.6	55.7	17.3	7.6	24.5	0.4	2.1	0.8	0.0	0.4	1.3

1位

2位

3位

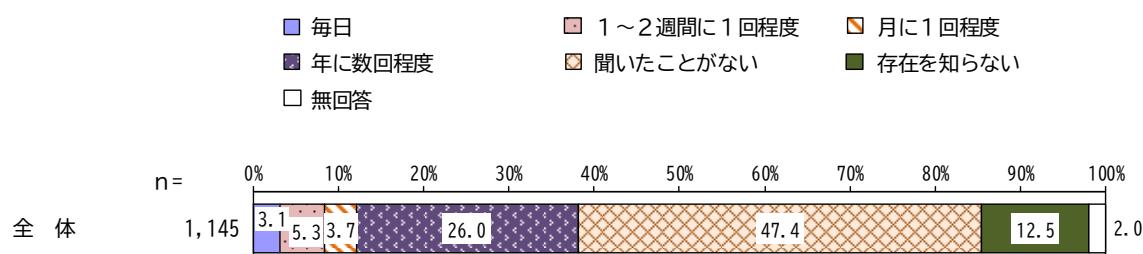
II 調査結果

(2) ボイス・キュー (FMみしまかんなみ) の聴取頻度

問22 ボイス・キュー(FMみしまかんなみ)をどのくらい聴いていますか。(○は一つ)

– ボイス・キュー(FMみしまかんなみ)の聴取頻度は「年に数回程度」が 26.0% –

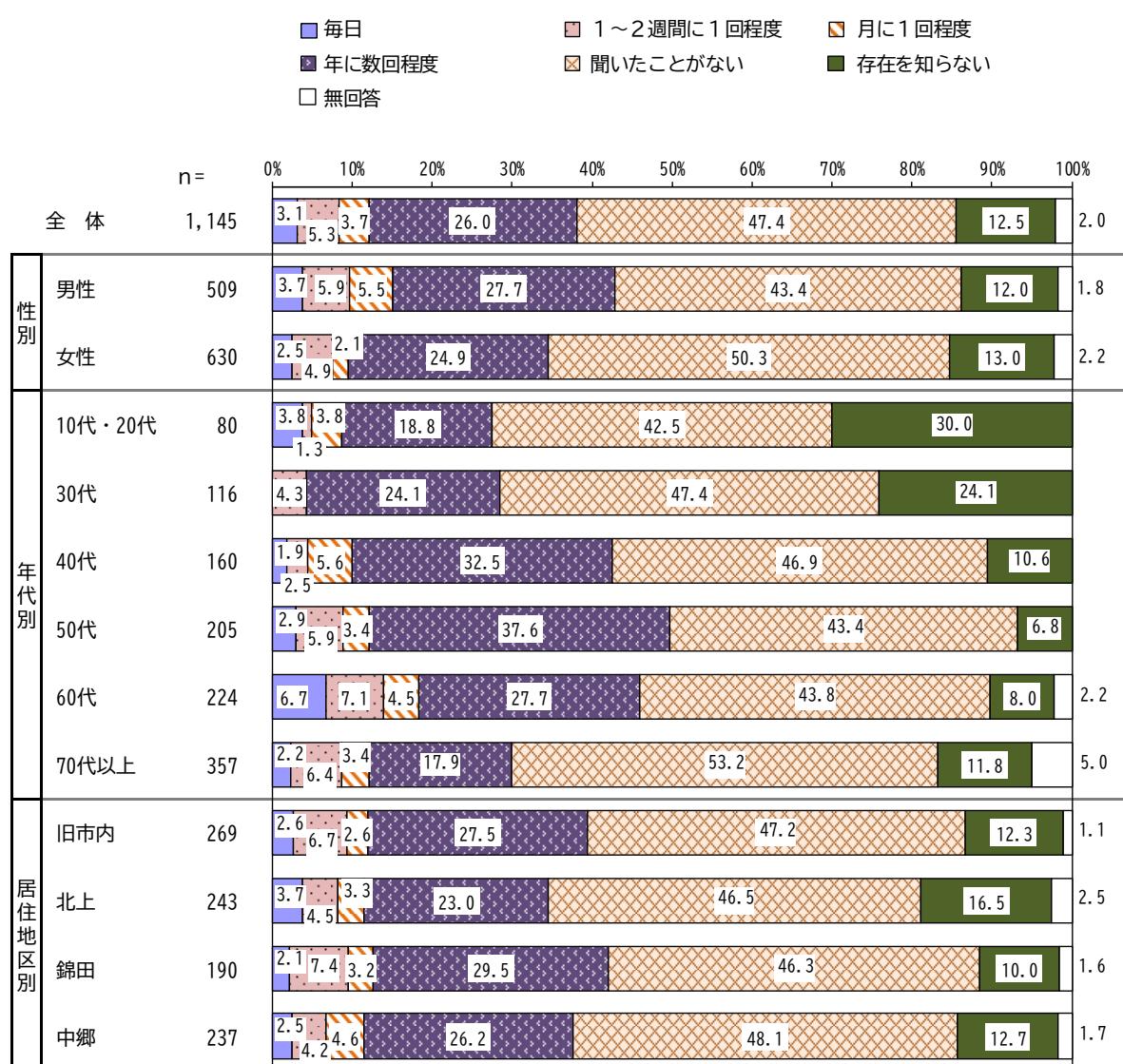
ボイス・キュー (FMみしまかんなみ) の聴取頻度について、「聞いたことがない」が 47.4% と最も高く、次いで「年に数回程度」が 26.0%、「存在を知らない」が 12.5% と続いています。



【属性別比較】

性別でみると、「聞いたことがない」は、男性 (43.4%) より女性 (50.3%) の割合が高くなっています。

年代別でみると、10・20代では、「存在を知らない」(30.0%) が3割を占めて高くなっています。居住地区別でみると、「聞いたことがない」はいずれの地区でも4割半ばを超えていました。



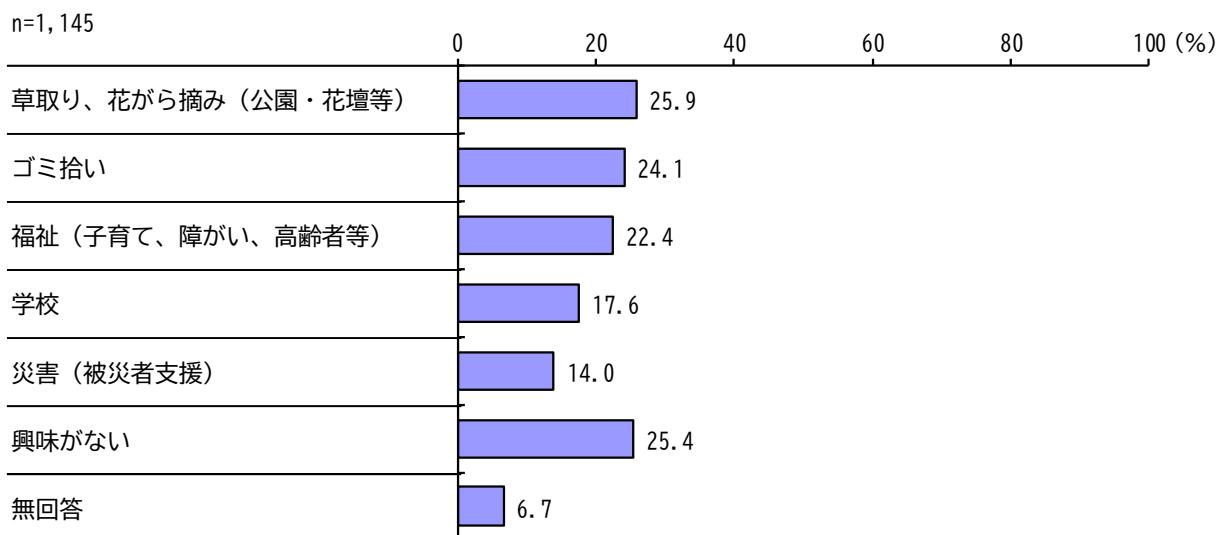
10 『ボランティア』について

(1) 参加したいボランティア活動

問 23 ボランティアについて参加してみたい活動はなんですか。(○はいくつでも)

– 参加してみたいボランティア活動は「草取り、花がら摘み(公園・花壇等)」が 25.9% –

参加してみたいボランティア活動について、「草取り、花がら摘み(公園・花壇等)」が 25.9% と最も高く、「ゴミ拾い」が 24.1%、「福祉(子育て、障がい、高齢者等)」が 22.4% と 2 割を超えて続いている。一方、「興味がない」は 25.4% と 2 割半ばを超えています。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、男性では「ゴミ拾い」(26.7%)が最も高く、女性では「福祉（子育て、障がい、高齢者等）」(28.6%)が最も高くなっています。

年代別でみると、40代以下では「学校」が最も高く、50代以上の年代では「草取り、花がら摘み（公園・花壇等）」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、「ゴミ拾い」は北上(30.0%)が3割に達し最も高くなっています。

区分		回答者数 (件)	高 福 祉 (子 育 て、 障 が い、 高 齢 者 等) 等)	学校	ゴ ミ 拾 い	草 取 り、 花 ガ ら 摘 み (公 園 ・ 花 壇 等) 等)	災 害 (被 災 者 支 援) 等)	興 味 が な い	無 回 答
全体		1,145	22.4	17.6	24.1	25.9	14.0	25.4	6.7
性別	男性	509	14.9	17.5	26.7	24.8	19.3	28.9	6.1
	女性	630	28.6	17.6	22.1	26.8	9.8	22.5	7.1
年代別	10代・20代	80	23.8	27.5	20.0	15.0	25.0	31.3	1.3
	30代	116	25.0	25.0	19.8	19.8	8.6	40.5	0.0
	40代	160	26.3	31.9	22.5	20.0	18.1	29.4	2.5
	50代	205	22.9	19.0	25.4	25.9	13.2	27.8	2.0
	60代	224	22.8	16.1	24.6	31.7	13.8	20.5	5.4
	70代以上	357	19.0	6.7	26.3	29.4	11.8	19.0	15.7
居住地区別	旧市内	269	23.8	17.1	24.2	25.3	13.4	24.9	5.9
	北上	243	23.5	15.2	30.0	28.4	12.3	24.3	7.0
	錦田	190	23.2	16.3	23.7	26.3	16.3	24.7	7.4
	中郷	237	26.2	17.3	24.9	27.4	15.6	21.9	5.5

1位

2位

3位

11 『災害対策』について

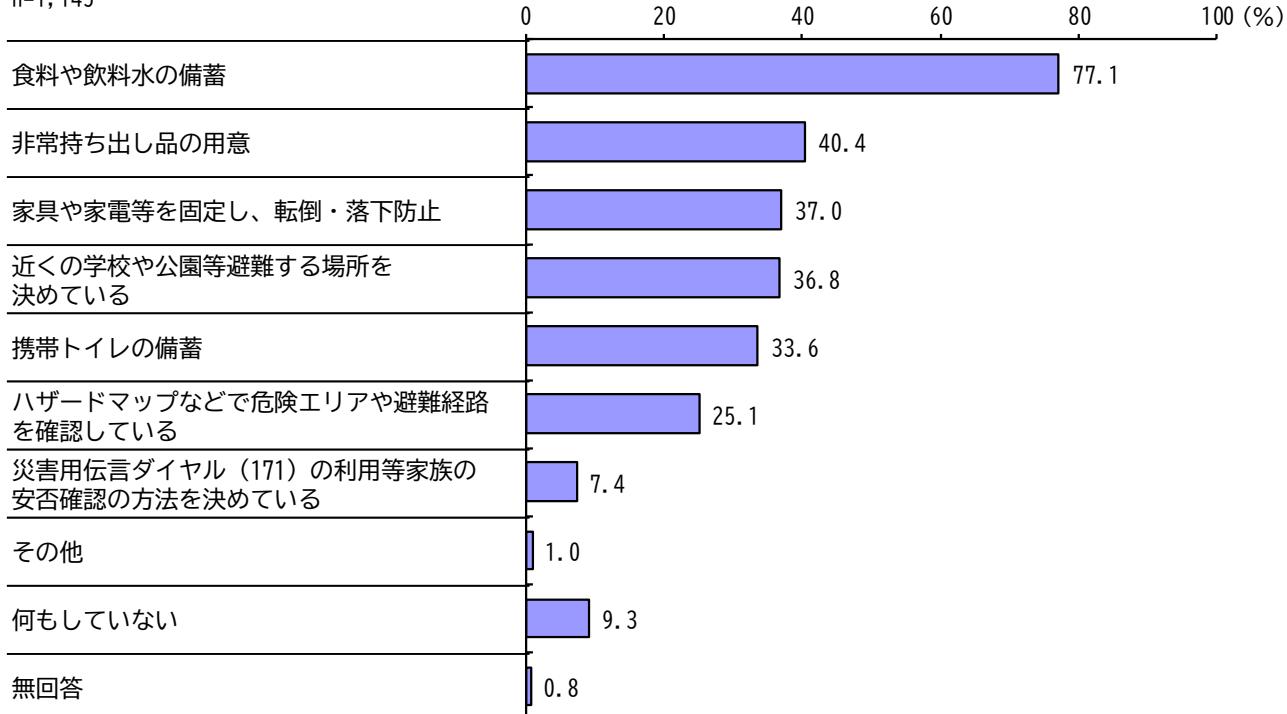
(1) 地震に備えた防災対策

問 24 あなたは、地震に備えてどのような防災対策をしていますか。(○はいくつでも)

– 地震に備えた防災対策は「食料や飲料水の備蓄」が 77.1% –

地震に備えた防災対策について、「食料や飲料水の備蓄」が 77.1% と 7 割半ばを超えて最も高く、次いで「非常持ち出し品の用意」が 40.4%、「家具や家電等を固定し、転倒・落下防止」が 37.0% と続いています。

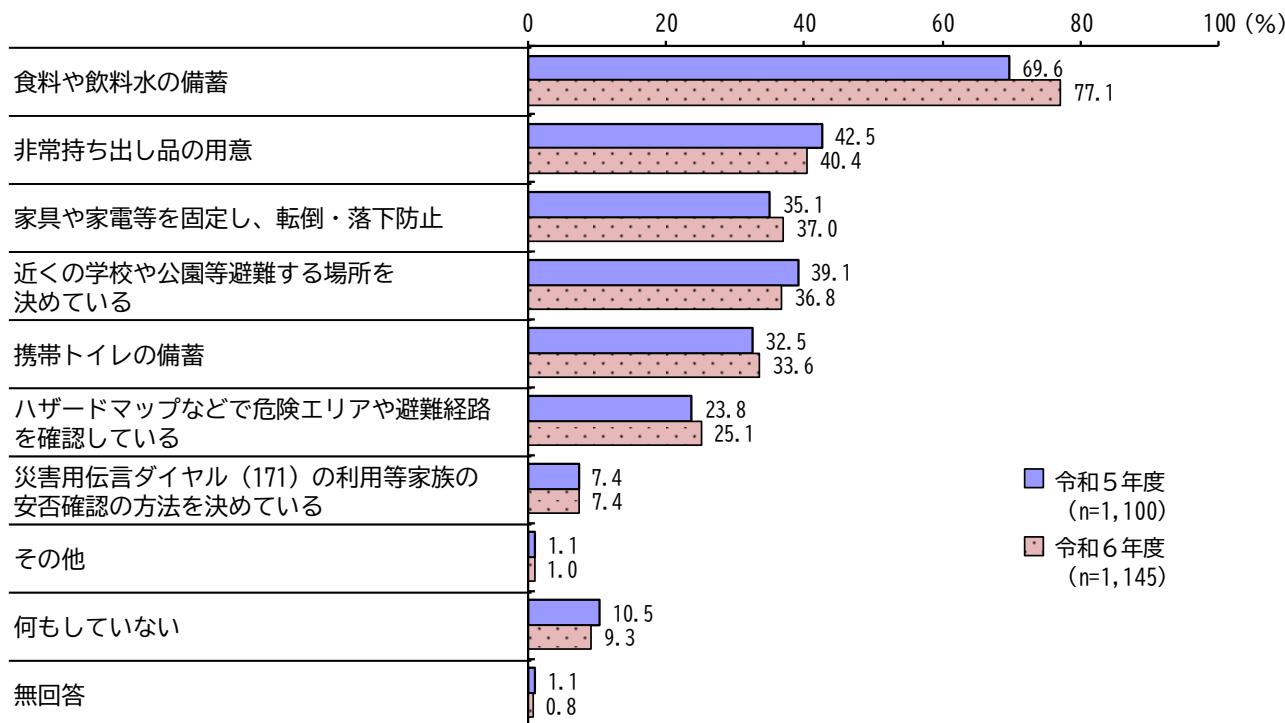
n=1,145



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、「食料や飲料水の備蓄」の割合が令和5年度より7.5ポイント上がっています。



【属性別比較】

性別でみると、「携帯トイレの備蓄」は、男性（26.3%）より女性（39.7%）の割合が13.4ポイント高くなっています。

年代別でみると、「食料や飲料水の備蓄」は60代以上の年代で8割を超えて高くなっています。

居住地区別でみると、「家具や家電等を固定し、転倒・落下防止」は、北上（45.3%）が4割半ばを超えて他の地区よりも高くなっています。

単位：%

区分		回答者数 (件)	食 料 や 飲 料 水 の 備 蓄	携 帶 ト イ レ の 備 蓄	非 常 持 ち 出 し 品 の 用 意	転 倒 ・ 落 下 防 止	家 具 や 家 電 等 を 固 定 し 、 落 下 防 止	利 用 等 家 族 の 安 否 確 認 の 方 法 を 決 め て い る ダ イ ヤ ル （ 1 7 1 ）	災 害 用 い る 伝 言 の 安 否 確 認 の 方 法 を 決 め て い る ダ イ ヤ ル （ 1 7 1 ）	近 く の 学 校 や 公 園 等 避 難 す る 場 所	ハ ザ ー ド マ ツ ブ な ど で 危 険 ア リ ア	ハ ザ ー ド マ ツ ブ な ど で 危 険 ア リ ア	そ の 他	何 も し て い な い	無 回 答
全体		1,145	77.1	33.6	40.4	37.0	7.4	36.8	25.1	1.0	9.3	0.8			
性 別	男性	509	75.0	26.3	40.5	37.3	8.4	36.5	26.3	1.2	10.6	1.0			
	女性	630	78.6	39.7	40.3	37.0	6.5	36.5	24.0	0.8	8.3	0.6			
年 代 別	10代・20代	80	60.0	21.3	28.8	26.3	7.5	27.5	18.8	1.3	23.8	0.0			
	30代	116	71.6	35.3	44.8	29.3	4.3	27.6	28.4	0.9	15.5	0.0			
	40代	160	74.4	36.3	37.5	27.5	6.9	33.1	24.4	2.5	11.9	0.0			
	50代	205	76.6	34.1	38.5	41.5	9.8	40.0	28.3	1.0	11.7	0.5			
	60代	224	83.5	39.3	40.6	38.4	7.1	35.7	27.7	0.9	4.5	0.4			
	70代以上	357	80.1	31.1	44.0	43.1	7.6	42.3	22.1	0.3	4.5	2.0			
居 住 地 区 別	旧市内	269	78.1	37.9	43.9	37.5	5.9	32.7	23.8	0.4	11.2	0.0			
	北上	243	78.6	32.9	41.6	45.3	7.4	42.0	21.0	0.0	7.8	0.8			
	錦田	190	77.4	33.7	41.6	35.8	7.4	36.8	25.8	2.1	6.8	0.0			
	中郷	237	79.3	35.0	37.1	35.0	9.3	39.2	30.4	1.3	8.4	0.8			

1位

2位

3位

II 調査結果

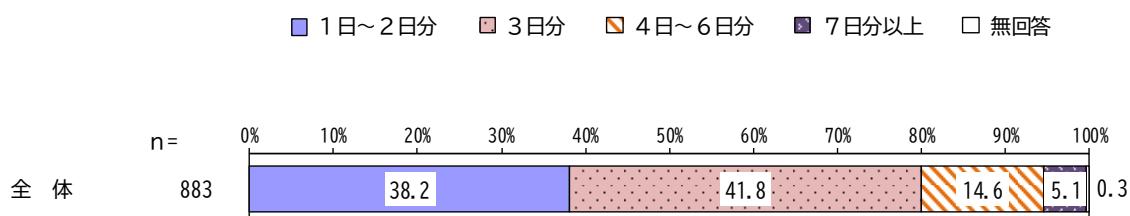
(2) 災害時用の備蓄状況

問24で「食料や飲料水の備蓄」を選択された方にお聞きします。

問25 あなたは、災害時に何日分の食料(レトルト食品、ラーメン、缶詰などを含む)や飲料水の備蓄(ひとり1日あたり3リットルで計算)をしていますか。(○は一つ)

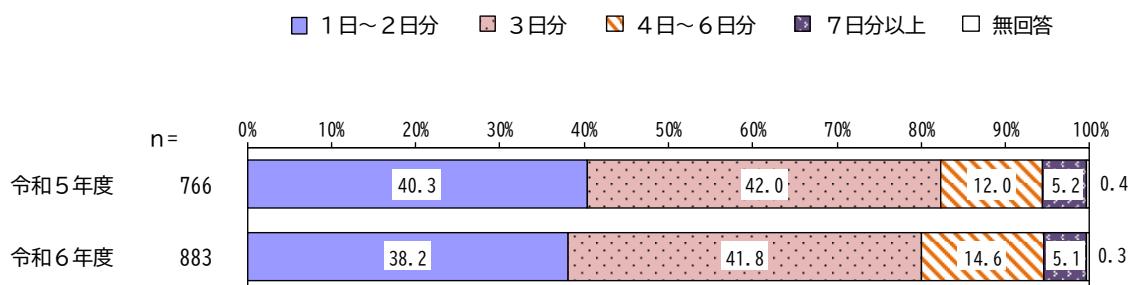
- 災害時用の食料・飲料水の備蓄状況は“1～3日分”が80.0% -

災害時用の食料・飲料水の備蓄状況について、「3日分」が41.8%と最も高く、次いで「1日～2日分」が38.2%となっており、二つ合わせた“1～3日分”で80.0%と8割を占めています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「4日～6日分」の割合は令和5年度より2.6ポイント上がっています。

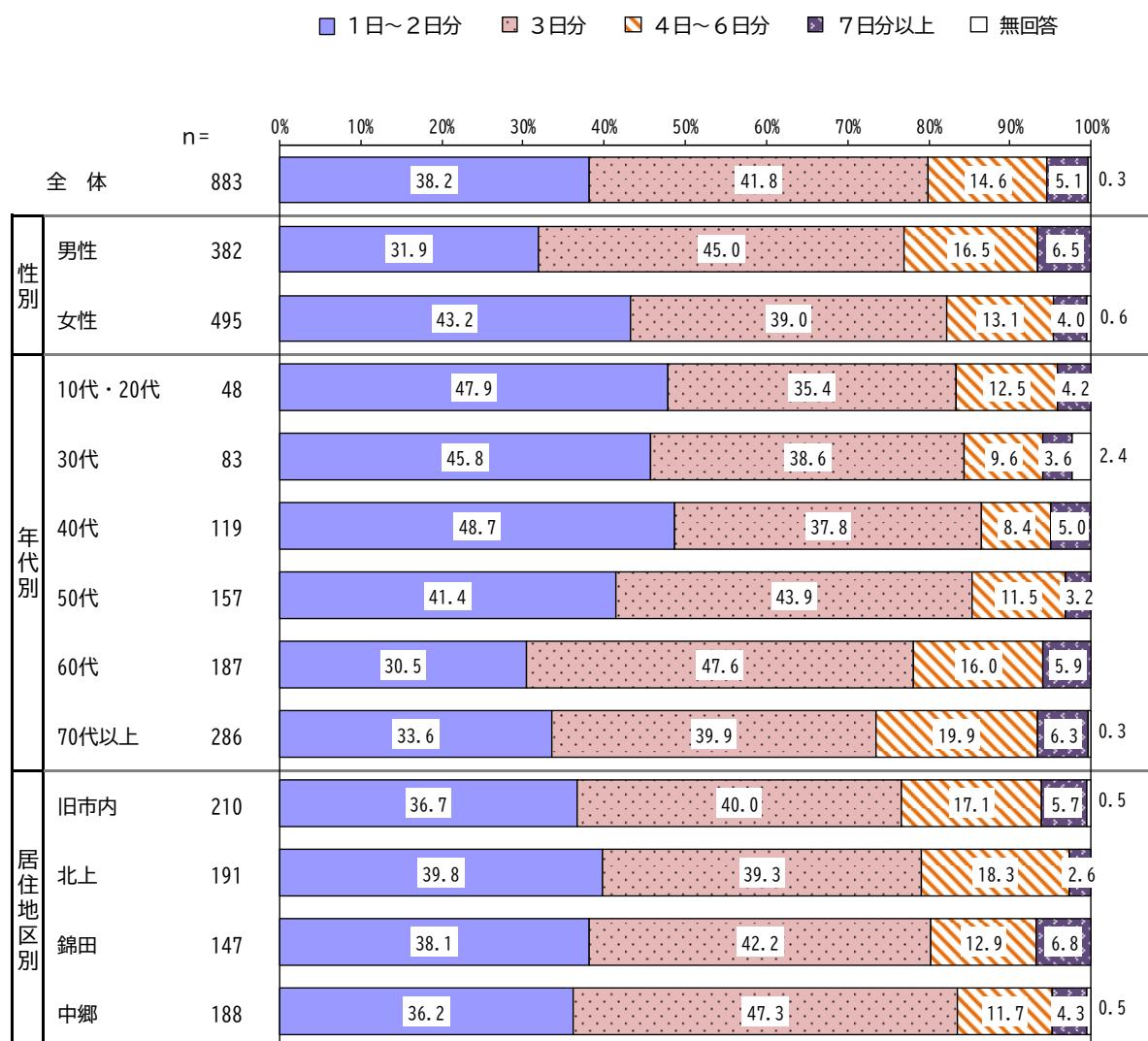


【属性別比較】

性別でみると、男性では「3日分」(45.0%)が最も高く、女性では「1日～2日分」(43.2%)が最も高くなっています。

年代別でみると、40代以下の年代では「1日～2日分」が4割半ばを超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「3日分」は、中郷(47.3%)が、最も高くなっています。



II 調査結果

12 『図書館』について

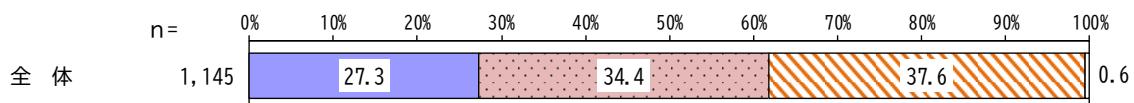
(1) 図書館の利用状況

問 26 市内の図書館(図書館・中郷分館・移動図書館ジンタ号)を利用したことがありますか。
(○は一つ)

- 図書館を「1年以内に利用したことがある」が 27.3% -

図書館の利用状況について、「全く利用したことがない」が 37.6% と最も高く、次いで「1年以内にはないが、それ以前には利用したことがある」が 34.4%、「1年以内に利用したことがある」が 27.3% と続いています。

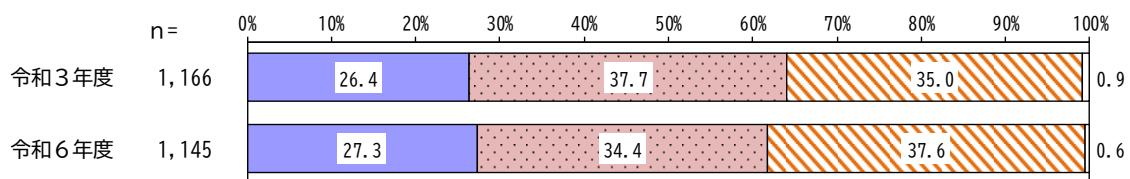
- 1年以内に利用したことがある
- 1年以内にはないが、それ以前には利用したことがある
- 全く利用したことがない
- 無回答



【経年比較】

過去調査と比較すると、「全く利用したことがない」割合は令和3年度より 2.6 ポイント上がって います。

- 1年以内に利用したことがある
- 1年以内にはないが、それ以前には利用したことがある
- 全く利用したことがない
- 無回答

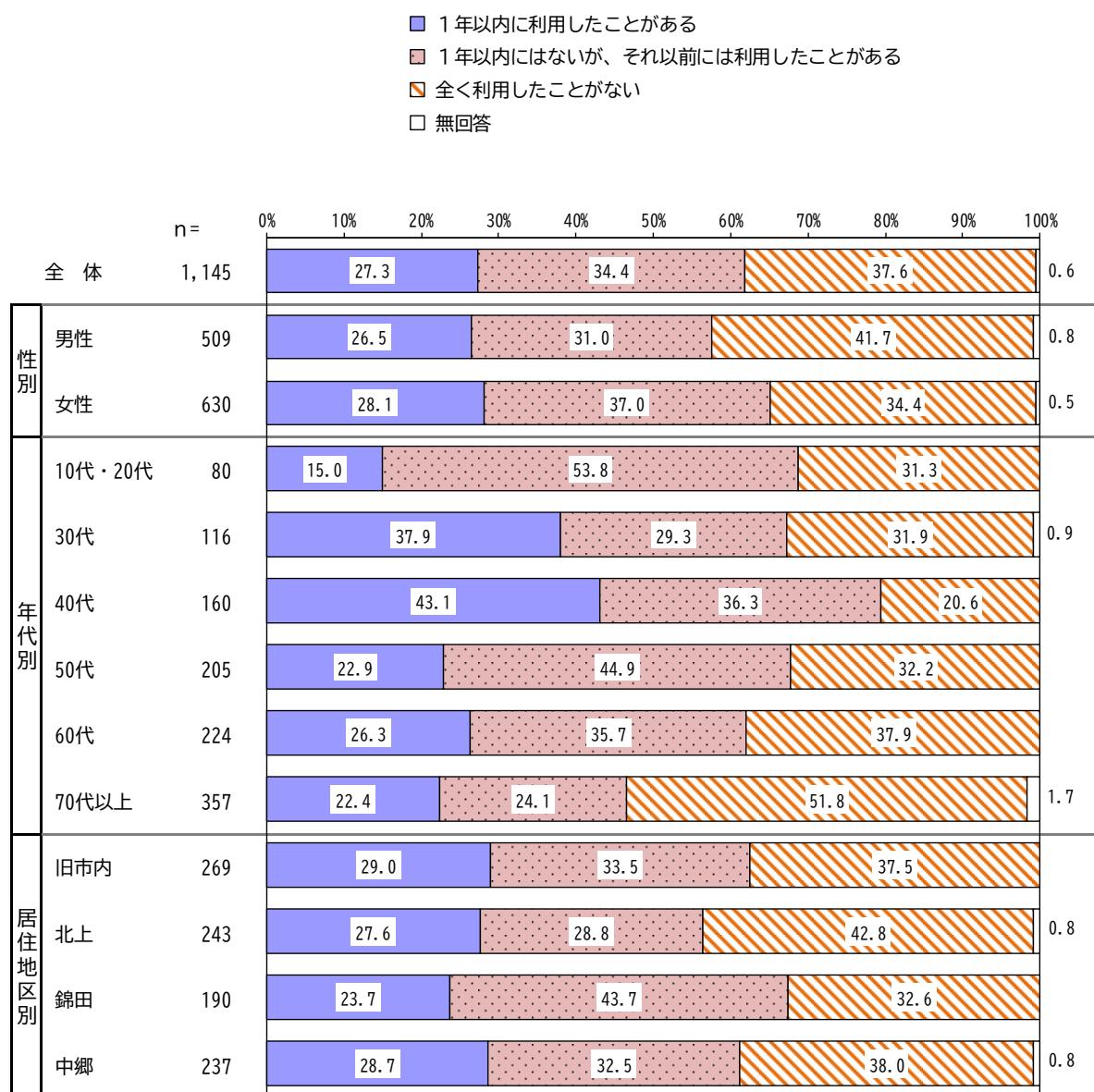


【属性別比較】

性別でみると、「全く利用したことがない」割合は、男性（41.7%）が女性（34.4%）よりも高くなっています。

年代別でみると、30代と40代では「1年以内に利用したことがある」割合が3割半ばを超えて最も高くなっていますが、10代・20代では15.0%と2割を切って他の年代より低くなっています。また、「全く利用したことがない」は70代以上で5割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「全く利用したことがない」は、北上（42.8%）が、4割を超えて最も高くなっています。



II 調査結果

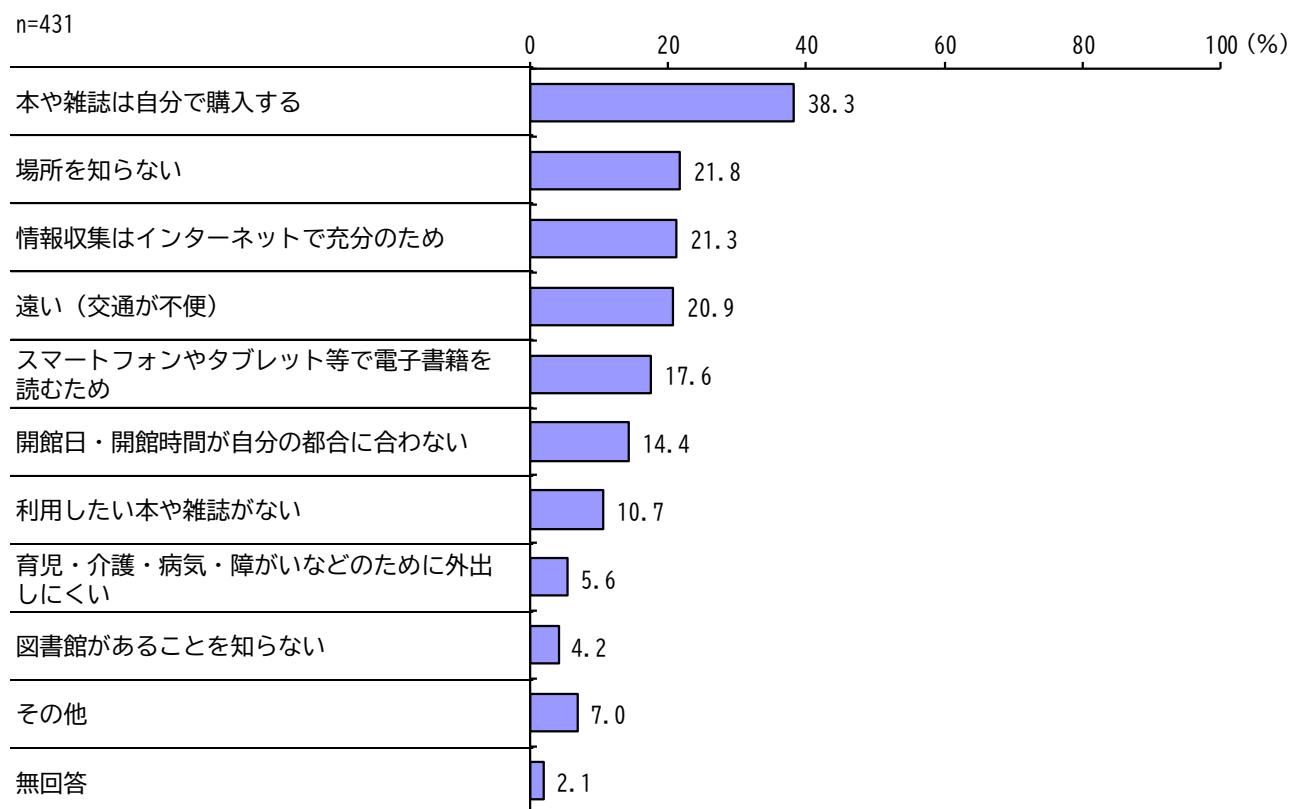
(2) 図書館を利用しない理由

問26で「全く利用したことがない」を選択された方にお聞きします。

問27 利用しないのは、なぜですか。(○はいくつでも)

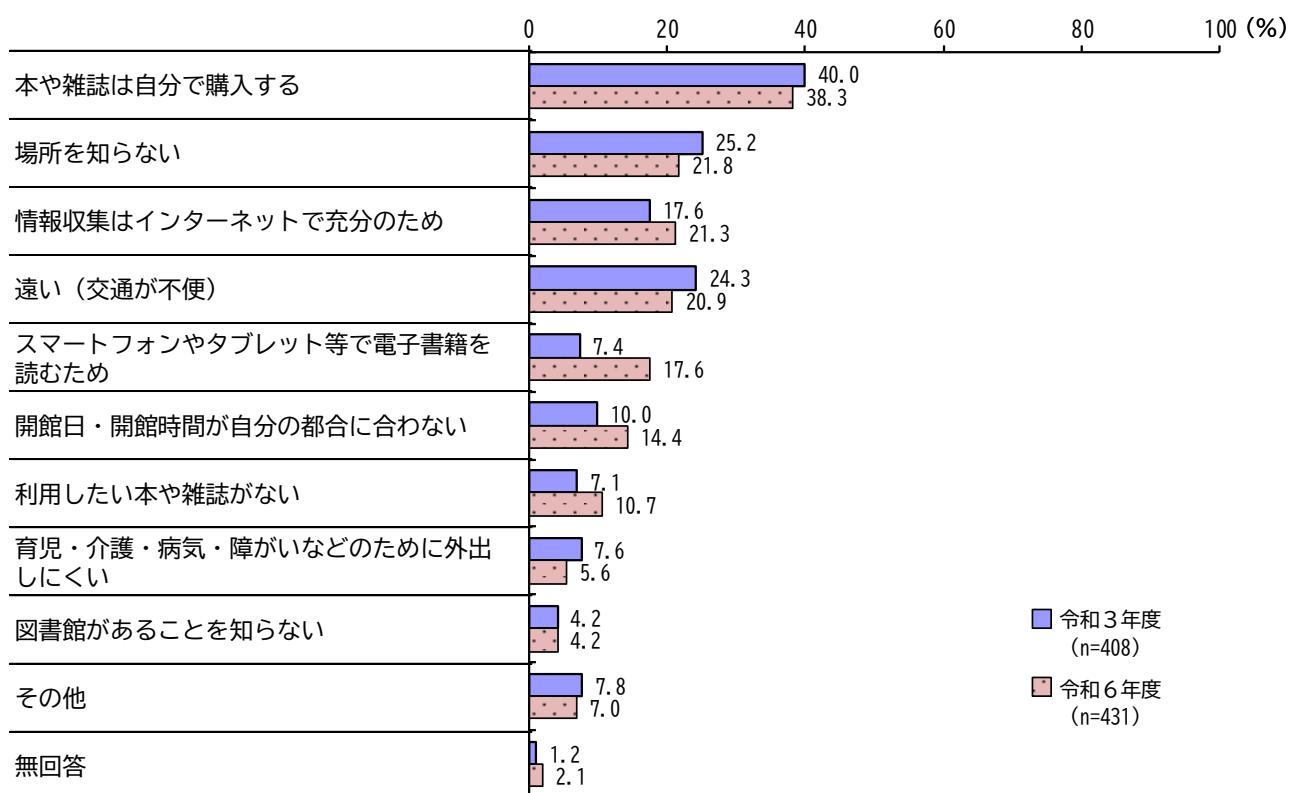
- 図書館を利用しない理由は「本や雑誌は自分で購入する」が38.3% -

図書館を利用しない理由について、「本や雑誌は自分で購入する」が38.3%と最も高く、次いで「場所を知らない」が21.8%、「情報収集はインターネットで充分のため」が21.3%と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「スマートフォンやタブレット等で電子書籍を読むため」の割合は、令和3年度より10.2ポイント上がっています。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、「情報収集はインターネットで充分のため」の割合は、男性が女性より 10.8 ポイント高くなっています。

年代別でみると、40 代以下の年代では「場所を知らない」、50 代以上では「本や雑誌は自分で購入する」が最も高くなっています。また、30 代以下の年代では「スマートフォンやタブレット等で電子書籍を読むため」が4割に達して高くなっています。

居住地区別でみると、「遠い（交通が不便）」は、中郷（26.7%）が、2割半ばを超えて最も高くなっています。

単位：%

区分		回答者数（件）	遠い（交通が不便）	場所を知らない	都開館日・開館時間が自分の	利用したい本や雑誌がない	図書館があることを知らな	本や雑誌は自分で購入する	スマートフォンやタブレッ	ト等で電子書籍を読むため	情報収集はインターネット	な育児・介護・外出気に障りがない	その他	無回答
全体		431	20.9	21.8	14.4	10.7	4.2	38.3	17.6	21.3	5.6	7.0	2.1	
性別	男性	212	17.5	25.0	11.8	11.8	5.2	34.4	21.2	26.9	2.8	6.1	0.9	
	女性	217	24.4	18.4	17.1	9.7	2.8	41.9	14.3	16.1	8.3	7.8	3.2	
年代別	10代・20代	25	20.0	40.0	4.0	16.0	4.0	28.0	40.0	20.0	12.0	0.0	0.0	
	30代	37	8.1	45.9	8.1	5.4	10.8	29.7	40.5	27.0	5.4	5.4	0.0	
	40代	33	6.1	36.4	27.3	18.2	6.1	27.3	21.2	24.2	3.0	9.1	0.0	
	50代	66	18.2	13.6	24.2	19.7	1.5	39.4	25.8	36.4	1.5	10.6	0.0	
	60代	85	23.5	15.3	14.1	9.4	4.7	40.0	12.9	27.1	2.4	5.9	0.0	
	70代以上	185	25.9	17.8	11.4	7.0	3.2	42.2	8.6	11.9	8.1	7.0	4.9	
居住地区別	旧市内	101	16.8	16.8	12.9	5.9	1.0	38.6	20.8	18.8	6.9	8.9	2.0	
	北上	104	21.2	20.2	18.3	12.5	1.9	41.3	15.4	24.0	3.8	8.7	2.9	
	錦田	62	16.1	22.6	9.7	9.7	4.8	35.5	14.5	19.4	4.8	4.8	1.6	
	中郷	90	26.7	21.1	14.4	11.1	7.8	42.2	16.7	21.1	7.8	7.8	1.1	

1位

2位

3位

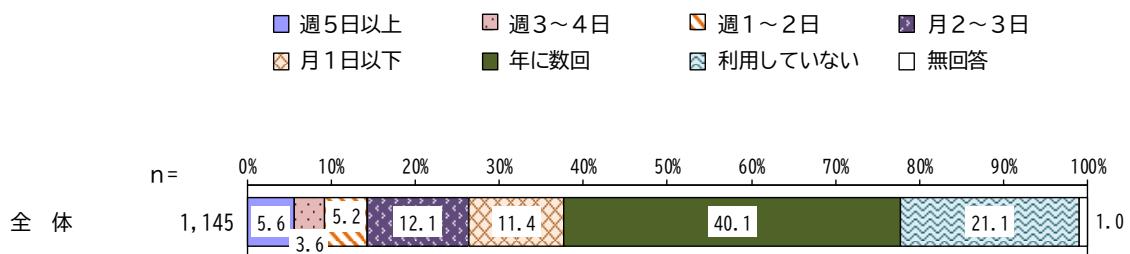
13 『公共交通』について

(1) 公共交通の利用状況

問 28 過去1年間に公共交通(電車、バス、タクシー)をどの程度利用しましたか。(○は一つ)

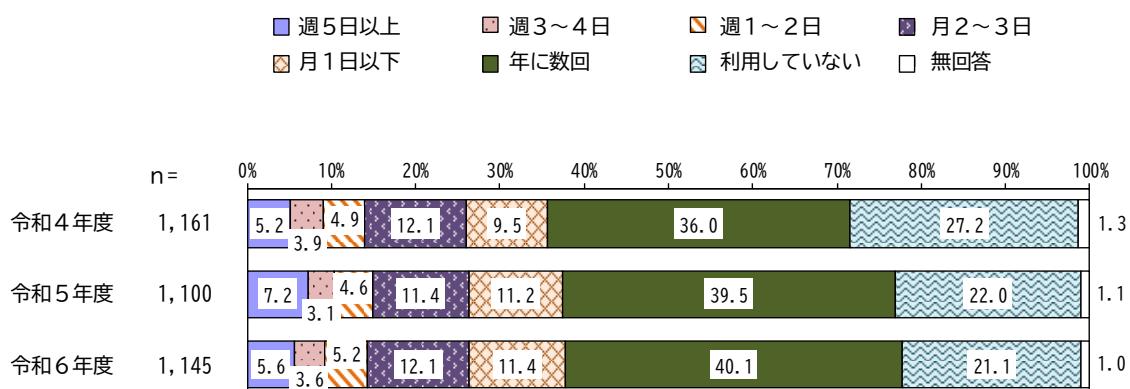
– 過去1年間の公共交通の利用状況は「年に数回」が40.1% –

過去1年間の公共交通の利用状況について、「年に数回」が40.1%と最も高く、次いで「利用していない」が21.1%、「月2~3日」が12.1%と続いています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「利用していない」は減少傾向にあります。



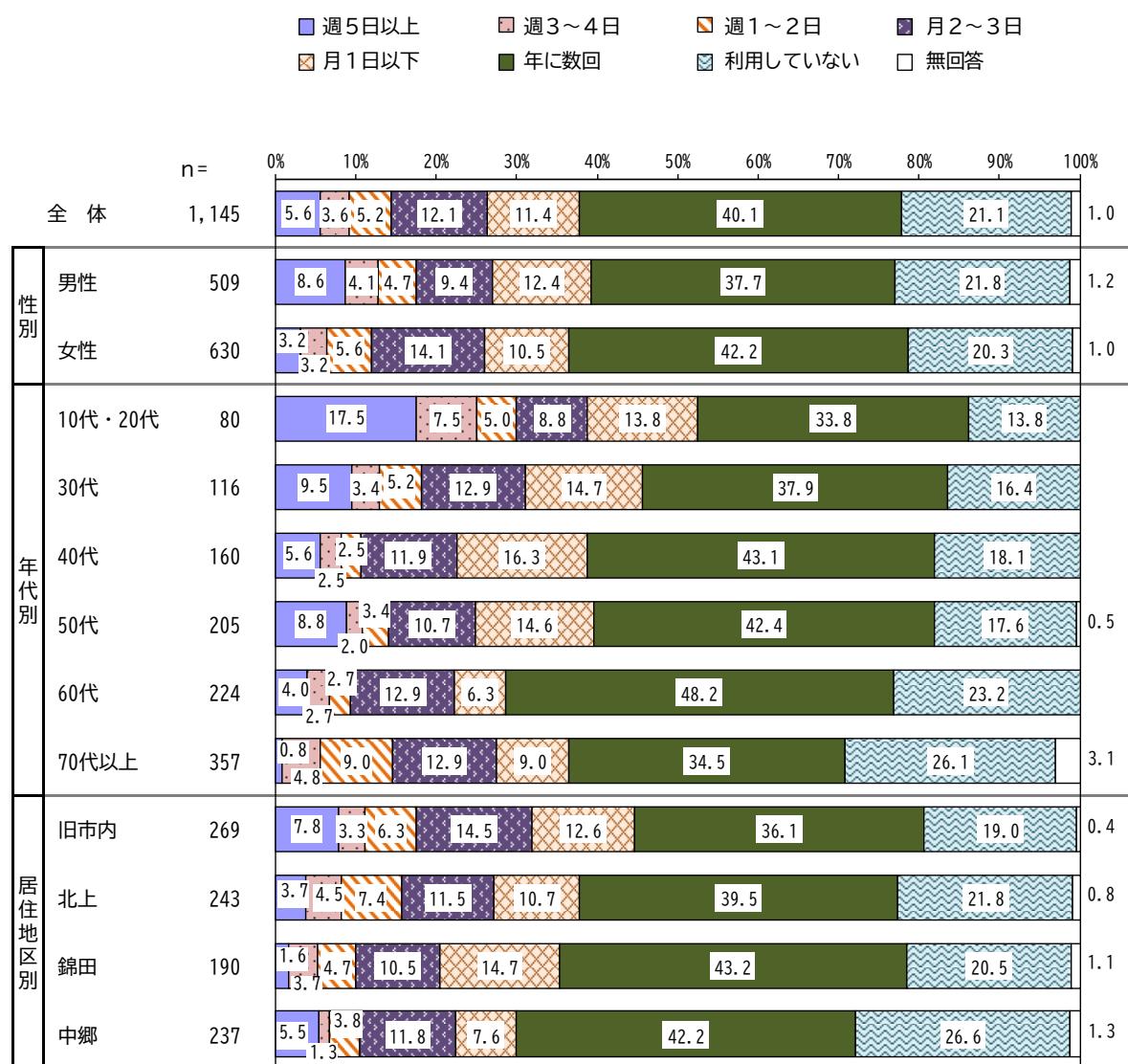
II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、男性・女性ともに「年に数回」（男性 37.7%、女性 42.2%）が、最も高くなっています。

年代別でみると、「週5日以上」は、10・20代（17.5%）で1割半ばを超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「利用していない」は、中郷（26.6%）が最も高くなっています。

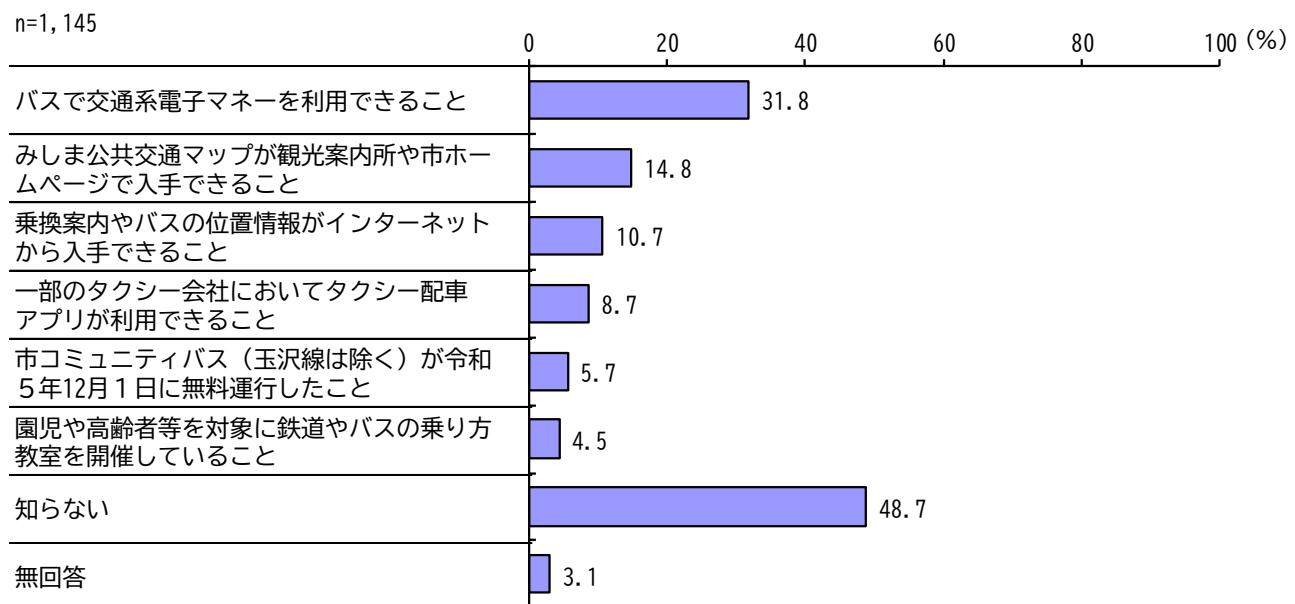


(2) 公共交通に関する市の取り組みの認知状況

問29 公共交通に関する市の取り組みについて知っていますか。(○はいくつでも)

– 公共交通に関する市の取り組みは、「知らない」が48.7% –

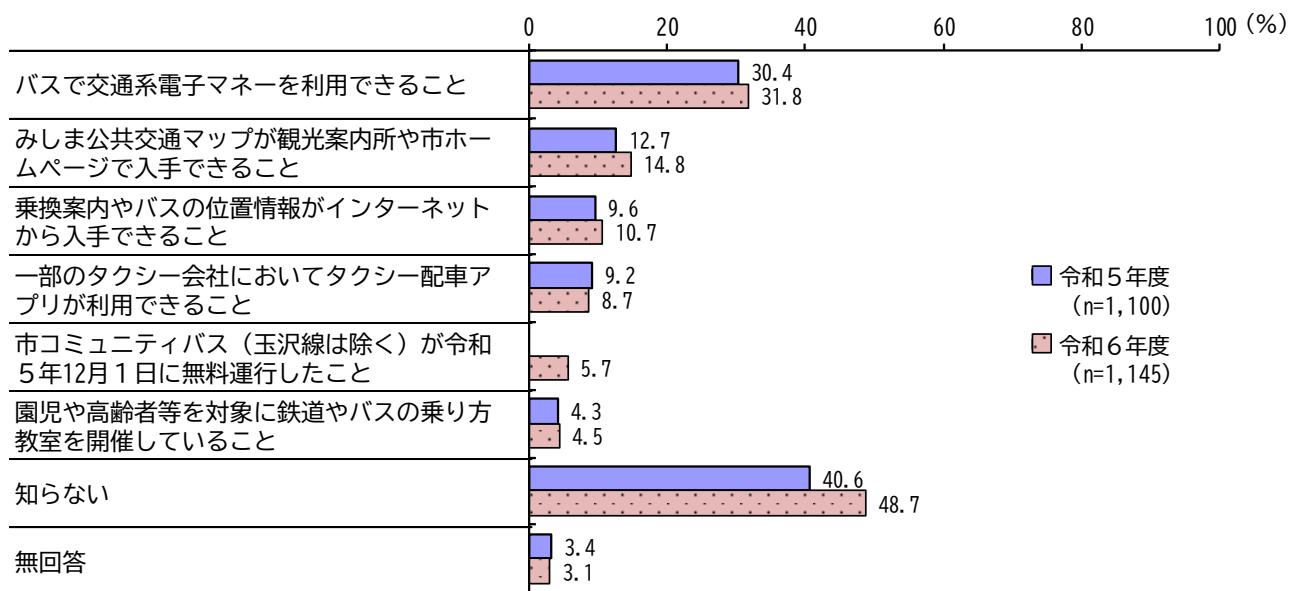
公共交通に関する市の取り組みの認知状況について、「知らない」が48.7%と最も高く、次いで「バスで交通系電子マネーを利用できること」が31.8%、「みしま公共交通マップが観光案内所や市ホームページで入手できること」が14.8%と続いています。



II 調査結果

【経年比較】

過去調査と比較すると、「知らない」割合は、令和5年度より8.1ポイント上がっています。



※「市コミュニティバス（玉沢線は除く）が令和5年12月1日に無料運行したこと」は令和6年度に新設

【属性別比較】

性別でみると、「知らない」を除くと、「一部のタクシー会社においてタクシー配車アプリが利用できること」以外の項目のいずれも、男性より女性の割合が高くなっています。

年代別でみると、「乗換案内やバスの位置情報がインターネットから入手できること」は、10代・20代で22.5%と2割を超えて、他の年代より高くなっています。

居住地区別でみると、「知らない」は、中郷（54.9%）が最も高くなっています。

区分		回答者数（件）	手案みで内きま るや公 共市とホ ー通 ムマッ 一プ ジが で観 入光	用バ でス きの 通系 電子 マネー	きタ ーク ーの シタ ー配 ー車 ーア ー会 ー社 ーが 利お 用い て	一部 こシ ータ ー配 ー車 ーア ー会 ー社 ーが 利お 用い て	乗 こと ンタ ー内 ネや ツバ トス から 位置 入置 手情 度報 きが	市 に除 くミ 料)ユ 運が二 行令テ し和イ た5バ こ年ス と1(一 2玉 月沢 1線	園児 やバ スや 高齢 者の 乗り 方教 室を開 催鉄道	知 ら な い	無 回 答
全体		1,145	14.8	31.8	8.7	10.7	5.7	4.5	48.7	3.1	
性別	男性	509	13.8	28.3	10.0	9.0	4.5	2.6	50.9	3.7	
	女性	630	15.7	34.6	7.8	12.1	6.5	5.9	47.3	2.7	
年代別	10代・20代	80	8.8	50.0	15.0	22.5	5.0	2.5	32.5	1.3	
	30代	116	6.9	43.1	17.2	14.7	3.4	2.6	48.3	0.9	
	40代	160	13.1	40.6	10.0	11.3	2.5	6.9	46.3	0.0	
	50代	205	16.6	36.6	8.3	14.6	3.9	3.9	47.3	0.5	
	60代	224	18.3	30.4	8.0	9.4	6.7	4.0	53.6	0.9	
	70代以上	357	16.5	17.9	4.8	5.0	8.4	4.8	51.5	8.7	
居住地区別	旧市内	269	14.9	33.1	10.0	13.0	7.1	1.9	46.5	3.0	
	北上	243	15.2	35.8	7.4	8.6	7.0	3.7	48.6	2.5	
	錦田	190	14.7	29.5	9.5	9.5	3.7	5.8	51.6	1.6	
	中郷	237	14.3	24.9	7.6	10.1	5.9	5.5	54.9	3.4	

1位

2位

3位

II 調査結果

14 『文化的環境』について

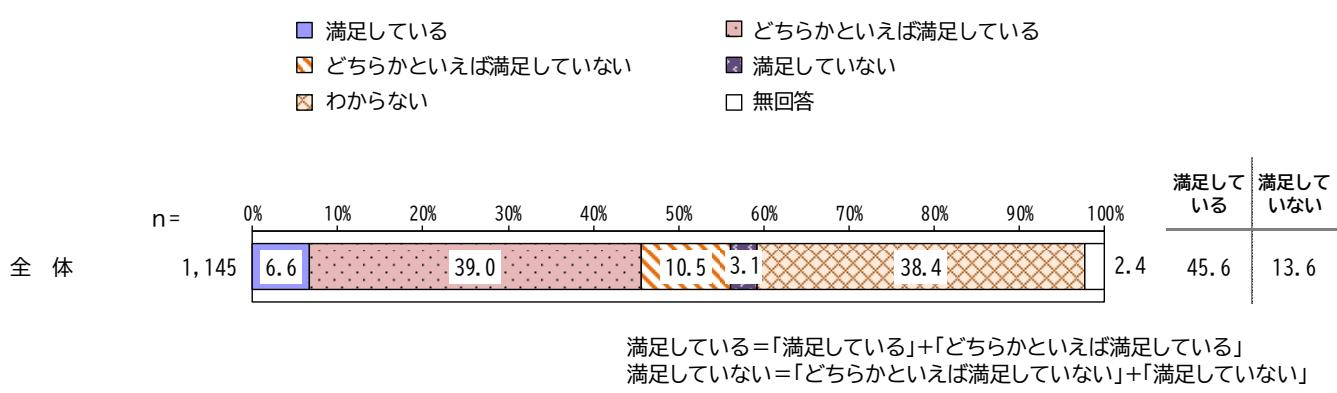
(1) 三島市の文化的環境の満足度

問30 あなたは、三島市の文化的環境(鑑賞機会、創作・参加機会、文化財や伝統的街並みの保存・整備など)に満足していますか。(○は一つ)

– 文化的環境に“満足している”は 45.6% –

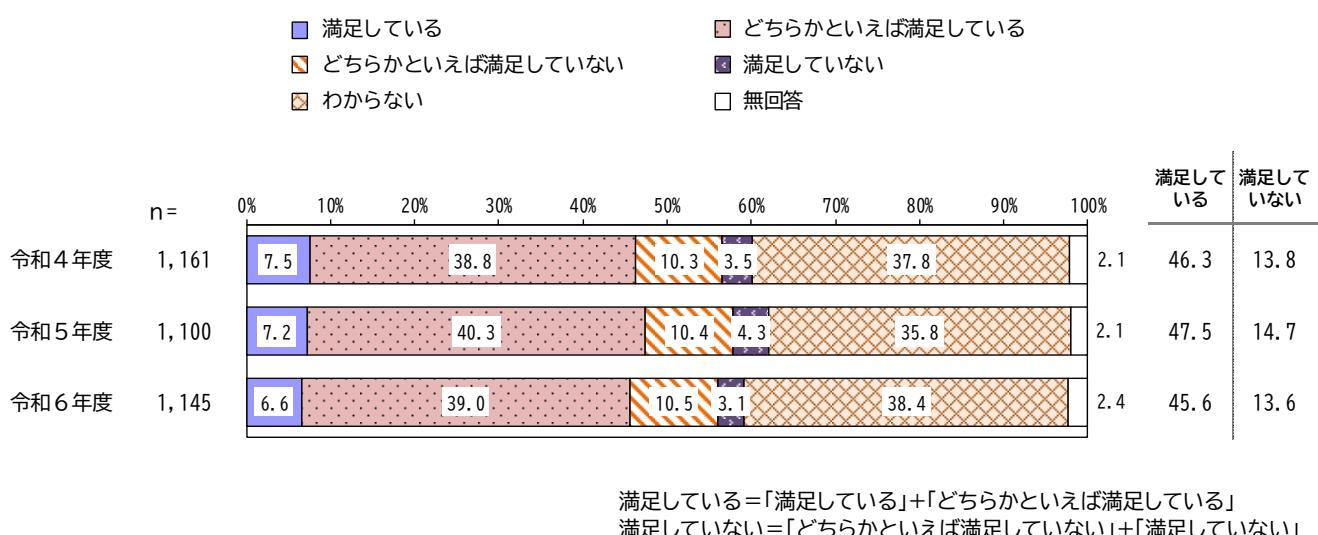
文化的環境に満足しているかについて、「満足している」(6.6%)と「どちらかといえば満足している」(39.0%)を合わせた“満足している”は45.6%となっています。

一方、「どちらかといえば満足していない」(10.5%)と「満足していない」(3.1%)を合わせた“満足していない”は13.6%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、あまり変化はありません。

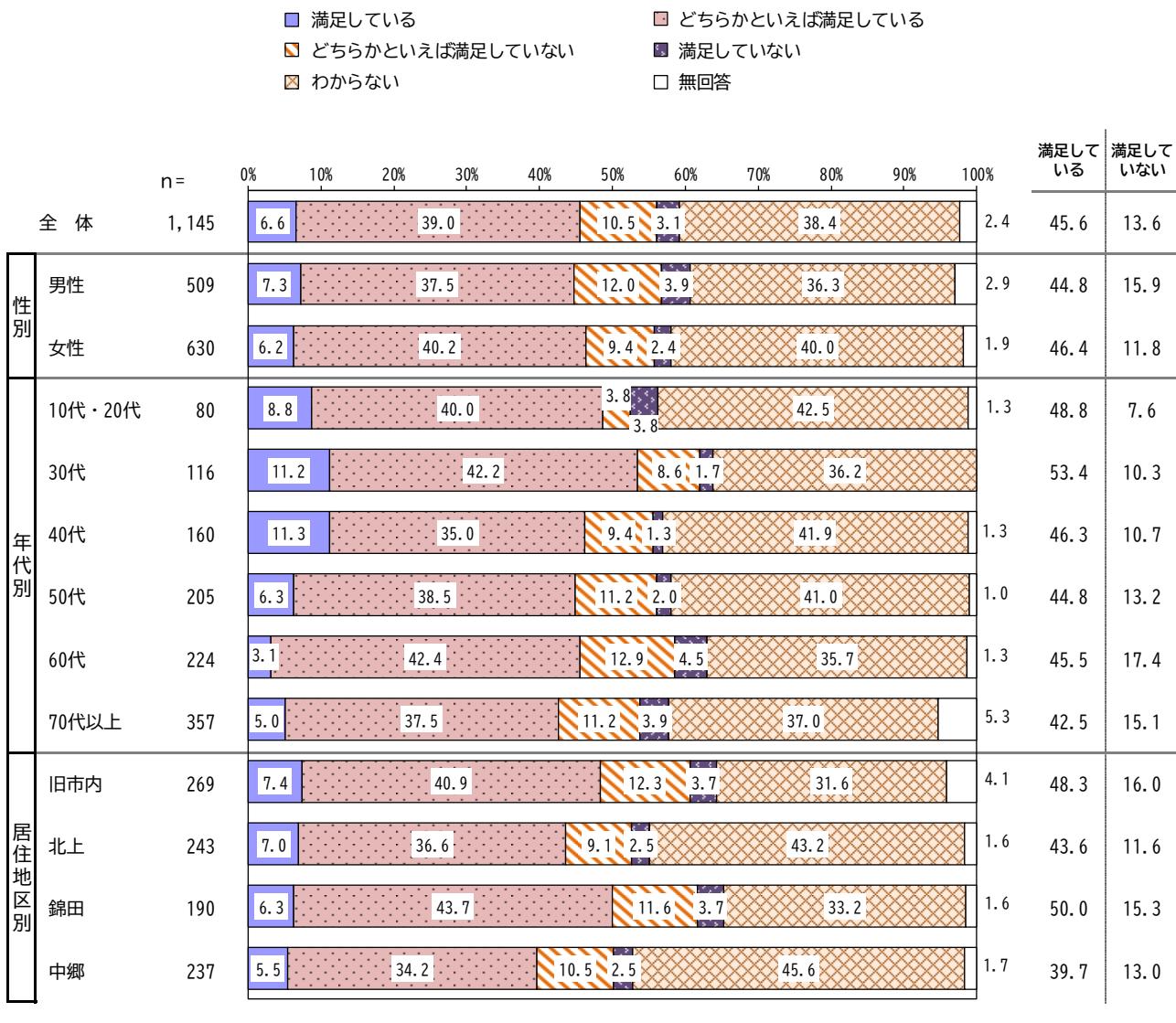


【属性別比較】

性別でみると、“満足している”（男性 44.8%、女性 46.4%）は、大きな差異はみられませんが、“満足していない”は男性（15.9%）が女性（11.8%）より 4.1 ポイント高くなっています。

年代別でみると、“満足している”は、30 代（53.4%）で 5 割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“満足している”は、中郷（39.7%）が 4 割を切って、他の地区よりも低くなっています。



II 調査結果

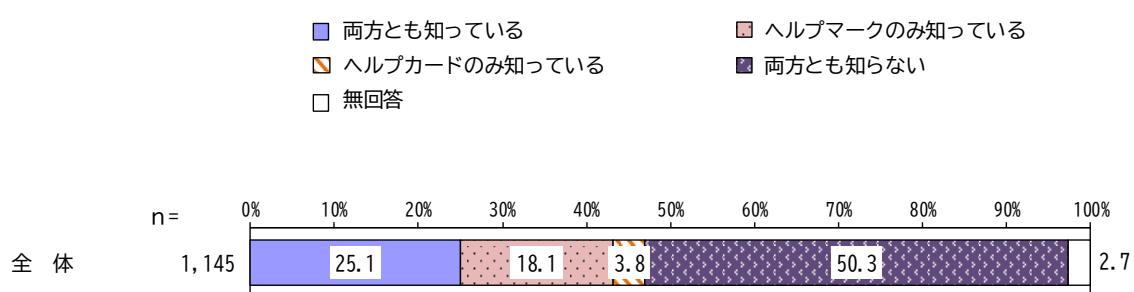
15 『障がいのある人への理解』について

(1) ヘルプマーク・ヘルプカードの認知状況

問 31 ヘルプマーク・ヘルプカードを知っていますか。(○は一つ)

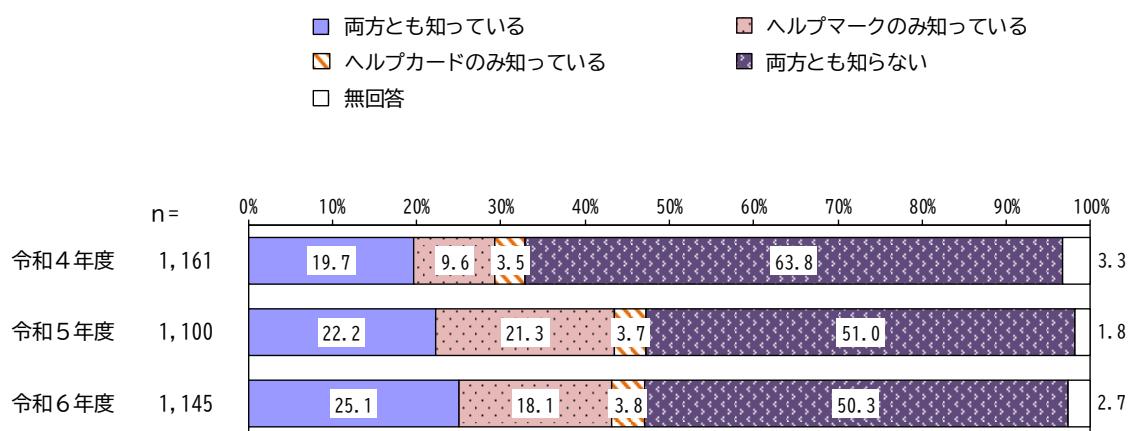
– ヘルプマーク・ヘルプカードを「両方とも知っている」は 25.1% –

ヘルプマーク・ヘルプカードについて、「両方とも知らない」が 50.3% と最も高く、次いで「両方とも知っている」が 25.1%、「ヘルプマークのみ知っている」が 18.1% となっています。



【経年比較】

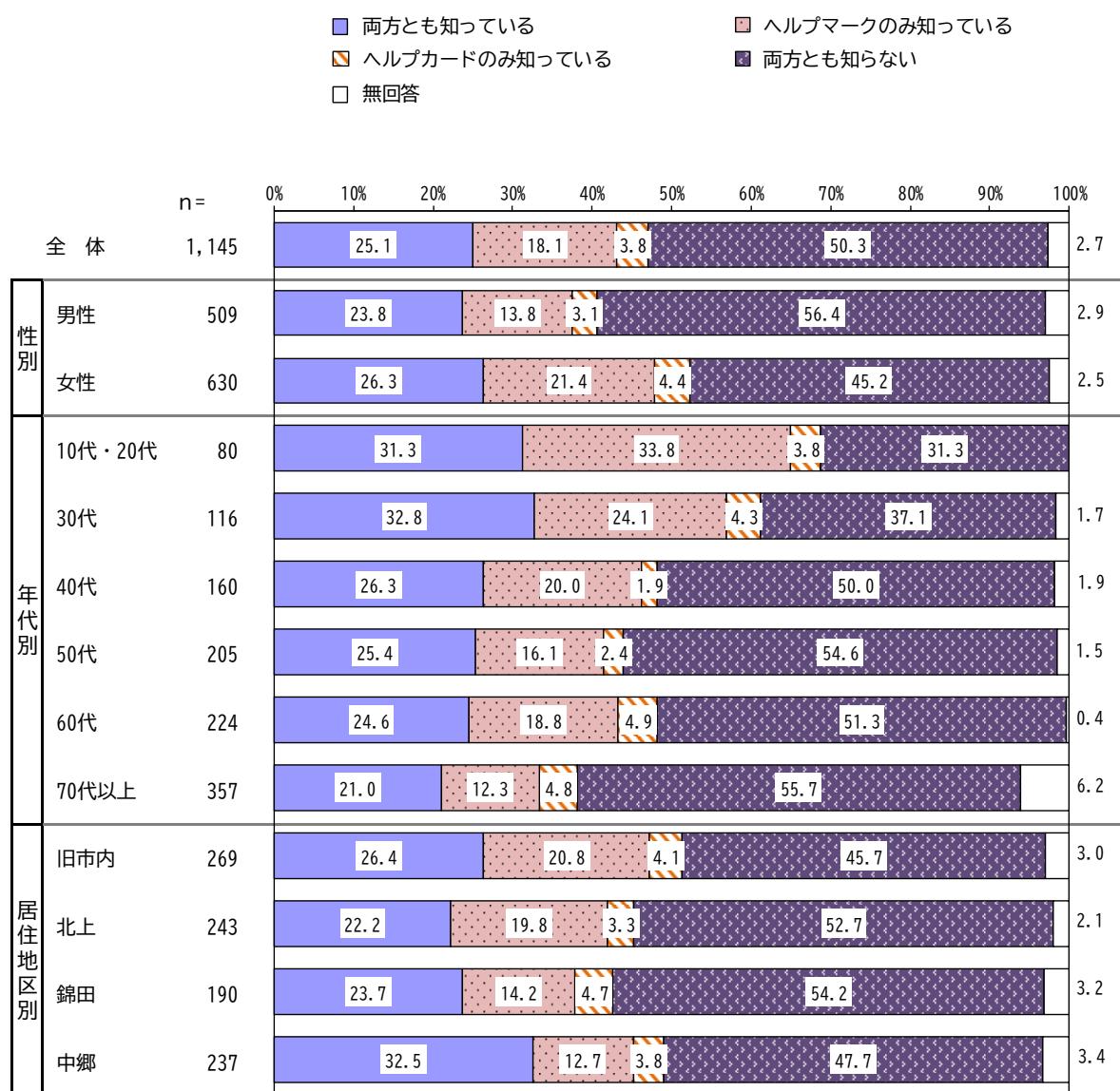
過去調査と比較すると、「両方とも知っている」割合は増加傾向にあります。



【属性別比較】

性別でみると、「両方とも知らない」は、男性（56.4%）の割合が、女性（45.2%）よりも11.2ポイント高くなっています。

年代別でみると、「両方とも知っている」は、10・20代と30代で3割を超えて高くなっています。居住地区別でみると、「両方とも知らない」は、錦田（54.2%）が最も高くなっています。



II 調査結果

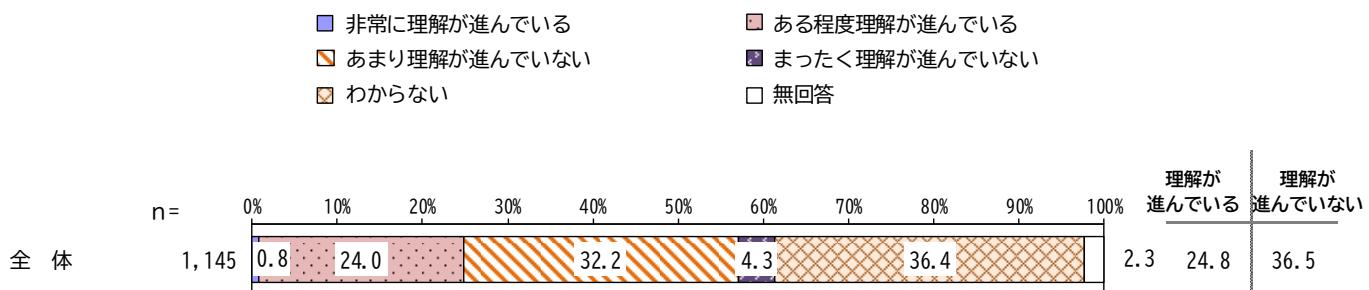
(2) 障がいのある人への理解促進状況

問32 市民の間に障がいのある人に対する理解が進んでいると感じますか。(○は一つ)

– 障がいのある人に対する「理解が進んでいる」と感じている割合は 24.8% –

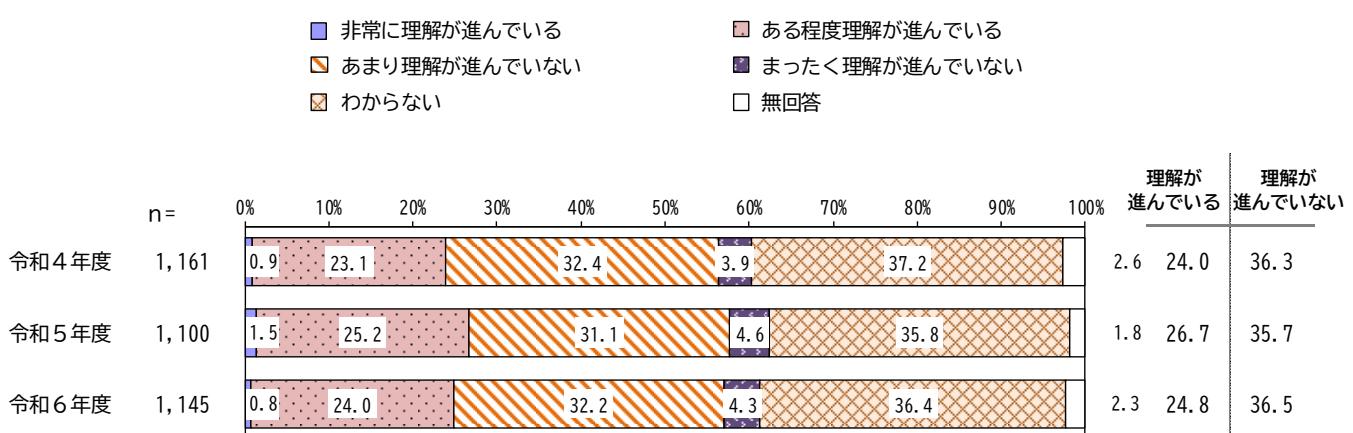
障がいのある人に対する理解の促進状況について、「非常に理解が進んでいる」(0.8%) と「ある程度理解が進んでいる」(24.0%) を合わせた “理解が進んでいる” は 24.8% となっています。

一方、「あまり理解が進んでいない」(32.2%) と「まったく理解が進んでいない」(4.3%) を合わせた “理解が進んでいない” は 36.5% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、あまり変化はありません。

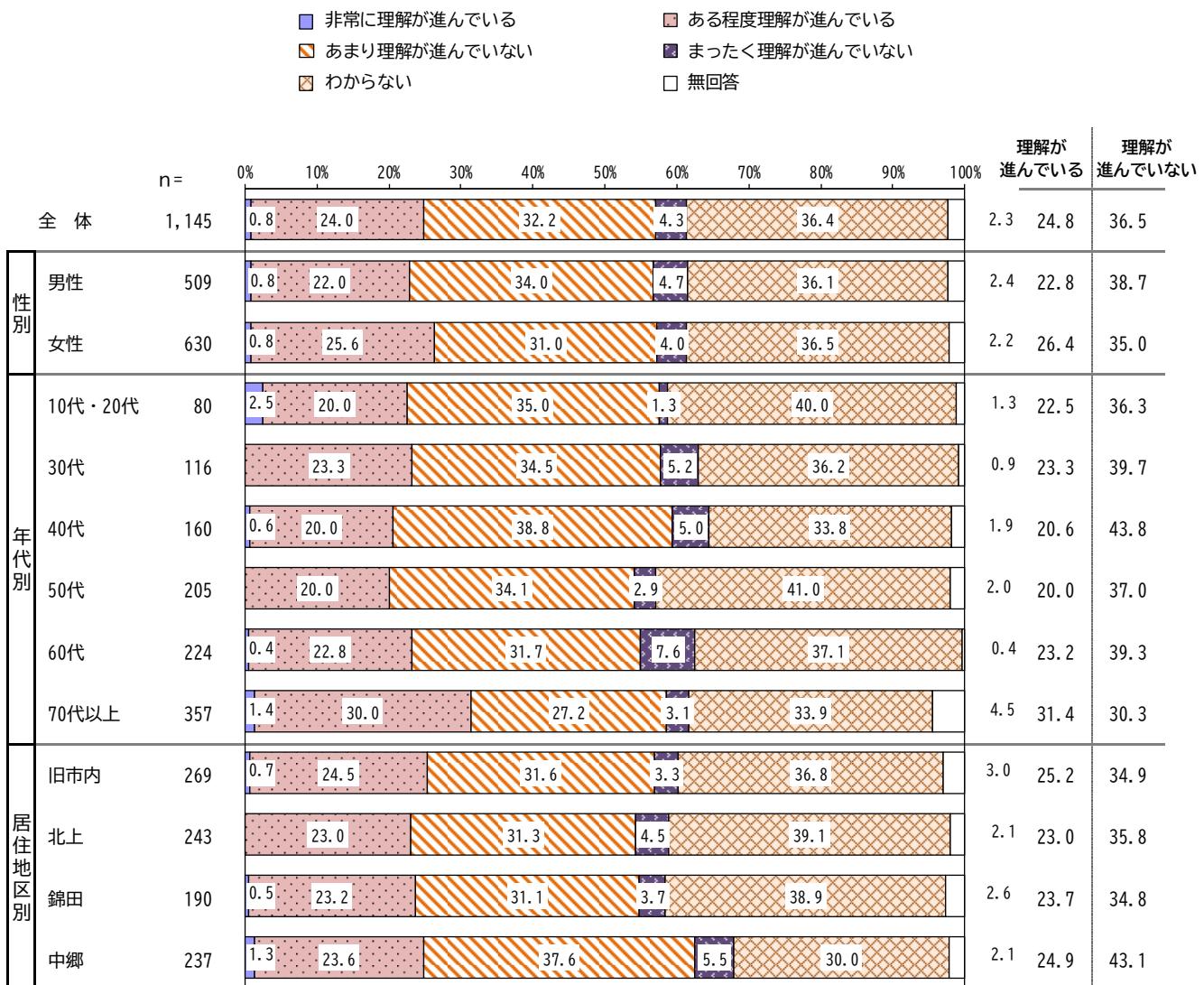


【属性別比較】

性別でみると、“理解が進んでいる”は、男性（22.8%）より女性（26.4%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“理解が進んでいる”は、70代以上（31.4%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、“理解が進んでいない”は、中郷（43.1%）が最も高くなっています。



理解が進んでいる＝「非常に理解が進んでいる」+「ある程度理解が進んでいる」
 理解が進んでいない＝「あまり理解が進んでいない」+「まったく理解が進んでいない」

II 調査結果

16 『男女共同参画』について

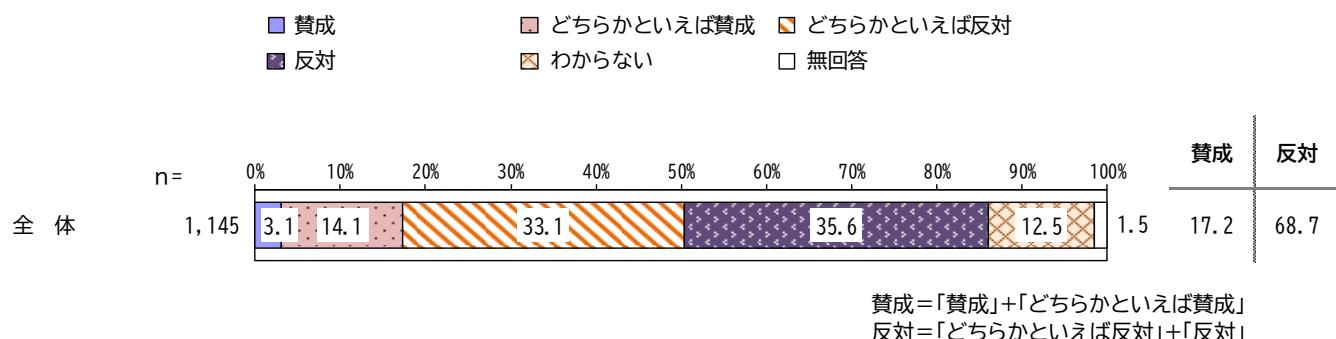
(1) 性別役割分担意識

問 33 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は一つ)

– 性別役割分担意識に“反対”は 68.7% –

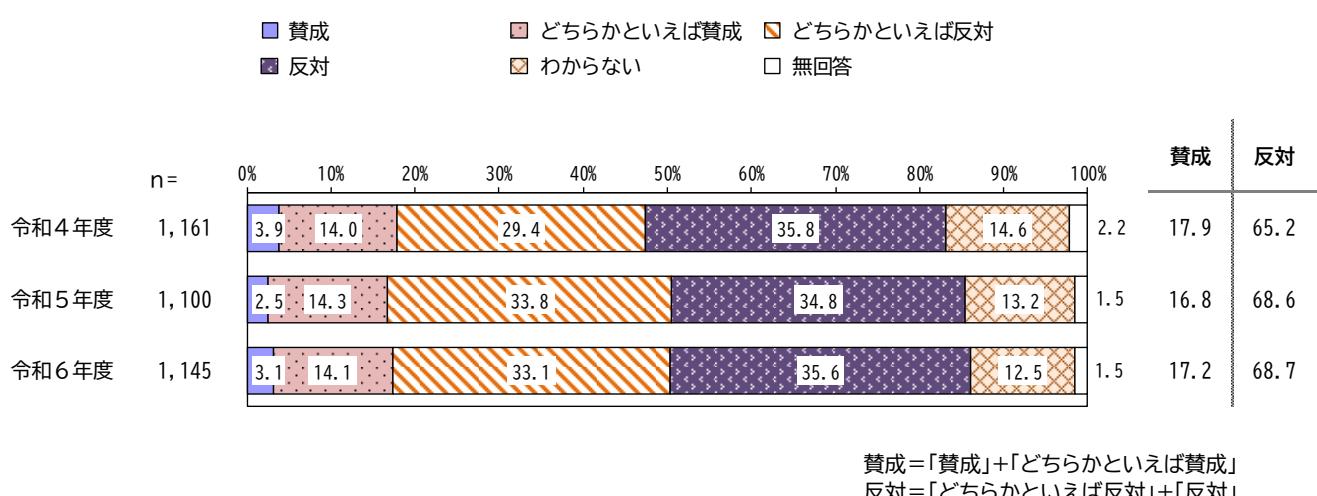
「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「賛成」(3.1%) と「どちらかといえば賛成」(14.1%) を合わせた “賛成” は 17.2% となっています。

一方、「どちらかといえば反対」(33.1%) と「反対」(35.6%) を合わせた “反対” は 68.7% となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、令和5年度よりあまり変化はありません。

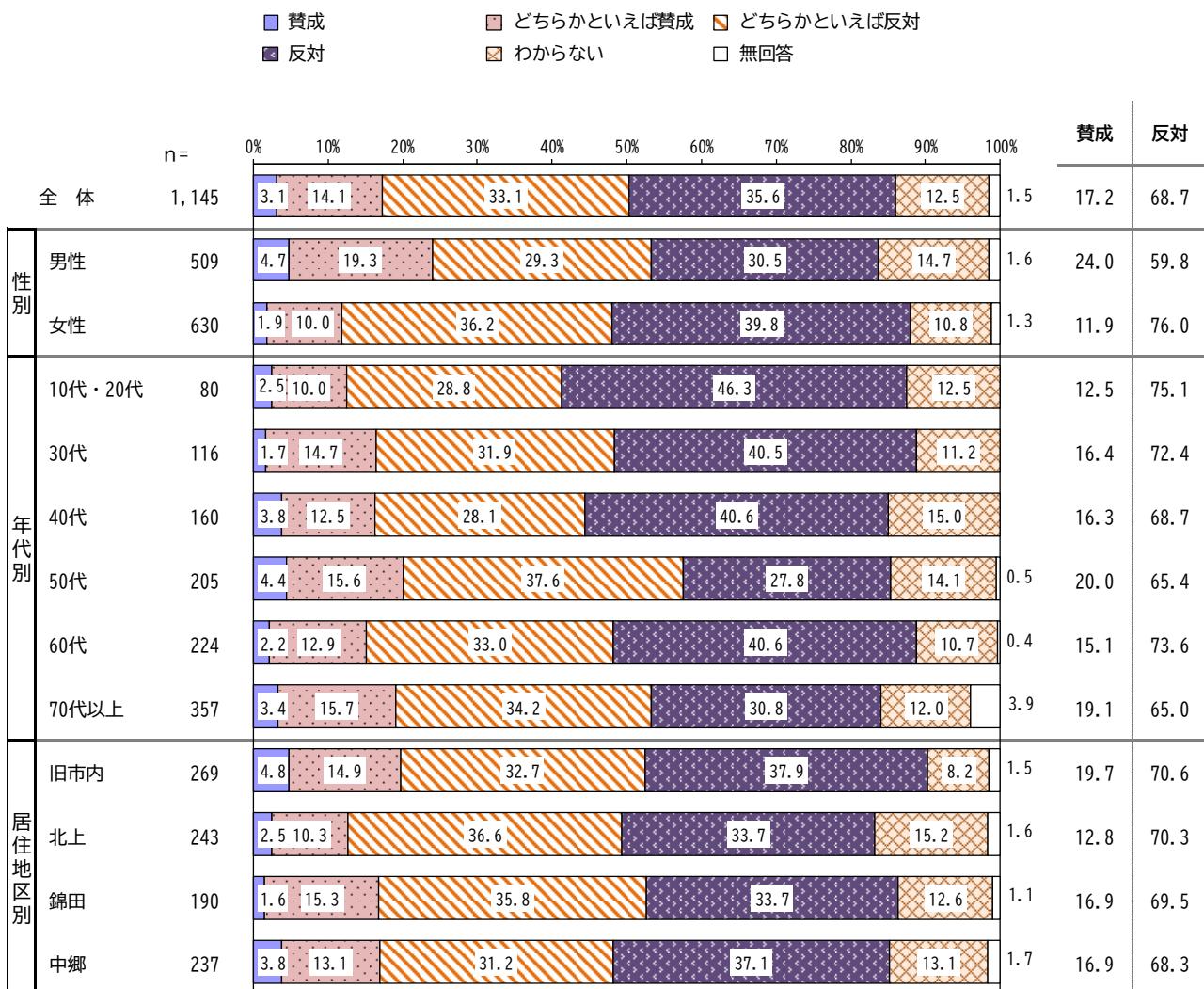


【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（24.0%）の割合が、女性（11.9%）よりも12.1ポイント高くなっています。

年代別でみると、“賛成”は、50代（20.0%）が2割を占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、目市内（19.7%）が最も高くなっています。



賛成=「賛成」+「どちらかといえば賛成」

反対=「どちらかといえば反対」+「反対」

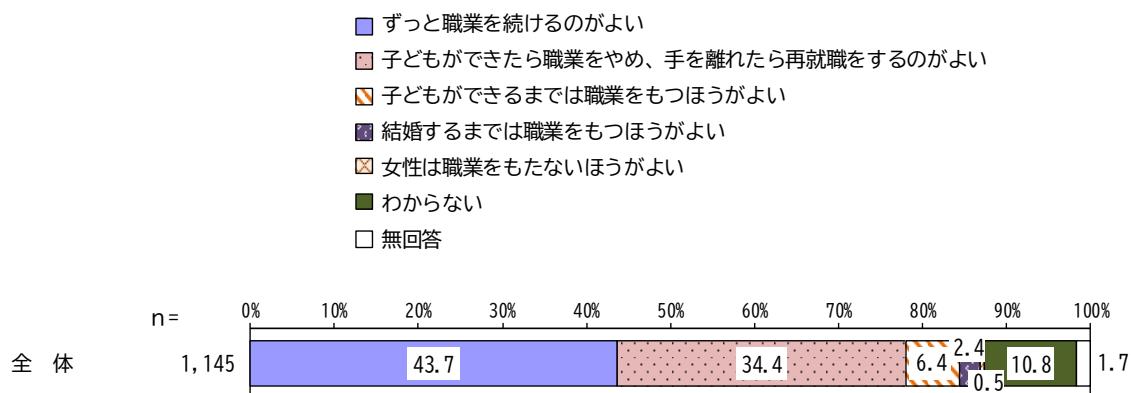
II 調査結果

(2) 望ましい女性の働き方

問34 一般的に女性の働き方で望ましいと思われるものはどれが一番近いですか。(○は一つ)

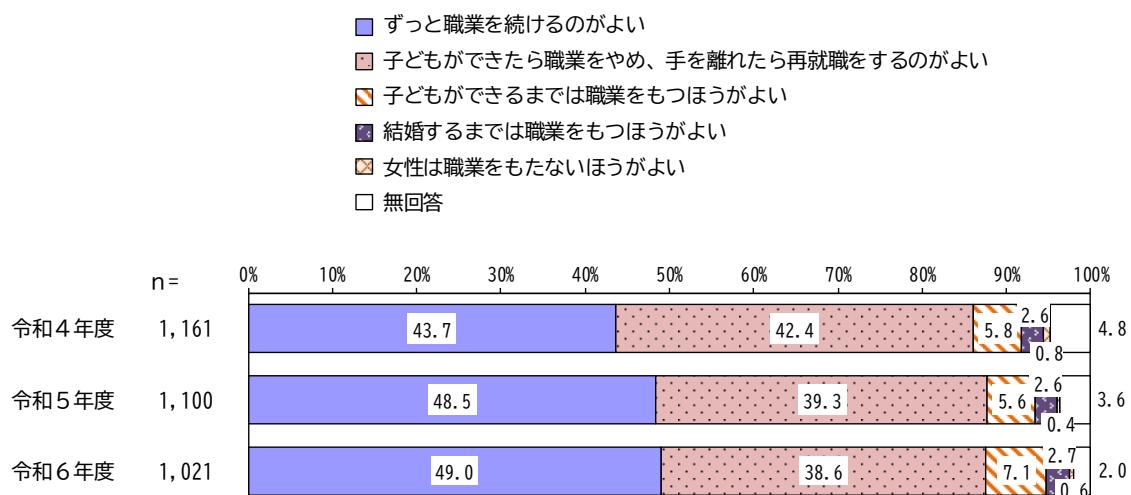
– 女性の働き方で望ましいと思われるものは「ずっと職業を続けるのがよい」が43.7% –

女性の働き方で望ましいと思われるものについて、「ずっと職業を続けるのがよい」が43.7%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、手を離したら再就職をするのがよい」が34.4%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「わからない」を除いて算出すると、令和5年度よりあまり変化はありません。



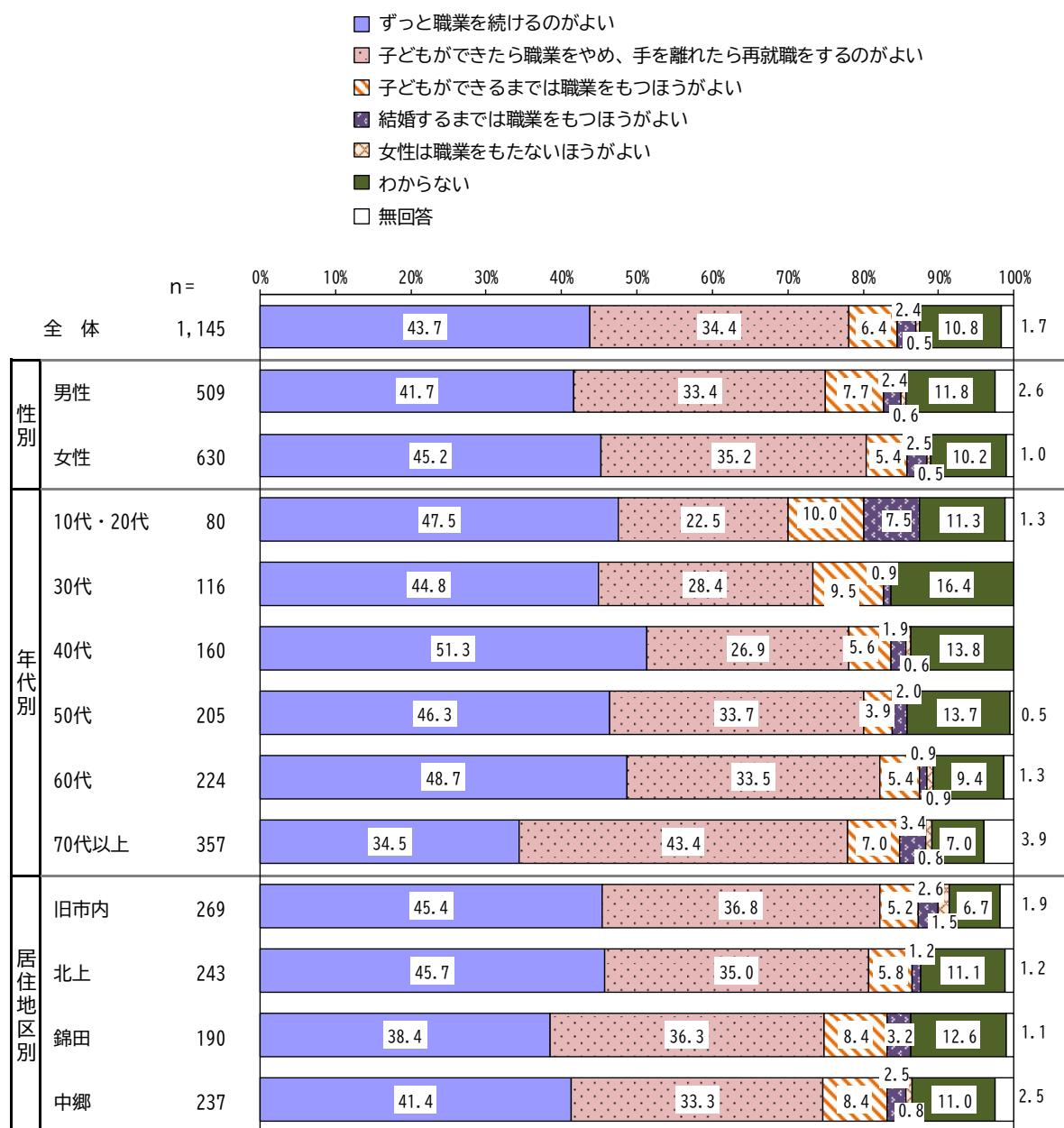
※令和6年度は「わからない」と回答した人を除いて算出した割合

【属性別比較】

性別でみると、「ずっと職業を続けるのがよい」は、男性（41.7%）より女性（45.2%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、「子どもができたら職業をやめ、手を離したら再就職をするのがよい」は、70代以上（43.4%）が4割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「ずっと職業を続けるのがよい」は、錦田（38.4%）が4割を切って、他の地区よりも低くなっています。



II 調査結果

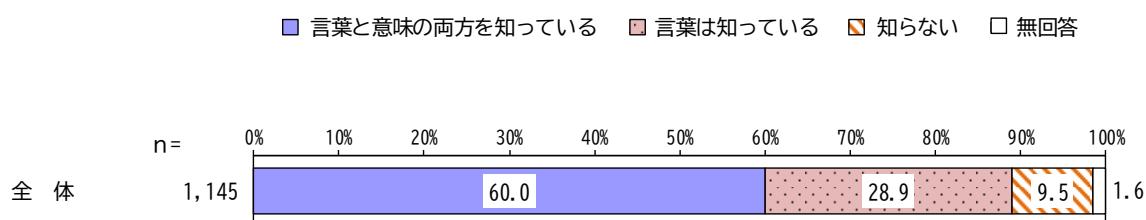
17 『性的マイノリティ（LGBTQなどの性的少数者）』について

(1) 性的マイノリティの認知状況

問35 あなたは性的マイノリティ（LGBTQなどの性的少数者）という言葉を知っていますか。
(○は一つ)

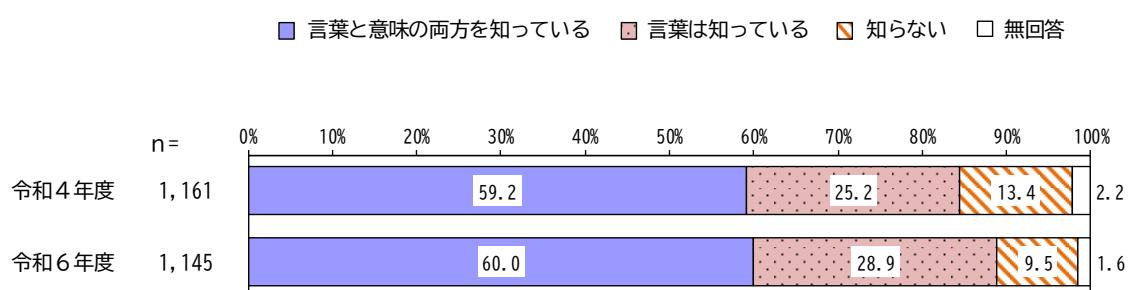
– 性的マイノリティという「言葉と意味の両方を知っている」が 60.0% –

性的マイノリティ（LGBTQなどの性的少数者）という言葉を知っているかについて、「言葉と意味の両方を知っている」が 60.0% と 6 割を占めて最も高く、次いで「言葉は知っている」が 28.9% と 続いています。一方、「知らない」（9.5%）は 1 割切っています。



【経年比較】

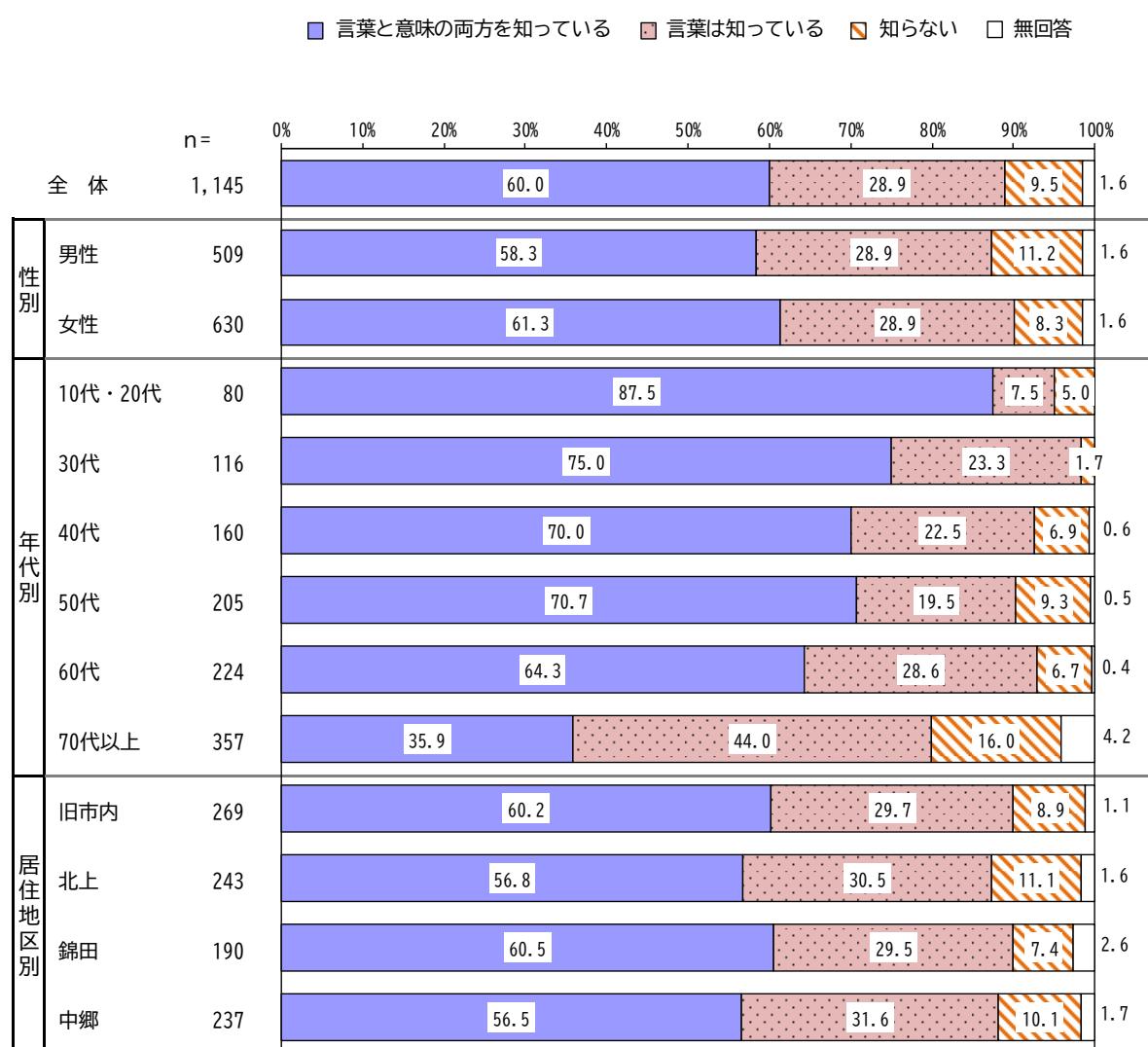
過去調査と比較すると、「知らない」の割合は令和4年度より 3.9 ポイント下がっています。



【属性別比較】

性別でみると、「知らない」は、男性（11.2%）の割合が女性（8.3%）よりも高くなっています。年代別でみると、「言葉と意味の両方を知っている」の割合は、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、10代・20代（87.5%）で8割半ばを超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、「言葉と意味の両方を知っている」は、旧市内（60.2%）と錦田（60.5%）で6割を占めています。



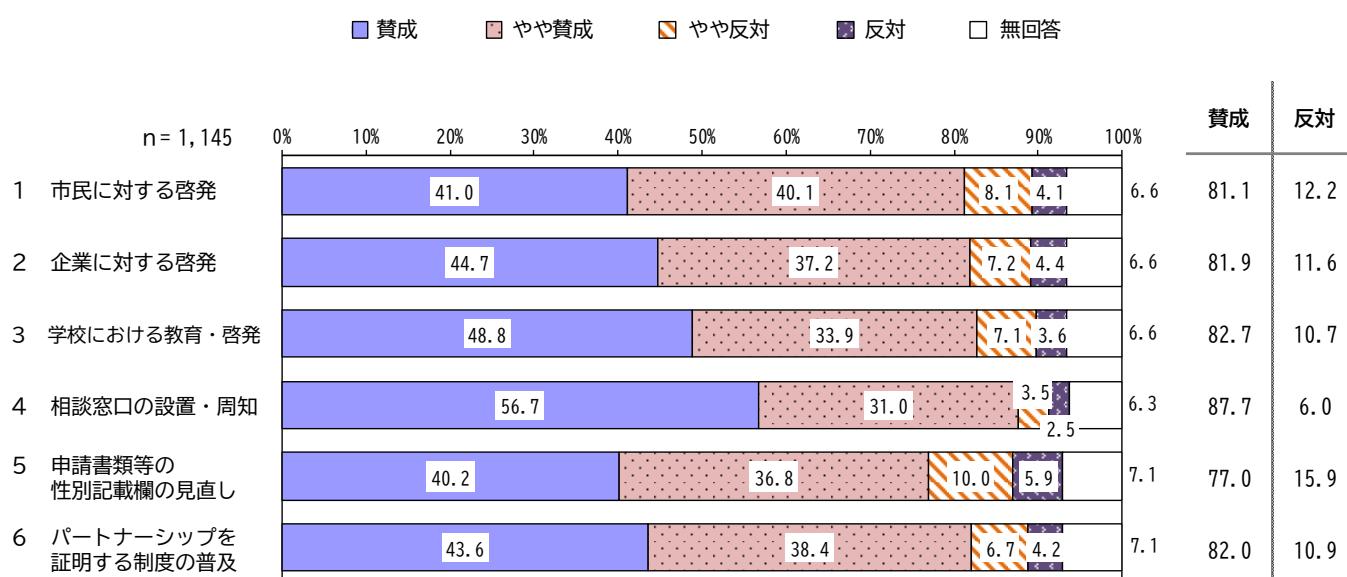
II 調査結果

(2) 性的マイノリティへの取組の考え方

問36 性的マイノリティの方々に対する差別や偏見をなくし、生きづらさを解消するために、次のような取組等を行うことについて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。1~6の項目ごとに該当する番号を選んでください。

－ 性的マイノリティへの取組の“賛成”が最も高いのは『相談窓口の設置・周知』で 87.7% －

性的マイノリティの方々の生きづらさを解消するための取組等について、いずれの項目でも「賛成」と「やや賛成」を合わせた“賛成”が「やや反対」と「反対」を合わせた“反対”を大きく上回っています。『5 申請書類等の性別記載欄の見直し』以外の取組等の“賛成”は8割を超えて高く、特に『4 相談窓口の設置・周知』は87.7%と8割半ばを超えています。



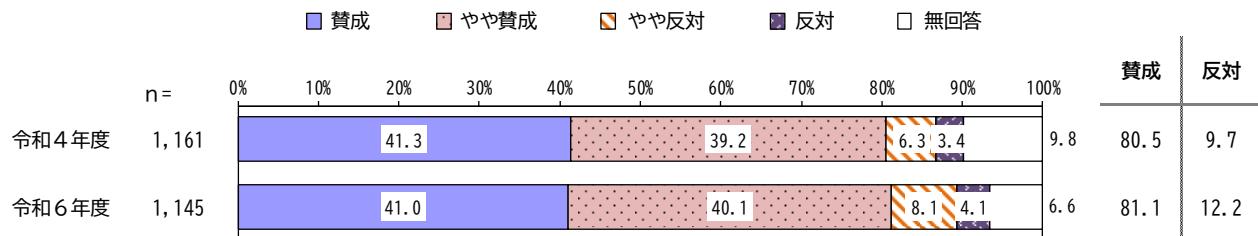
“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

“反対”=「やや反対」+「反対」

(2)-1 市民に対する啓発

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

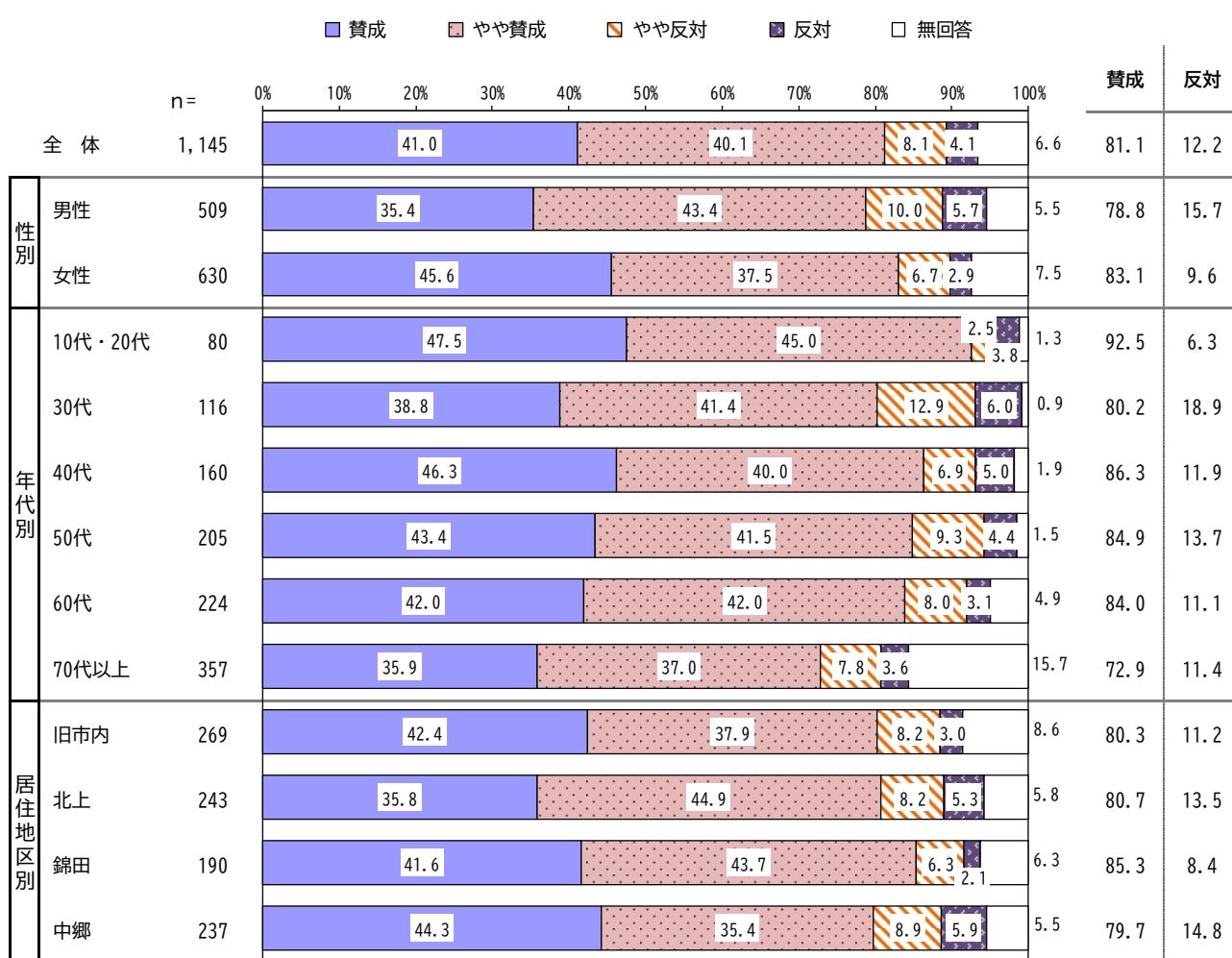
“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（78.8%）より女性（83.1%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“賛成”は、10代・20代（92.5%）で9割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、錦田（85.3%）が最も高くなっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

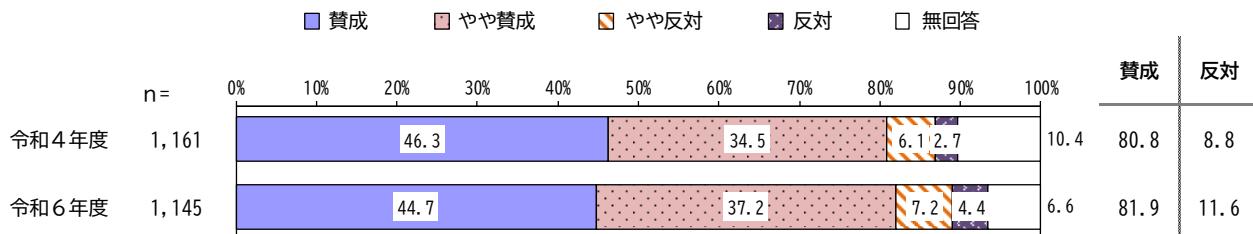
“反対”=「やや反対」+「反対」

II 調査結果

(2)-2 企業に対する啓発

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

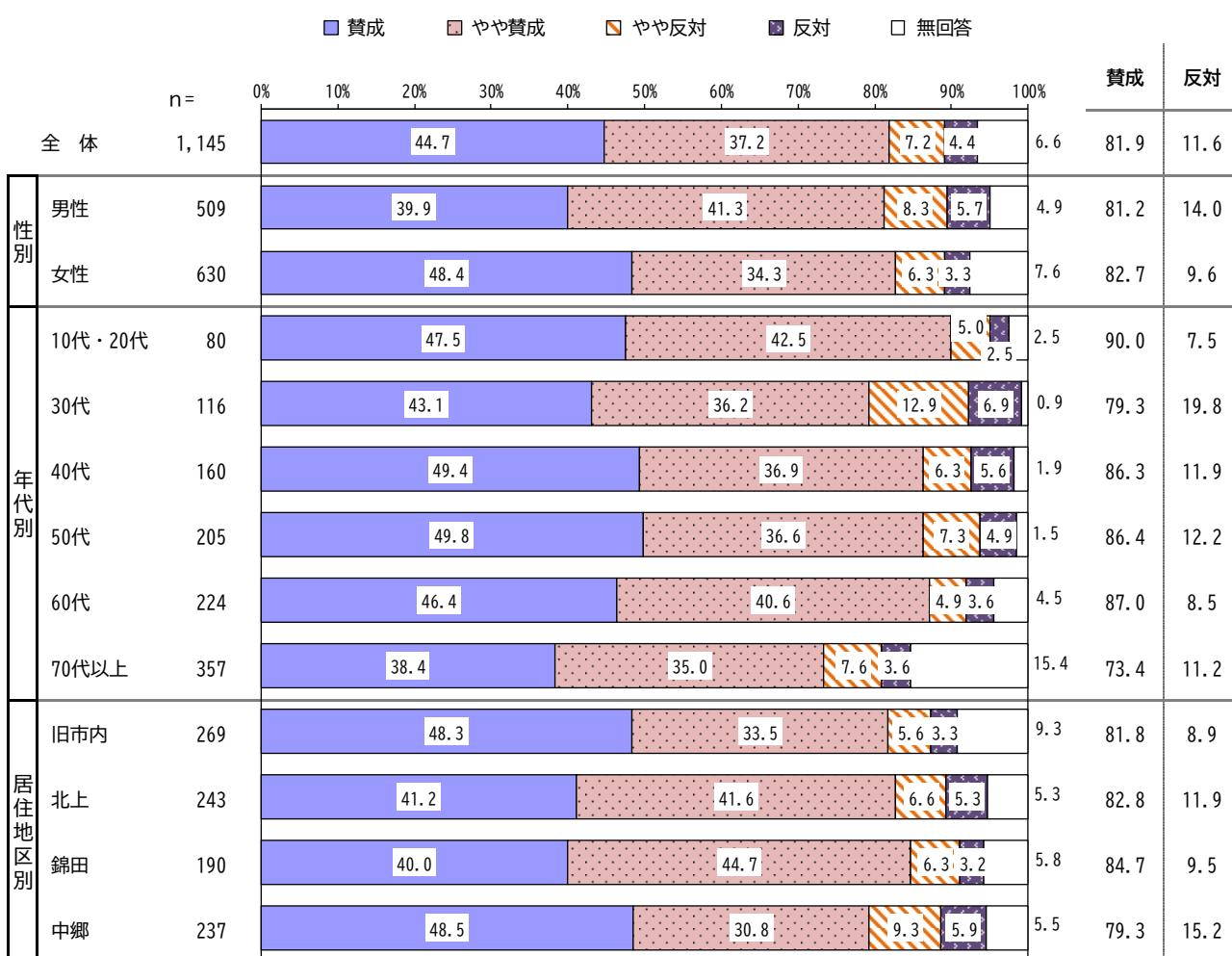
“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”（男性 81.2%、女性 82.7%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、“賛成”は、10代・20代（90.0%）で9割を占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、錦田（84.7%）が最も高くなっています。



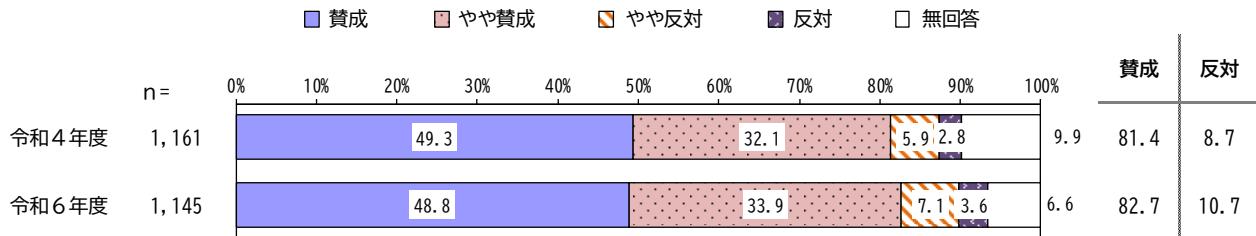
“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

“反対”=「やや反対」+「反対」

(2)–3 学校における教育・啓発

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



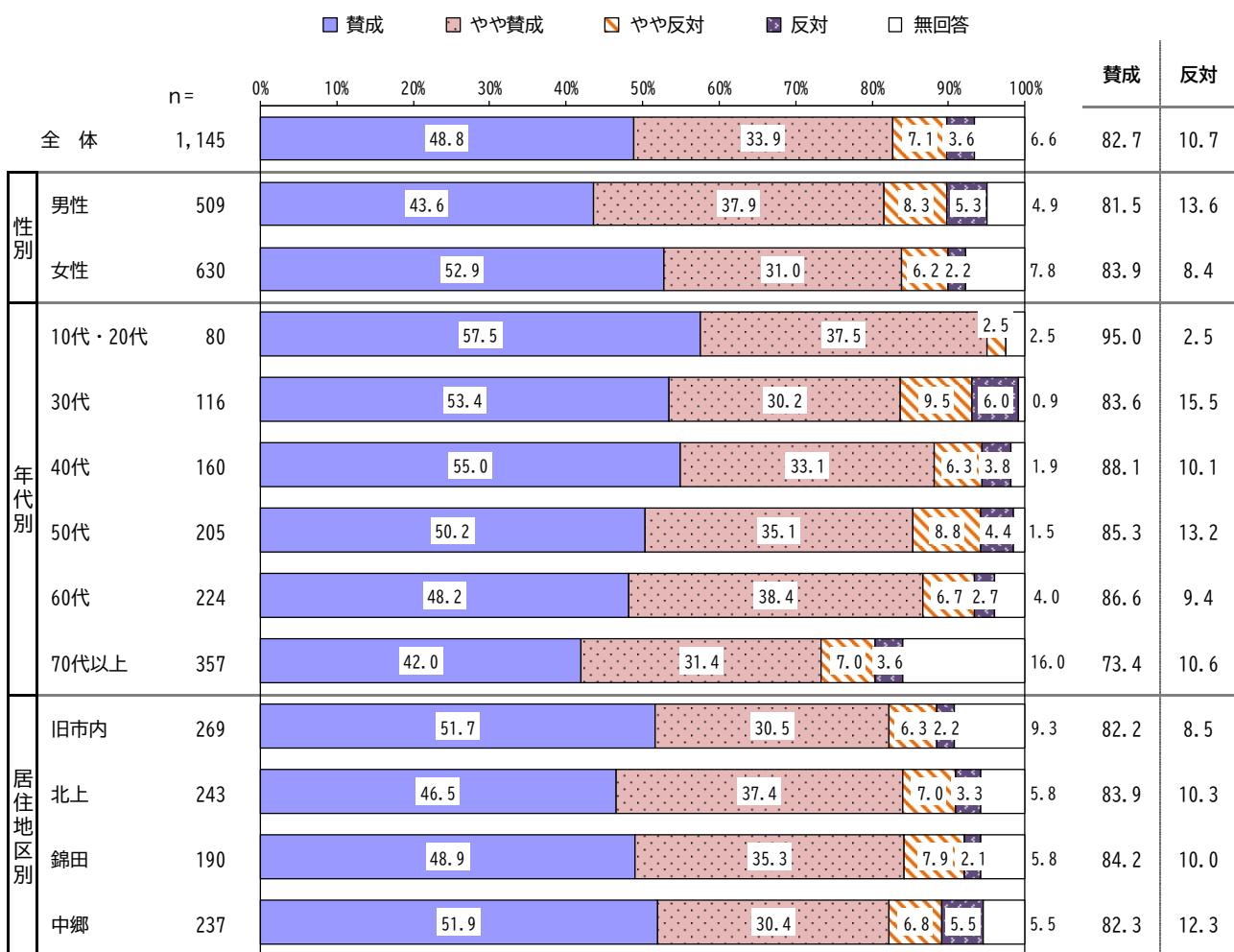
“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（81.5%）より女性（83.9%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“賛成”は、10代・20代（95.0%）で9割半ばを占めて最も高くなっています。居住地区別でみると、“賛成”は、いずれの地区でも8割を超えていました。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

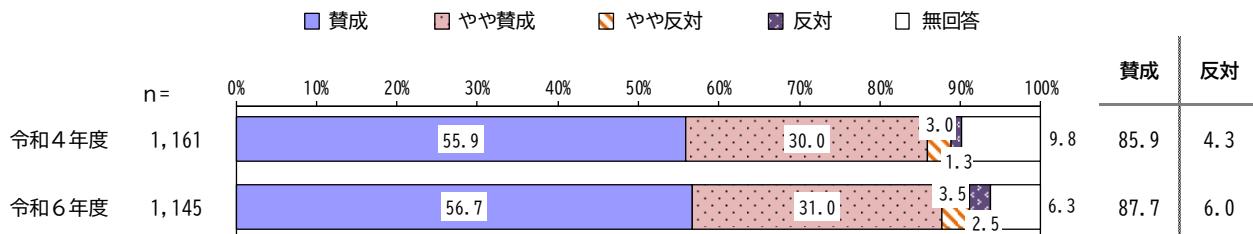
“反対”=「やや反対」+「反対」

II 調査結果

(2)-4 相談窓口の設置・周知

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

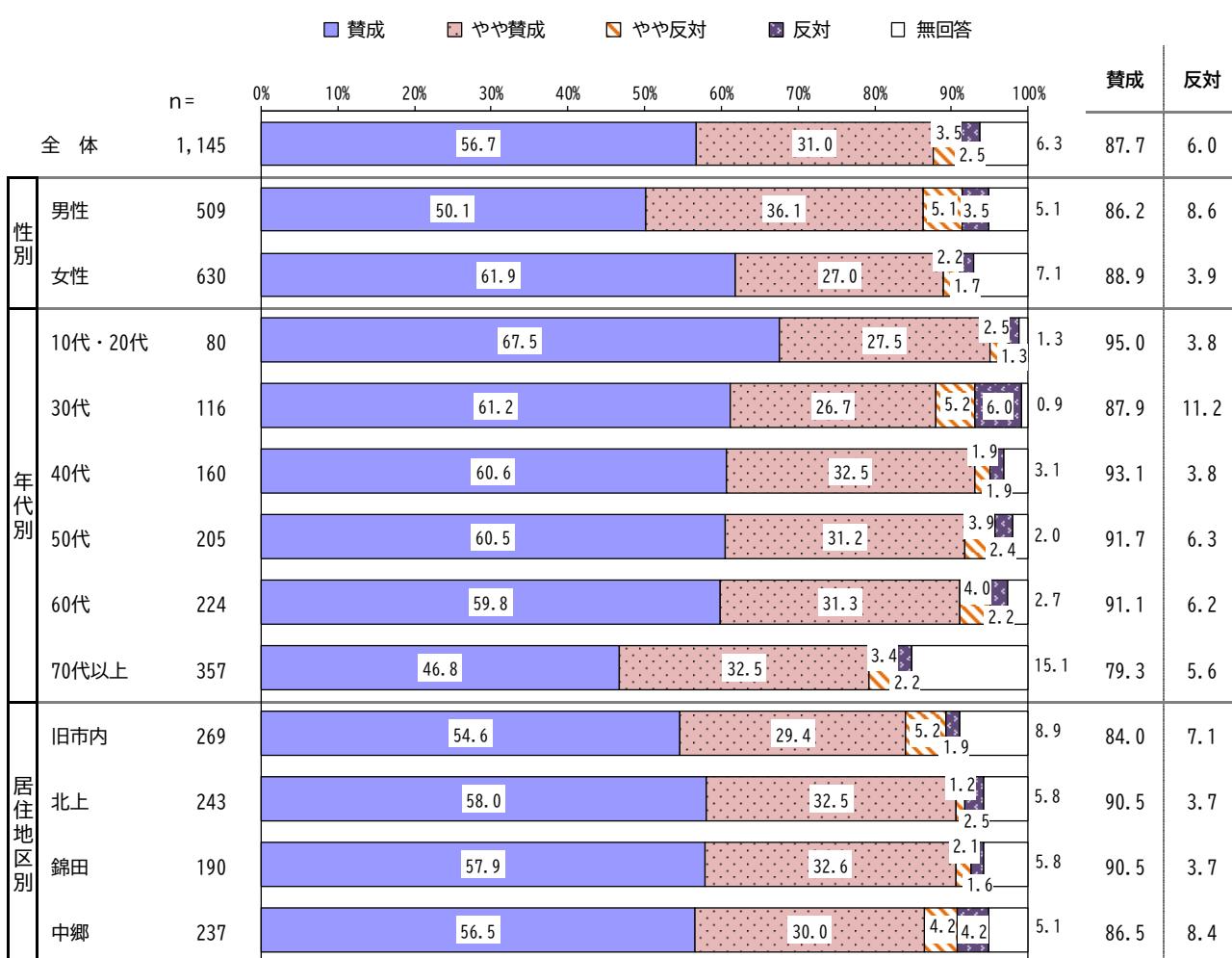
“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（86.2%）より女性（88.9%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“反対”は、30代（11.2%）で1割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、北上と錦田で9割を超えてています。



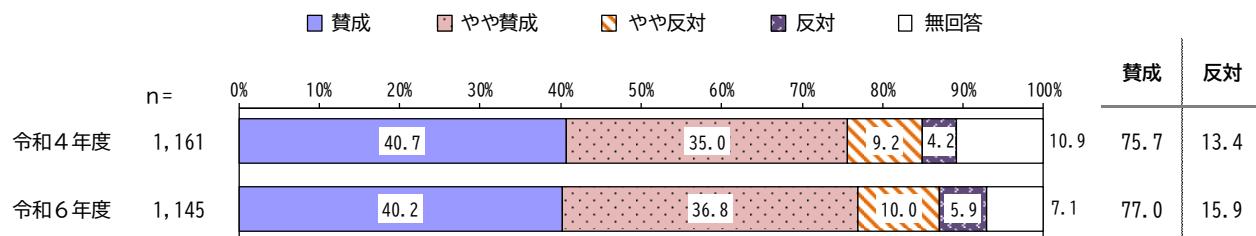
“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

“反対”=「やや反対」+「反対」

(2)－5 申請書類等の性別記載欄の見直し

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

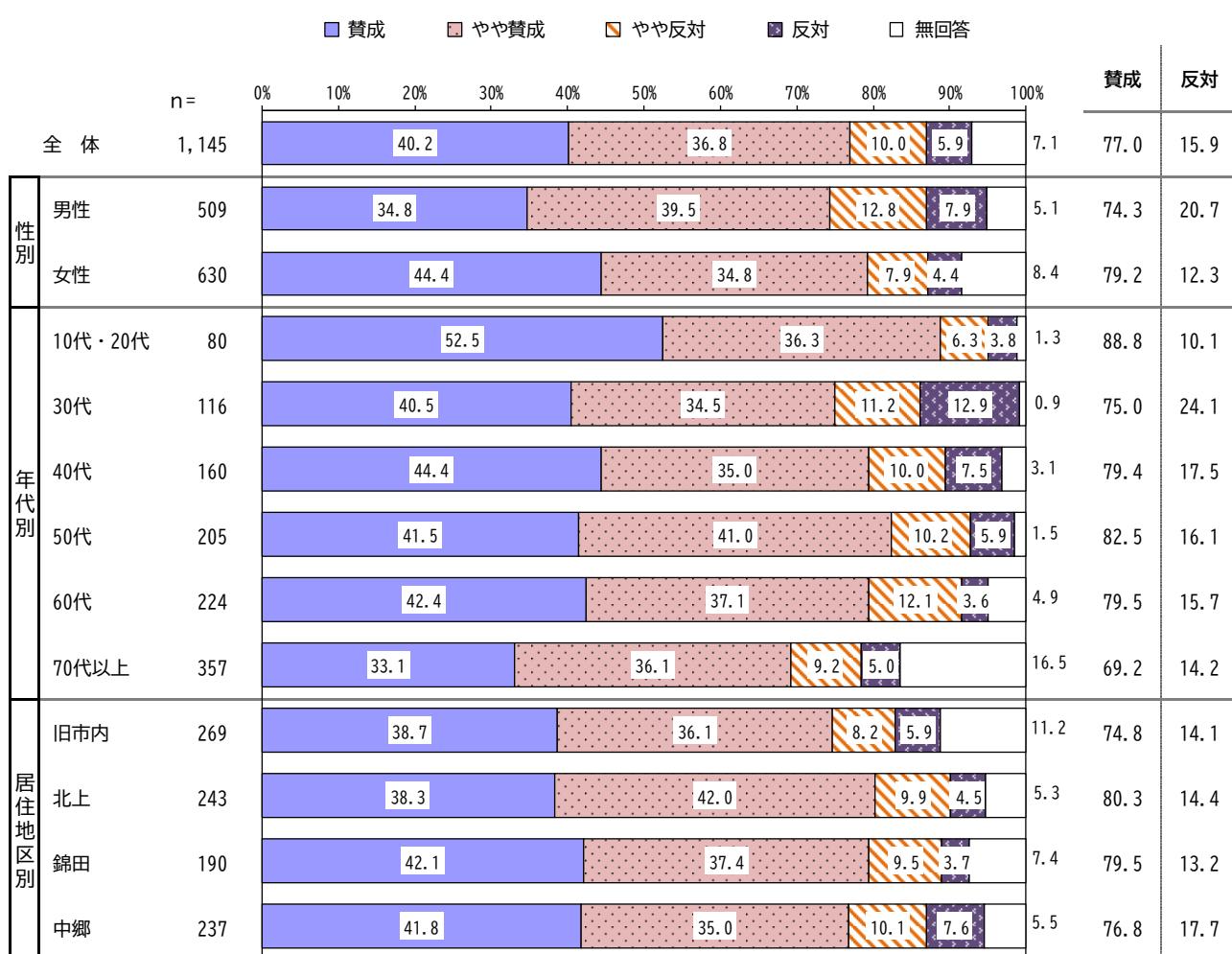
“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（74.3%）より女性（79.2%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“反対”は、30代（24.1%）で2割を超えて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、北上（80.3%）が最も高くなっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

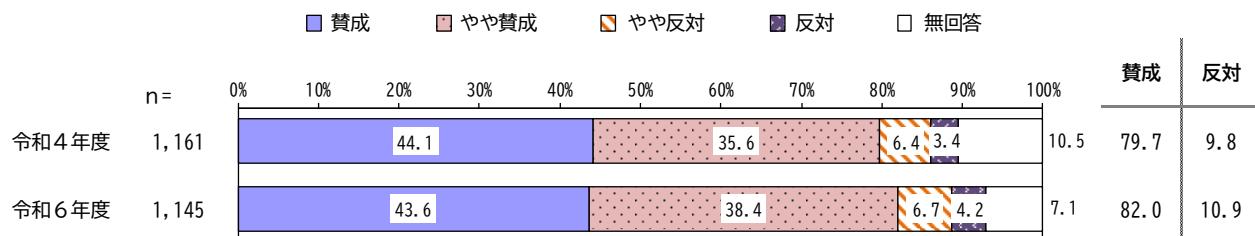
“反対”=「やや反対」+「反対」

II 調査結果

(2)-6 パートナーシップを証明する制度の普及

【経年比較】

過去調査と比較すると、令和4年度より“賛成”と“反対”的割合がともに上がっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

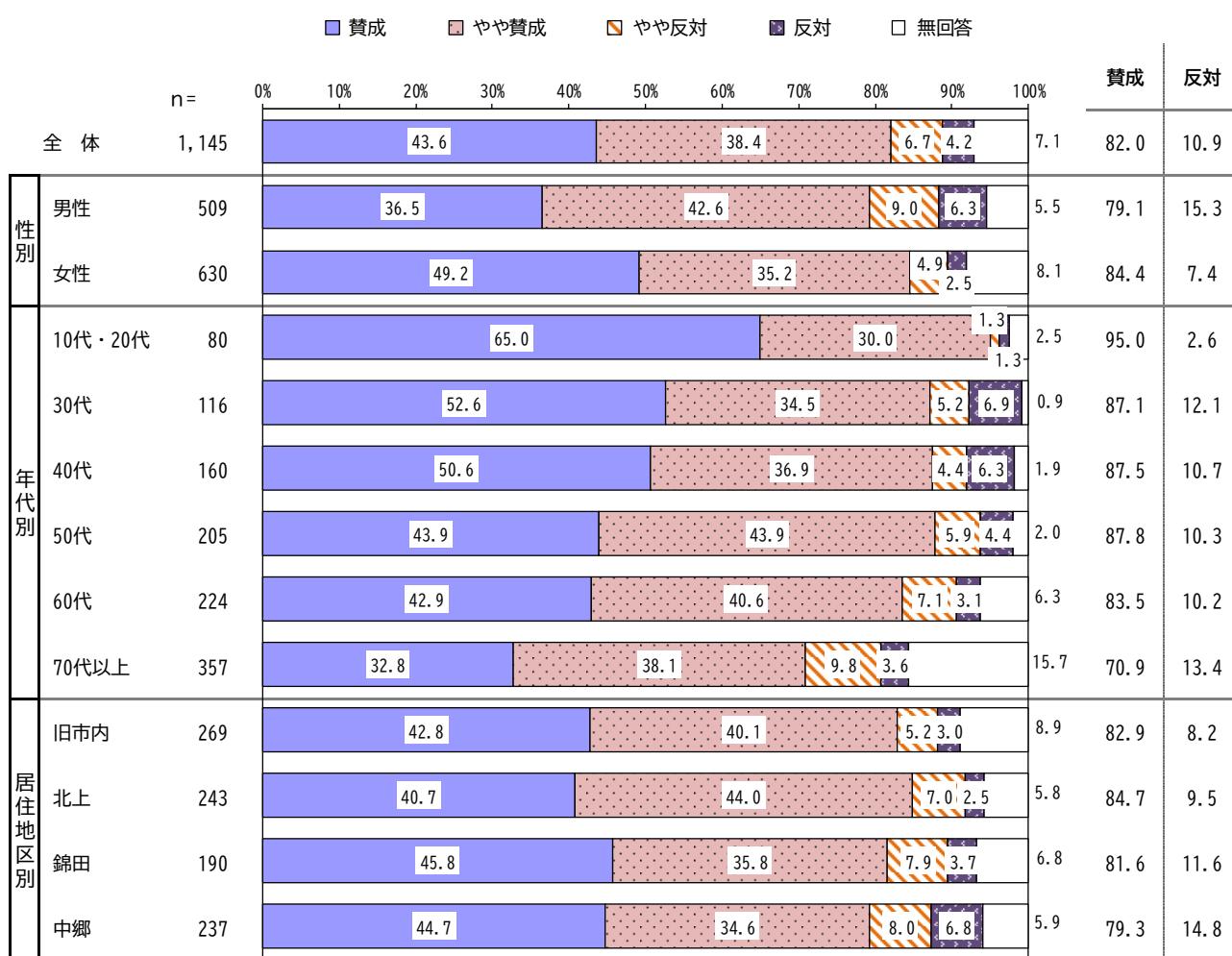
“反対”=「やや反対」+「反対」

【属性別比較】

性別でみると、“賛成”は、男性（79.1%）より女性（84.4%）の割合が高くなっています。

年代別でみると、“賛成”は、10代・20代（95.0%）で9割半ばを占めて最も高くなっています。

居住地区別でみると、“賛成”は、北上（84.7%）が最も高くなっています。



“賛成”=「賛成」+「やや賛成」

“反対”=「やや反対」+「反対」

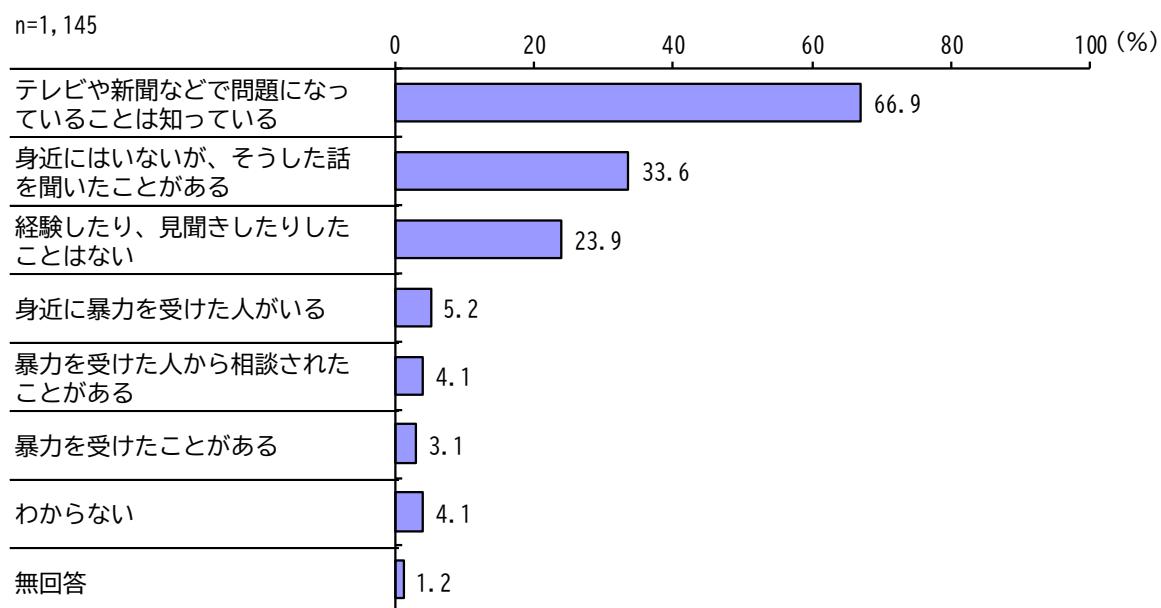
18 『ドメスティック・バイオレンス』について

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験・見聞状況

問37 ドメスティック・バイオレンス(DV・夫婦や交際相手など親しい間柄にある男女間の暴力)を過去1年間に経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。※暴力には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力や経済的暴力などがあります。(○はいくつでも)

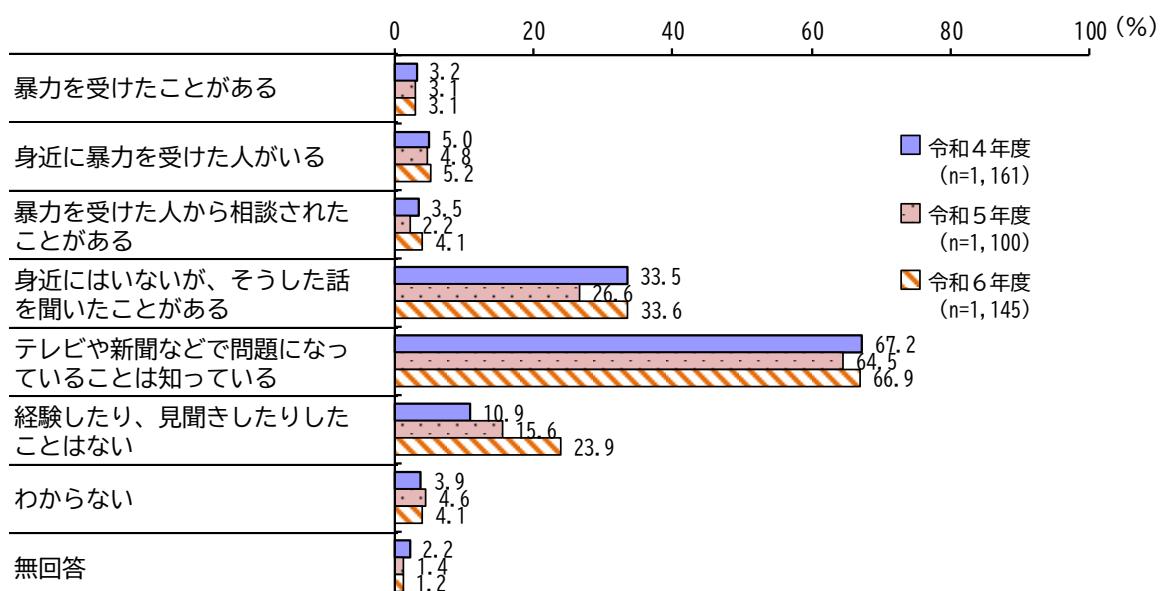
– ドメスティック・バイオレンスを「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が 66.9% –

ドメスティック・バイオレンスを過去1年間に経験したり、見聞きしたりしたことがあるかについて、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」割合が66.9%と最も高く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が33.6%、「経験したり、見聞きしたりしたことない」が23.9%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「経験したり、見聞きしたりしたことない」が令和4年度より増加傾向にあります。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、「経験したり、見聞きしたりしたことはない」と「わからない」を除くいずれの項目も、男性より女性の割合が高くなっています。

年代別でみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、60代（75.9%）と70代以上（73.9%）で7割を超えて高くなっています。

居住地区別でみると、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」は、北上（72.0%）が最も高くなっています。

区分		回答者数（件）	暴力を受けたことがある	身近に暴力を受けた人がいる	暴力とが受けた人から相談され	話を聞いたいこないがあるそ	身近にはいこないがあるそ	テレビや新聞など知つて	経験したり、見聞きしたりし	わからぬ	無回答	単位：%
全体	1,145	3.1	5.2	4.1	33.6	66.9	23.9	4.1	1.2			
性別	男性	509	1.6	3.1	2.6	30.8	65.8	24.4	5.5	1.8		
	女性	630	4.3	6.8	5.4	35.9	67.9	23.5	3.0	0.8		
年 代 別	10代・20代	80	1.3	6.3	6.3	33.8	56.3	26.3	5.0	0.0		
	30代	116	4.3	6.9	4.3	37.9	59.5	25.0	0.9	0.0		
	40代	160	2.5	3.8	3.8	35.6	56.3	22.5	3.1	0.0		
	50代	205	4.9	8.3	5.9	26.8	62.0	21.5	4.4	1.0		
	60代	224	3.1	3.1	2.7	33.0	75.9	20.1	2.2	0.0		
	70代以上	357	2.2	4.5	3.6	35.6	73.9	27.5	6.4	3.4		
居 住 地 区 別	旧市内	269	4.5	4.5	4.5	34.6	61.3	25.7	3.7	1.9		
	北上	243	2.1	2.9	4.5	36.2	72.0	24.7	4.5	0.8		
	錦田	190	1.6	6.8	3.2	34.2	69.5	23.2	5.3	1.1		
	中郷	237	3.8	8.0	5.9	31.6	70.0	24.5	1.3	1.3		

1位

2位

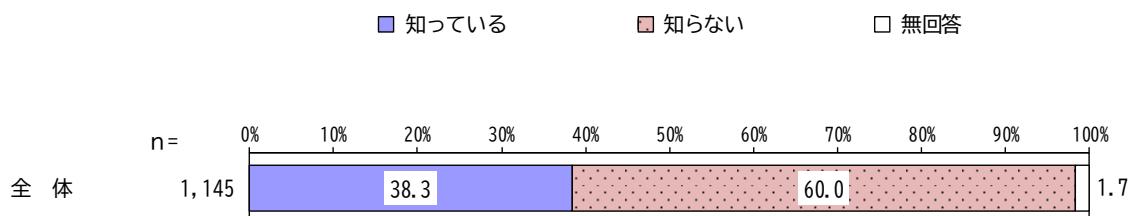
3位

(2) ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口の認知状況

問38 ドメスティック・バイオレンスの相談窓口があることを知っていますか。(○は一つ)

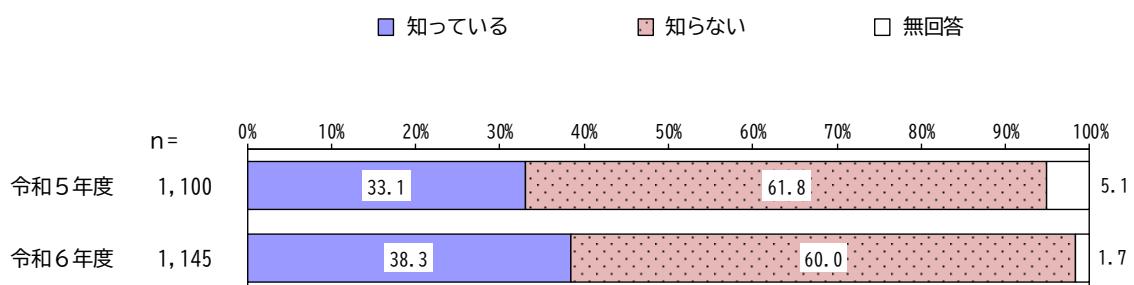
– ドメスティック・バイオレンスの相談窓口を「知っている」は 38.3% –

ドメスティック・バイオレンスに関する相談窓口について、「知っている」が 38.3%、「知らない」が 60.0%となっています。



【経年比較】

過去調査と比較すると、「知っている」の割合は令和5年度より 5.2 ポイント上がっています。



II 調査結果

【属性別比較】

性別でみると、「知っている」（男性 37.3%、女性 39.2%）に大きな差異はみられません。

年代別でみると、「知っている」は、40代（45.0%）が最も高くなっています。

居住地区別でみると、「知っている」は、錦田（44.2%）が最も高くなっています。

